

**「第4次南島原市男女共同参画計画」
策定にかかるアンケート調査
結果報告書**

**令和4年6月
南島原市**

目 次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 回収結果.....	1
4 報告書の見方.....	1
II アンケート調査結果.....	2
1 あなた自身について.....	2
2 男女平等について.....	5
3 家庭生活・地域活動について.....	25
4 就労およびワーク・ライフ・バランスについて.....	43
5 セクハラ・DV・性的マイノリティについて.....	58
6 防災・災害復興対策について.....	80
7 女性の活躍推進・男女共同参画社会づくりについて.....	82

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第4次南島原市男女共同参画計画の策定にあたって、皆様の男女共同参画に関する考えやご意見などを参考とさせていただくことを目的として実施しました。

2 調査概要

- ◇調査対象者：無作為に抽出された20歳以上80歳未満の市民の方1,000名
- ◇調査期間：令和4年1月6日（木）～2月11日（金）
- ◇調査方法：郵送配布・郵送回収による本人記入方式

3 回収結果

- ◇配布数：1,000件
- ◇有効回収数：391件
- ◇有効回収率：39.1%

4 報告書の見方

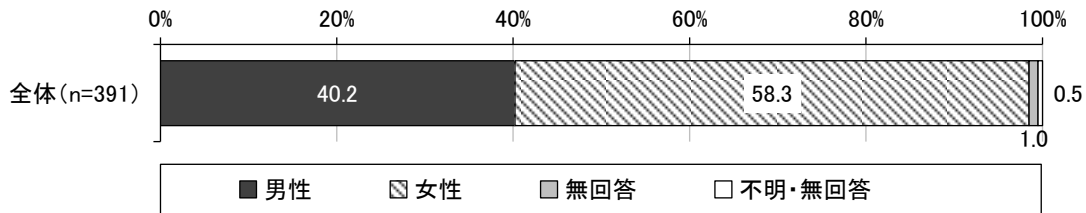
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇「不明・無回答」を除き、回答の高いもの**第1位**、**第2位**、**第3位**に網掛けをしています。
- ◇集計対象者総数（n）が少ない（10件未満）クロス集計については、分析文の記載を省略しています。

Ⅱ アンケート調査結果

Ⅰ あなた自身について

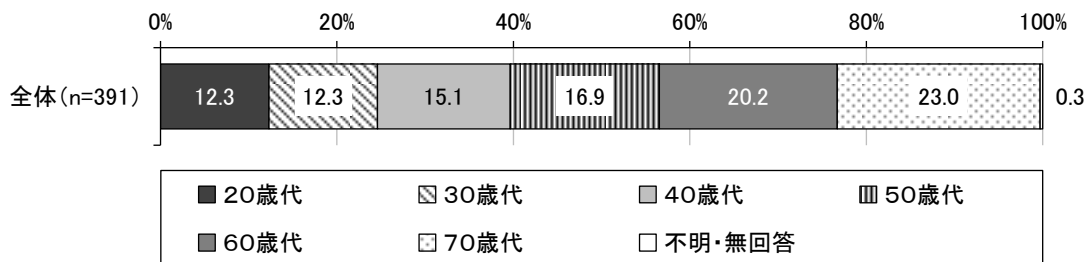
F 1 性別について（単数回答）

性別についてみると、「女性」が58.3%と最も高く、次いで「男性」が40.2%、「無回答」が1.0%となっています。



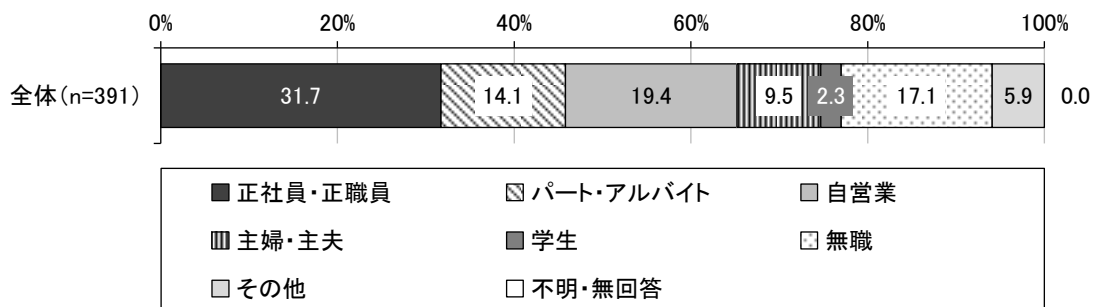
F 2 年齢について（※令和4年1月1日現在）（単数回答）

年齢についてみると、「70歳代」が23.0%と最も高く、次いで「60歳代」が20.2%、「50歳代」が16.9%となっています。



F 3 職業について（単数回答）

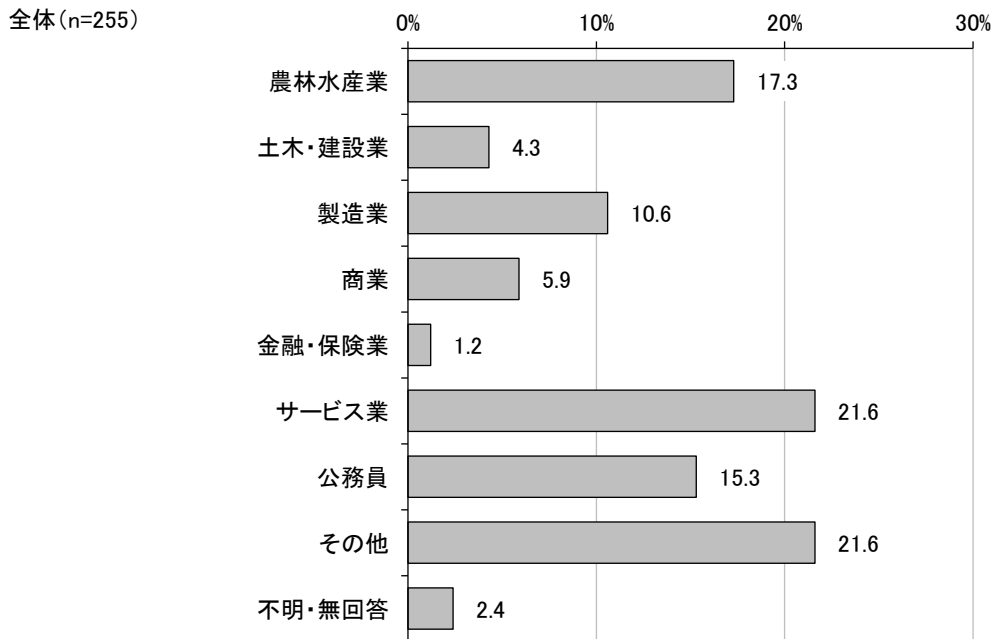
職業についてみると、「正社員・正職員」が31.7%と最も高く、次いで「自営業」が19.4%、「無職」が17.1%となっています。



※F3で「正社員・正職員」「パート・アルバイト」「自営業」と答えた人のみ

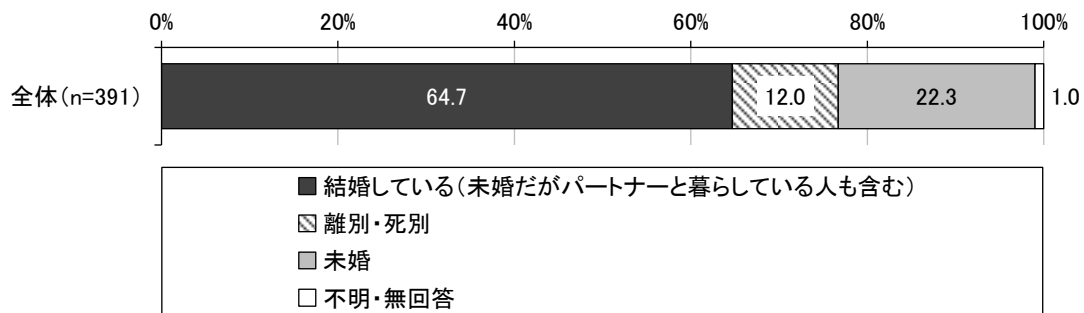
F4 従事している職業について（単数回答）

従事している職業についてみると、「サービス業」「その他」が21.6%と最も高く、次いで「農林水産業」が17.3%、「公務員」が15.3%となっています。



F5 結婚について（単数回答）

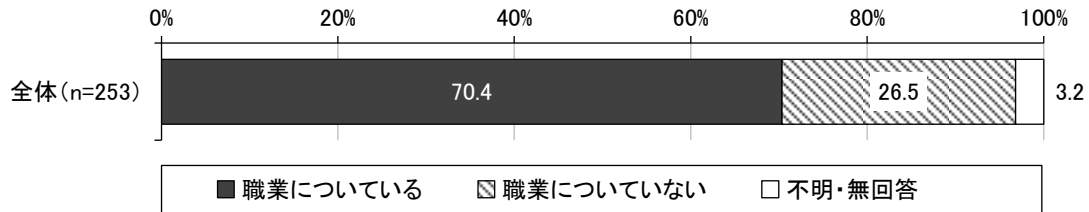
結婚についてみると、「結婚している（未婚だがパートナーと暮らしている人も含む）」が64.7%と最も高く、次いで「未婚」が22.3%、「離別・死別」が12.0%となっています。



※F5で「結婚している（未婚だがパートナーと暮らしている人も含む）」と答えた人のみ

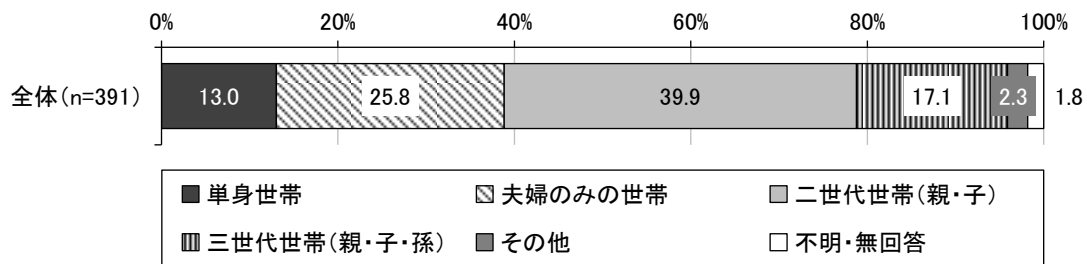
F6 配偶者・パートナーの職業について（単数回答）

配偶者・パートナーの職業についてみると、「職業についている」が70.4%と、「職業についていない」の26.5%を上回っています。



F7 世帯について（単数回答）

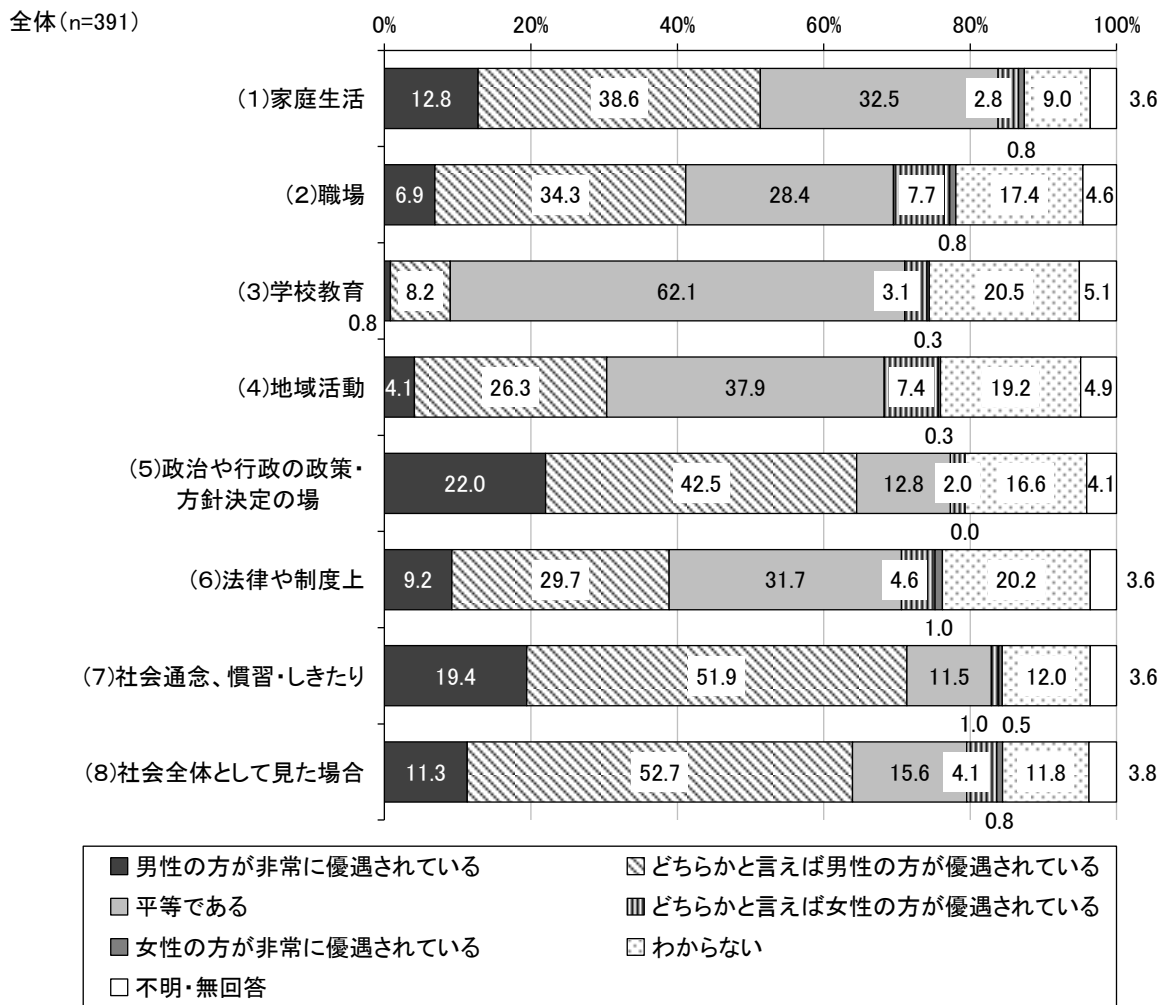
世帯についてみると、「二世帯世帯（親・子）」が39.9%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が25.8%、「三世帯世帯（親・子・孫）」が17.1%となっています。



2 男女平等について

問1 あなたは、次の分野において男女は平等になっていると思いますか。(1)～(8)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つずつお選びください。

各分野における男女の平等感についてみると、(3)学校教育、(4)地域活動、(6)法律や制度上では「平等である」、そのほかの分野では「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」がそれぞれ最も高くなっています。

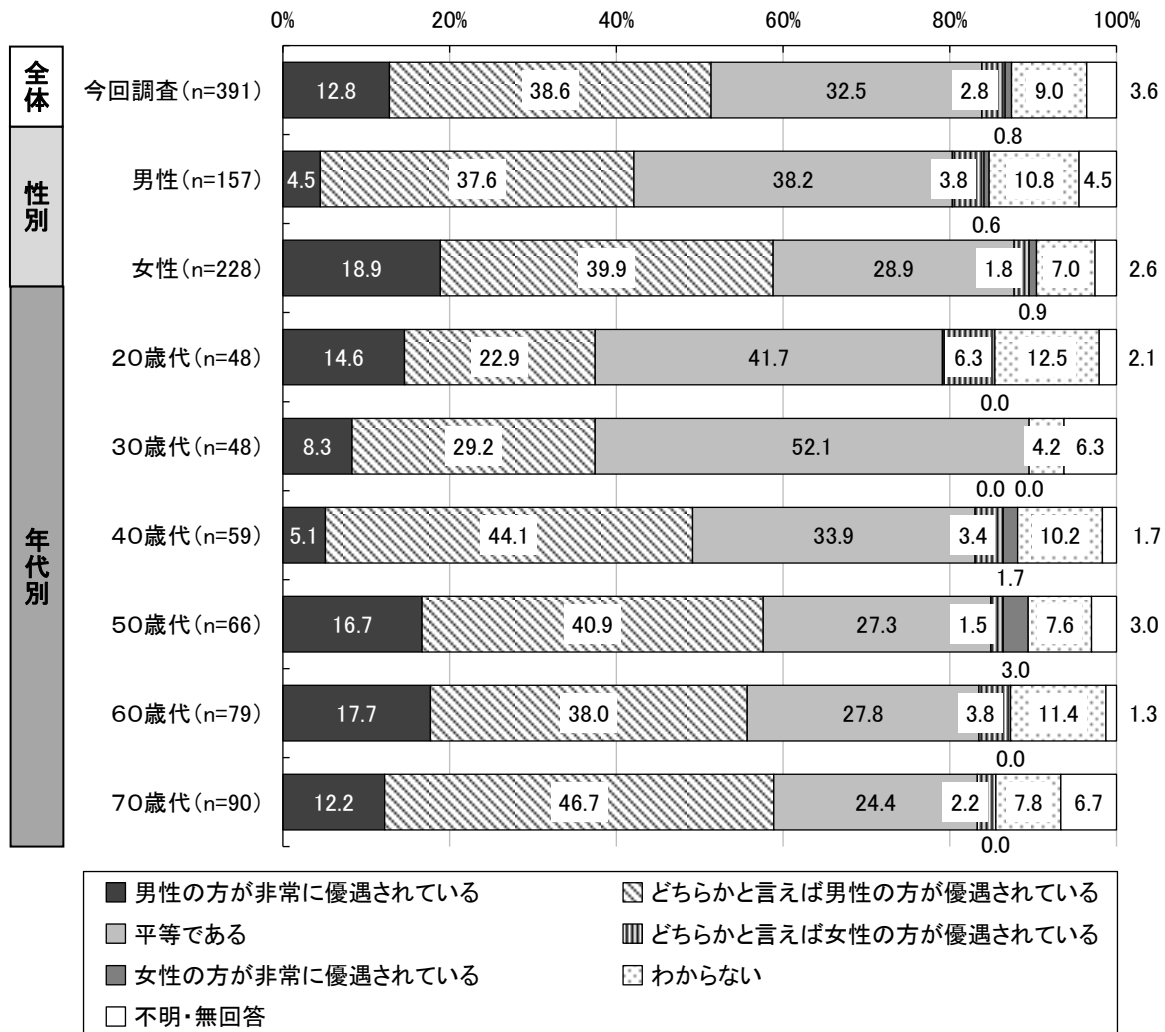


問1(1)家庭生活

家庭生活についてみると、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が38.6%と最も高く、次いで「平等である」が32.5%、「男性の方が非常に優遇されている」が12.8%となっています。

性別にみると、男性では「平等である」、女性では「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代、30歳代では「平等である」、40歳代以上では「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」がそれぞれ最も高くなっています。

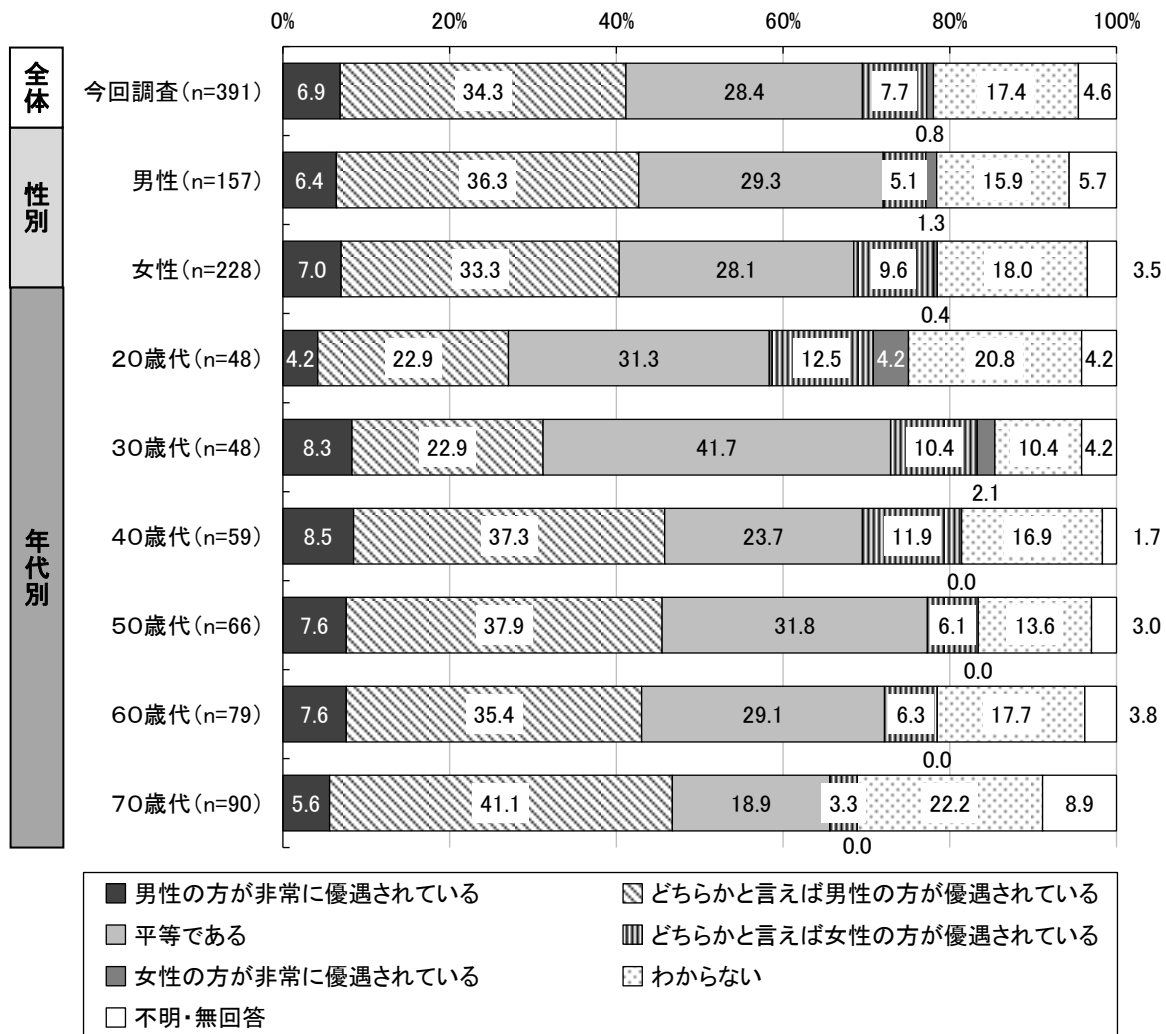


問1(2)職場

職場についてみると、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が34.3%と最も高く、次いで「平等である」が28.4%、「わからない」が17.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代、30歳代では「平等である」、40歳代以上では「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」がそれぞれ最も高くなっています。

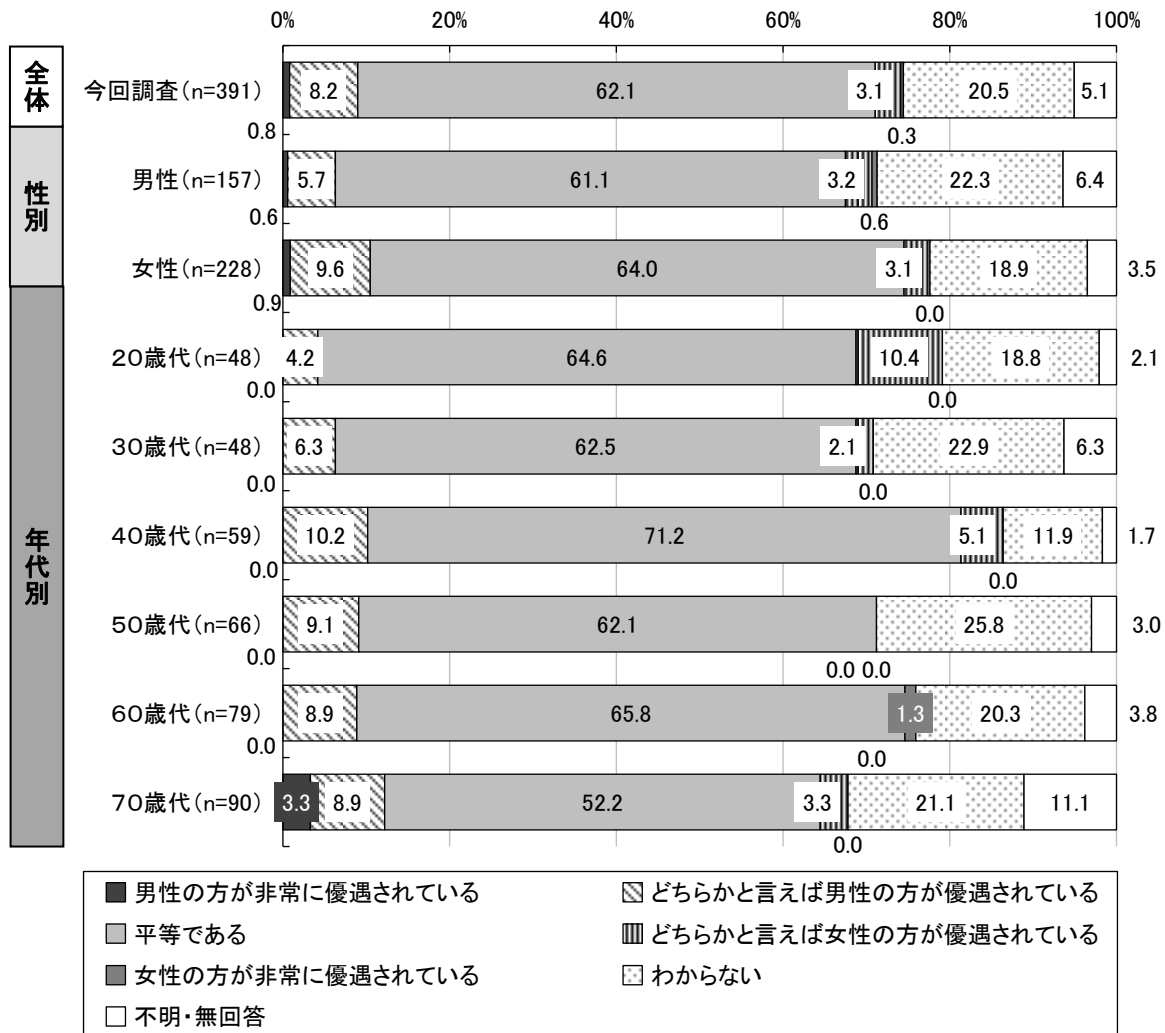


問1(3)学校教育

学校教育についてみると、「平等である」が62.1%と最も高く、次いで「わからない」が20.5%、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が8.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「平等である」が最も高くなっています。

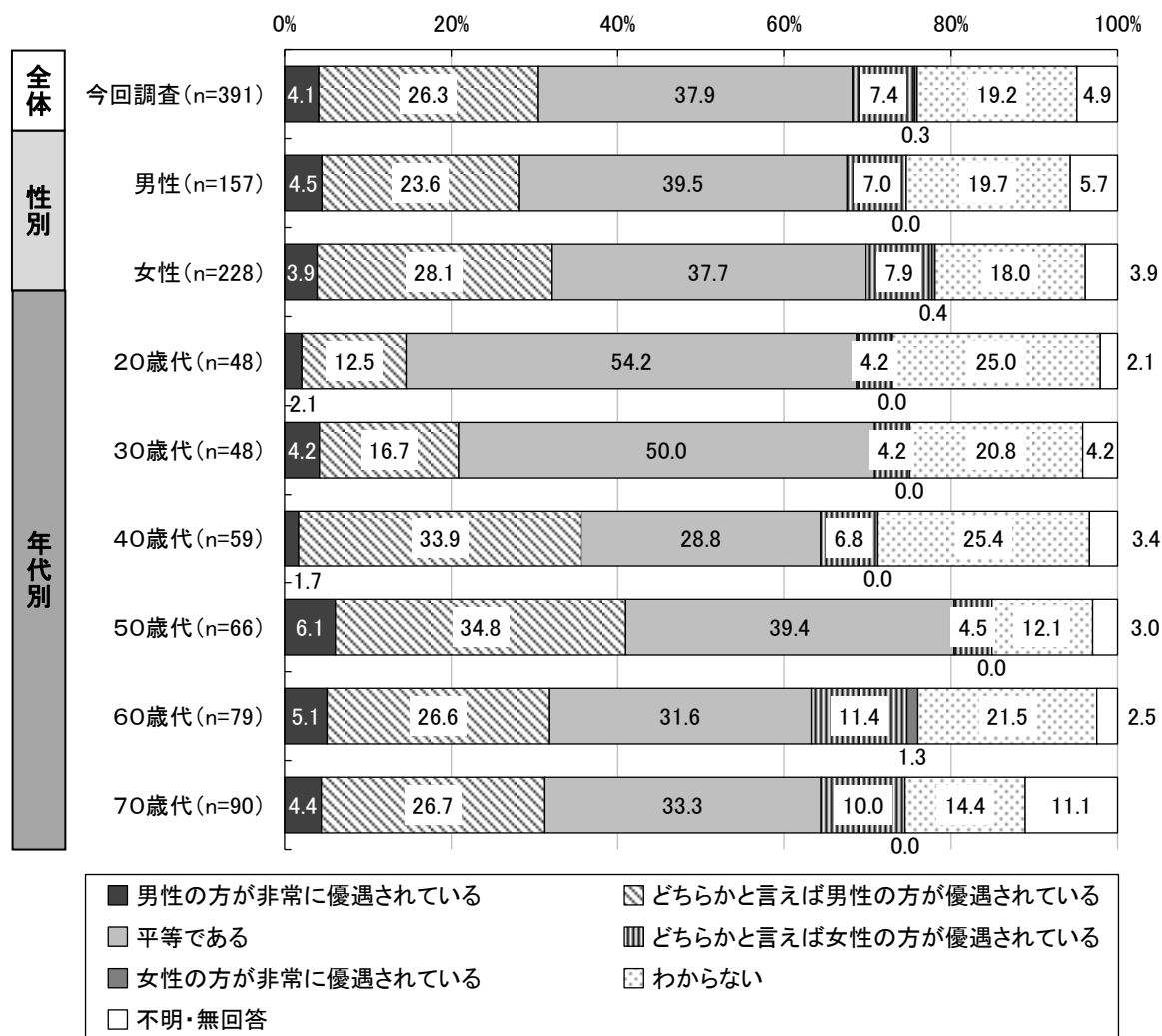


問1(4)地域活動

地域活動についてみると、「平等である」が37.9%と最も高く、次いで「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が26.3%、「わからない」が19.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代、30歳代、50歳代以上では「平等である」、40歳代では「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」がそれぞれ最も高くなっています。

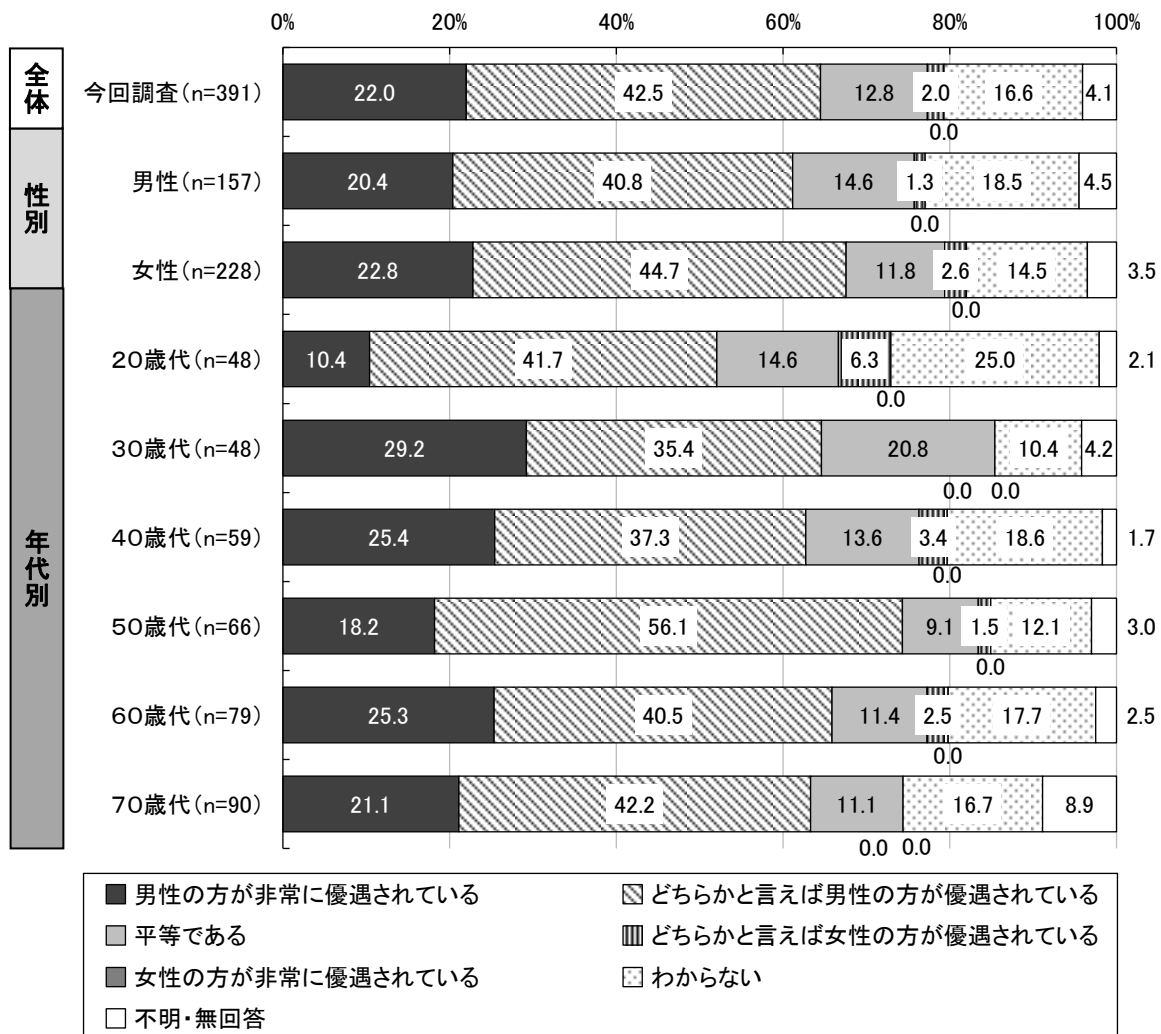


問1(5)政治や行政の政策・方針決定の場

政治や行政の政策・方針決定の場についてみると、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が42.5%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が22.0%、「わからない」が16.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。

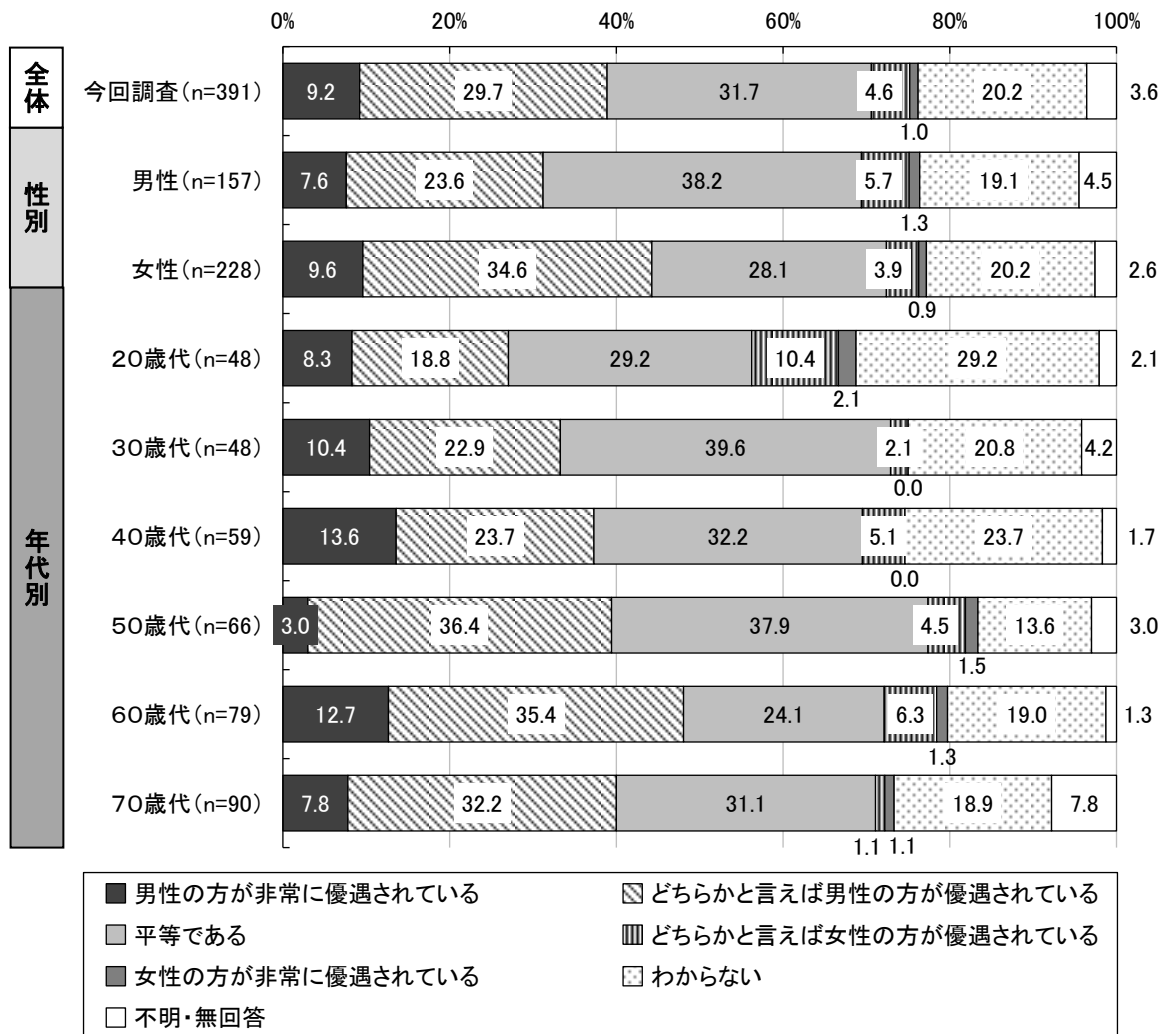


問1(6) 法律や制度上

法律や制度上についてみると、「平等である」が31.7%と最も高く、次いで「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が29.7%、「わからない」が20.2%となっています。

性別にみると、男性では「平等である」、女性では「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代から50歳代では「平等である」、60歳代以上では「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」がそれぞれ最も高くなっています。20歳代では「平等である」「わからない」がともに最も高くなっています。

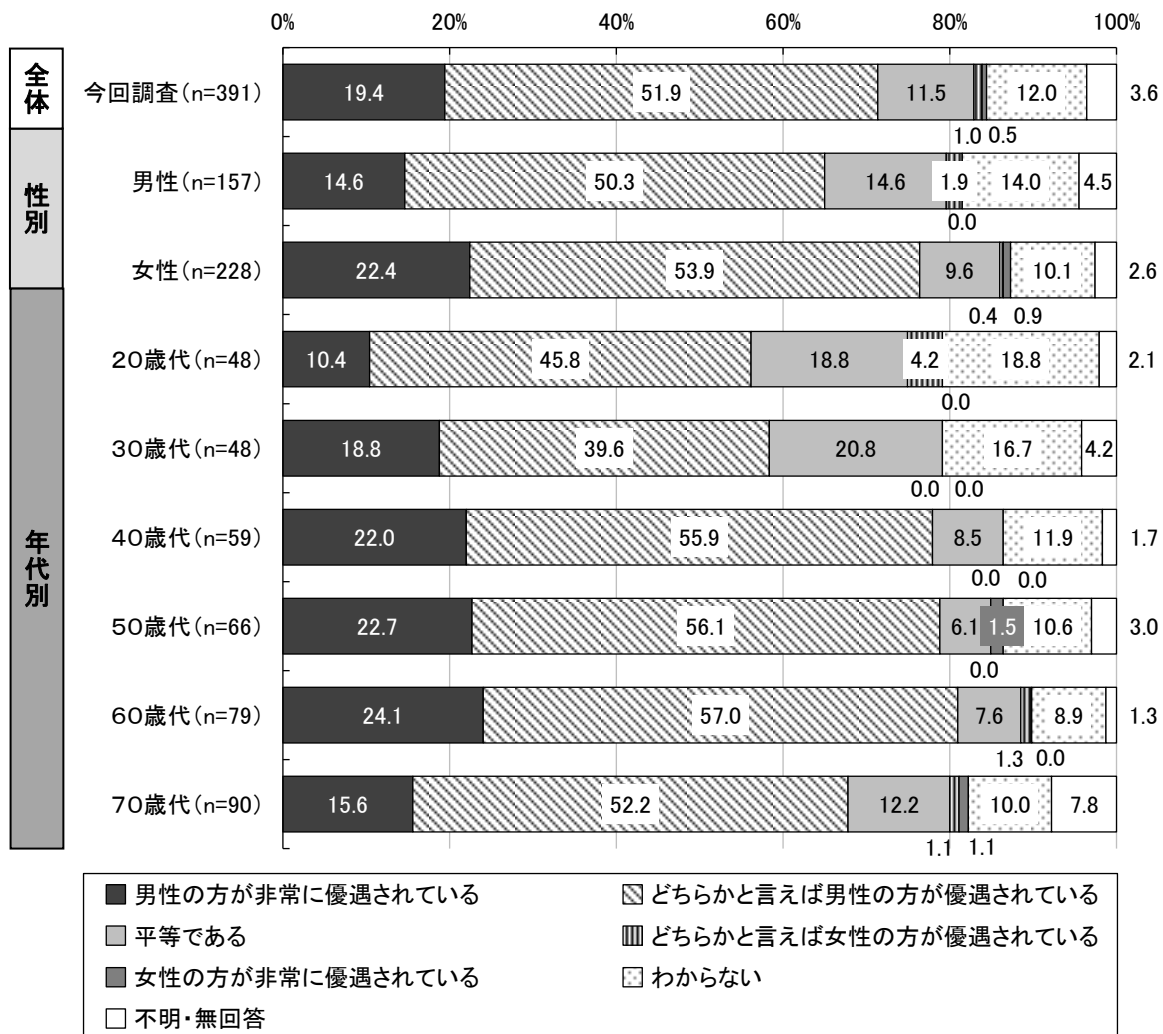


問1(7)社会通念、慣習・しきたり

社会通念、慣習・しきたりについてみると、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が51.9%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が19.4%、「わからない」が12.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。

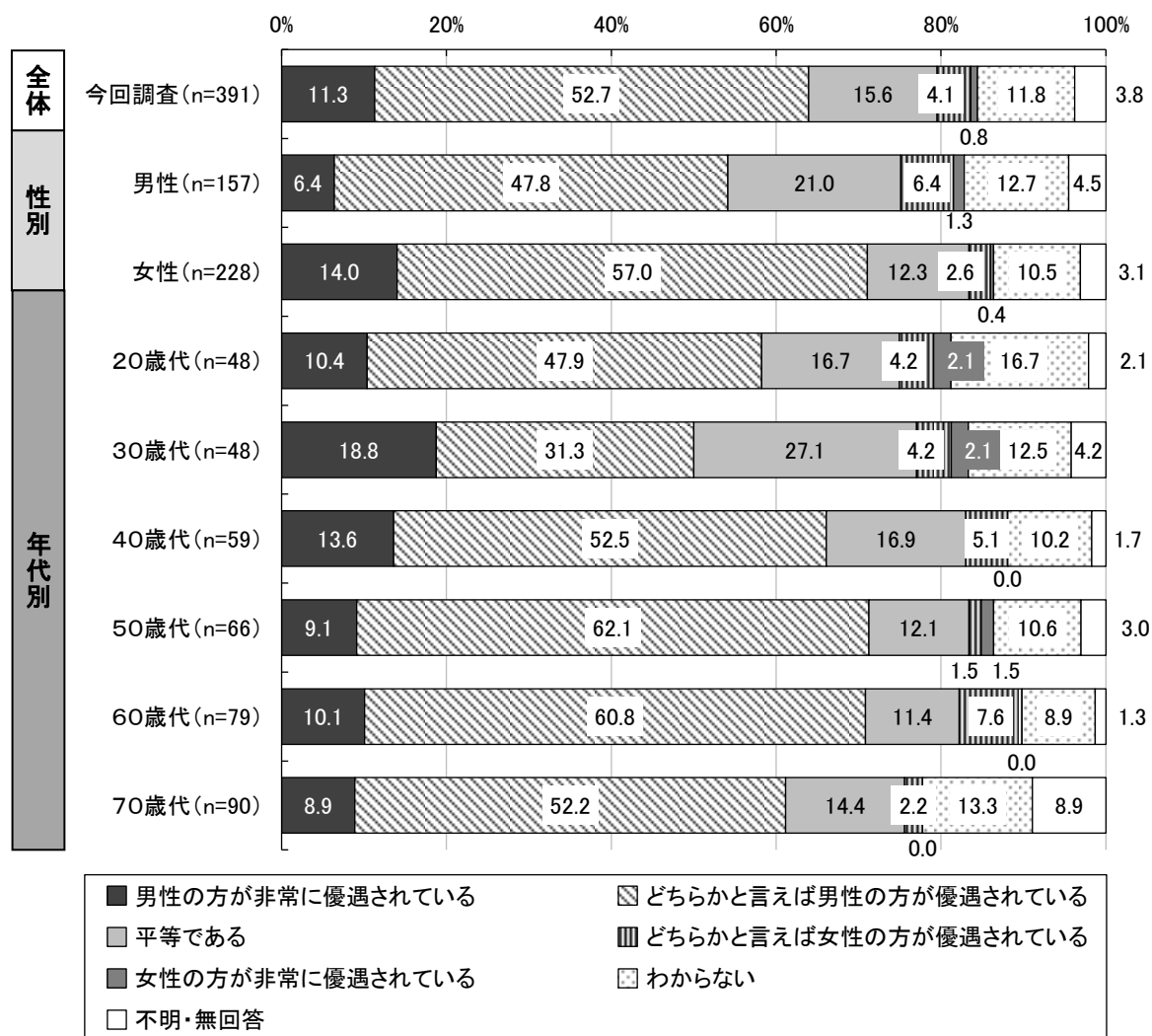


問1(8)社会全体として見た場合

社会全体として見た場合についてみると、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が52.7%と最も高く、次いで「平等である」が15.6%、「わからない」が11.8%となっています。

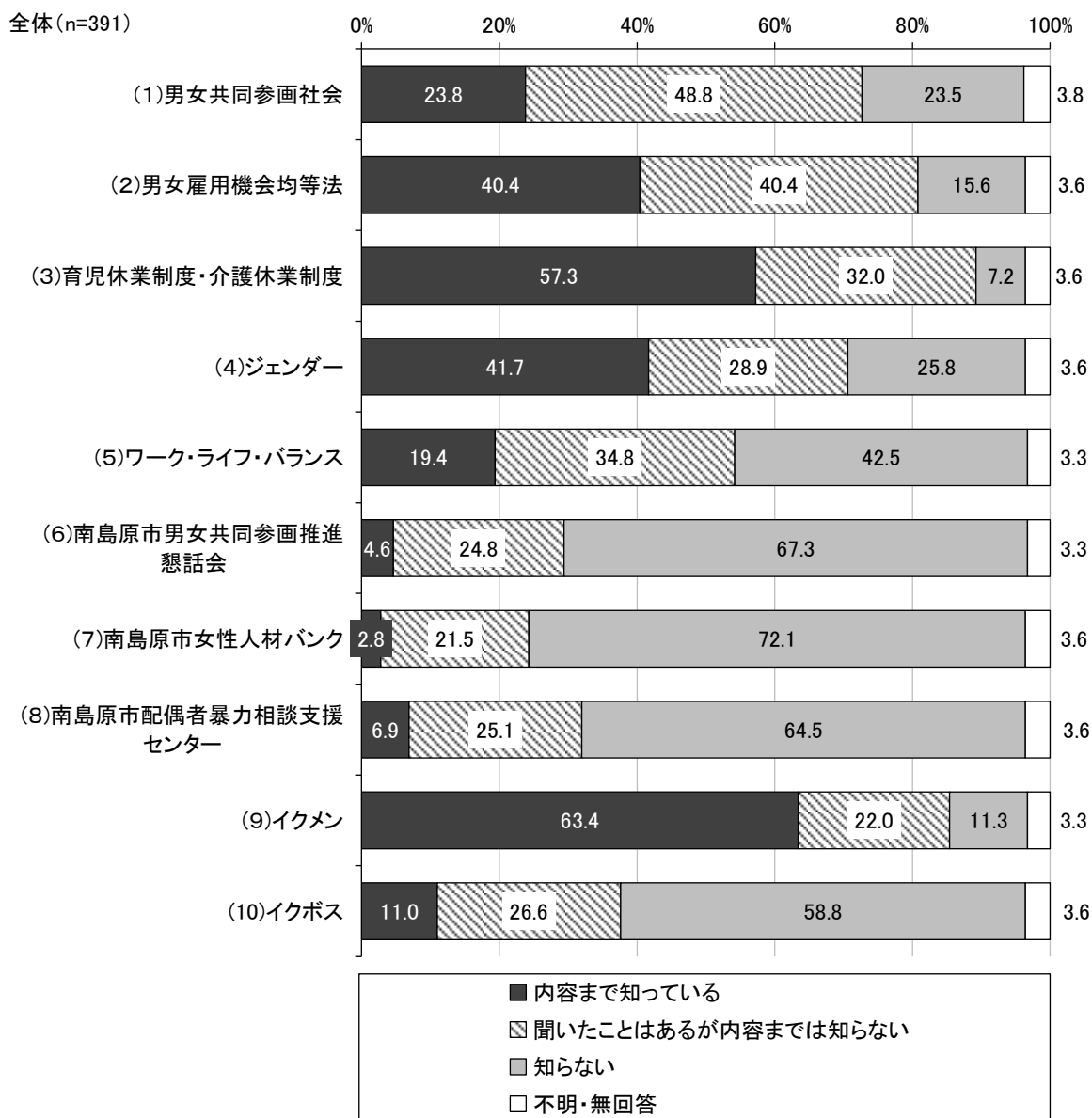
性別にみると、男女ともに「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



問2 あなたは、次あげる言葉を知っていますか。(1)～(10)のそれぞれについて、1つずつお選びください。

各言葉の認知度についてみると、(3)育児休業制度・介護休業制度、(4)ジェンダー、(9)イクメンでは「内容まで知っている」、(1)男女共同参画社会では「聞いたことはあるが内容までは知らない」、そのほかの言葉では「知らない」がそれぞれ最も高くなっています。(2)男女雇用機会均等法では「内容まで知っている」「聞いたことはあるが内容までは知らない」がともに最も高くなっています。

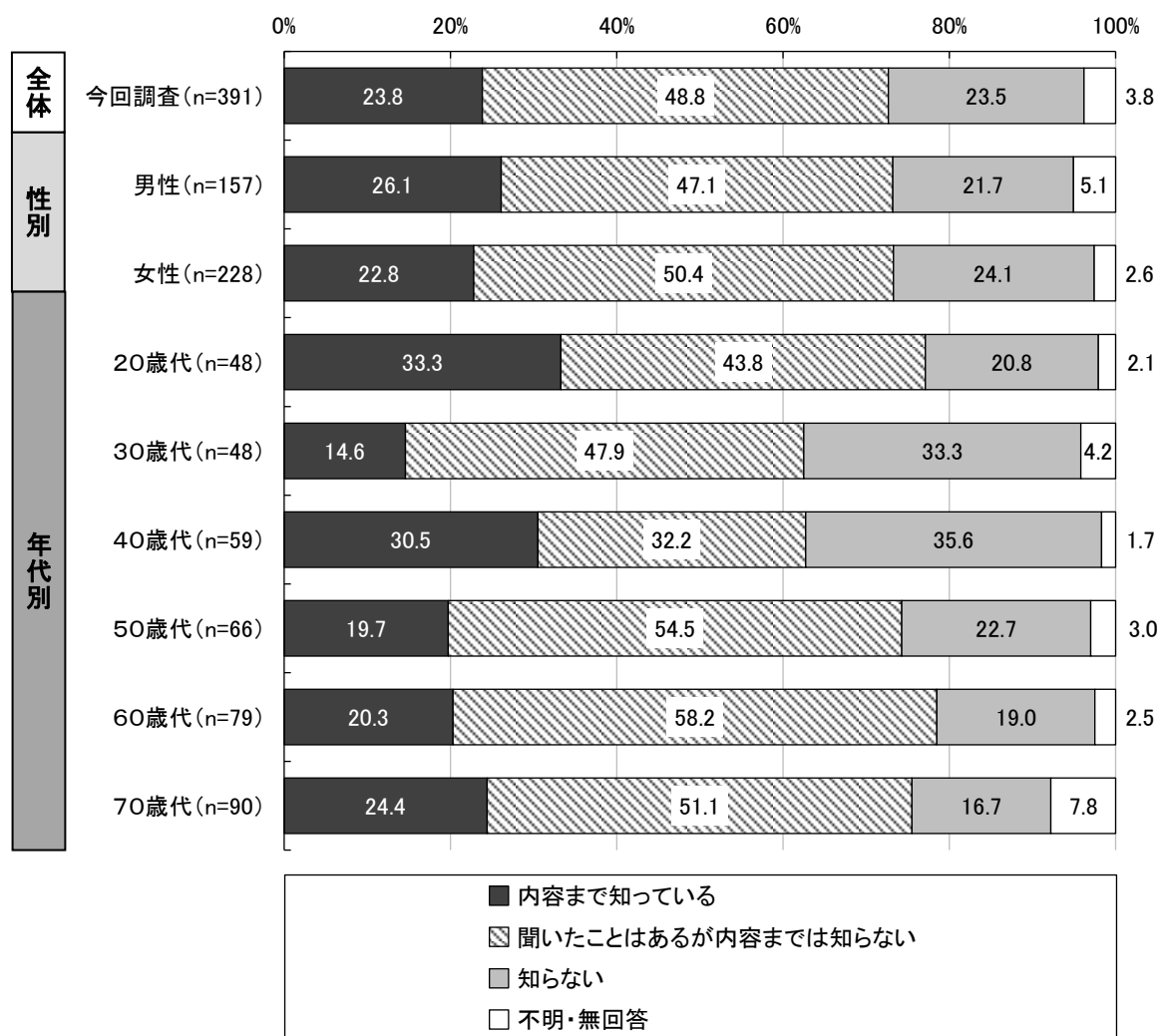


問2(1)男女共同参画社会

男女共同参画社会についてみると、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が48.8%と最も高く、次いで「内容まで知っている」が23.8%、「知らない」が23.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「聞いたことはあるが内容までは知らない」が最も高くなっています。

年代別にみると、40歳代では「知らない」、そのほかの年代では「聞いたことはあるが内容までは知らない」がそれぞれ最も高くなっています。

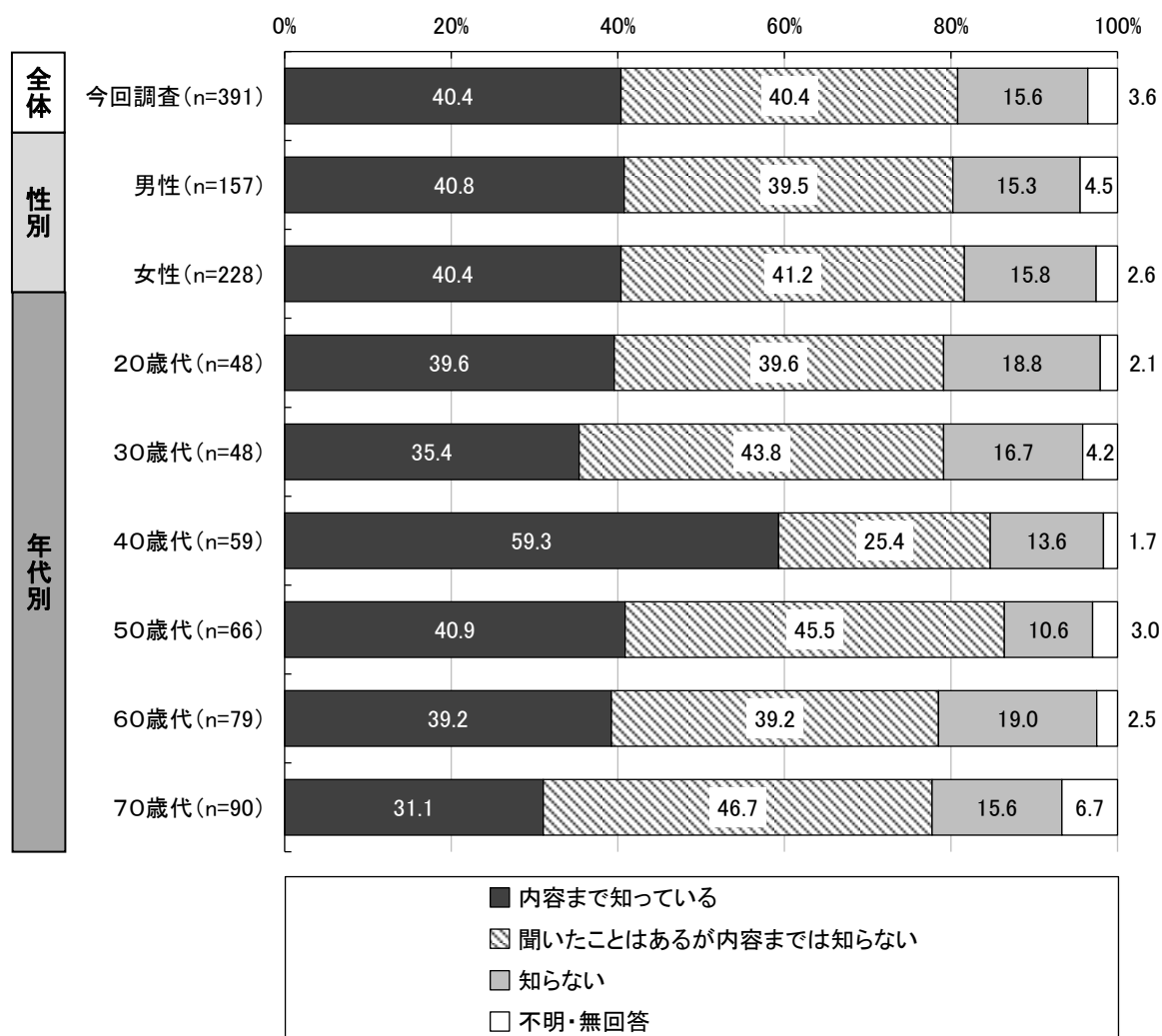


問2(2)男女雇用機会均等法

男女雇用機会均等法についてみると、「内容まで知っている」「聞いたことはあるが内容までは知らない」がともに40.4%と最も高く、次いで「知らない」が15.6%となっています。

性別にみると、男性では「内容まで知っている」、女性では「聞いたことはあるが内容までは知らない」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、40歳代では「内容まで知っている」、30歳代、50歳代、70歳代では「聞いたことはあるが内容までは知らない」がそれぞれ最も高くなっています。20歳代、60歳代では「内容まで知っている」「聞いたことはあるが内容までは知らない」がともに最も高くなっています。

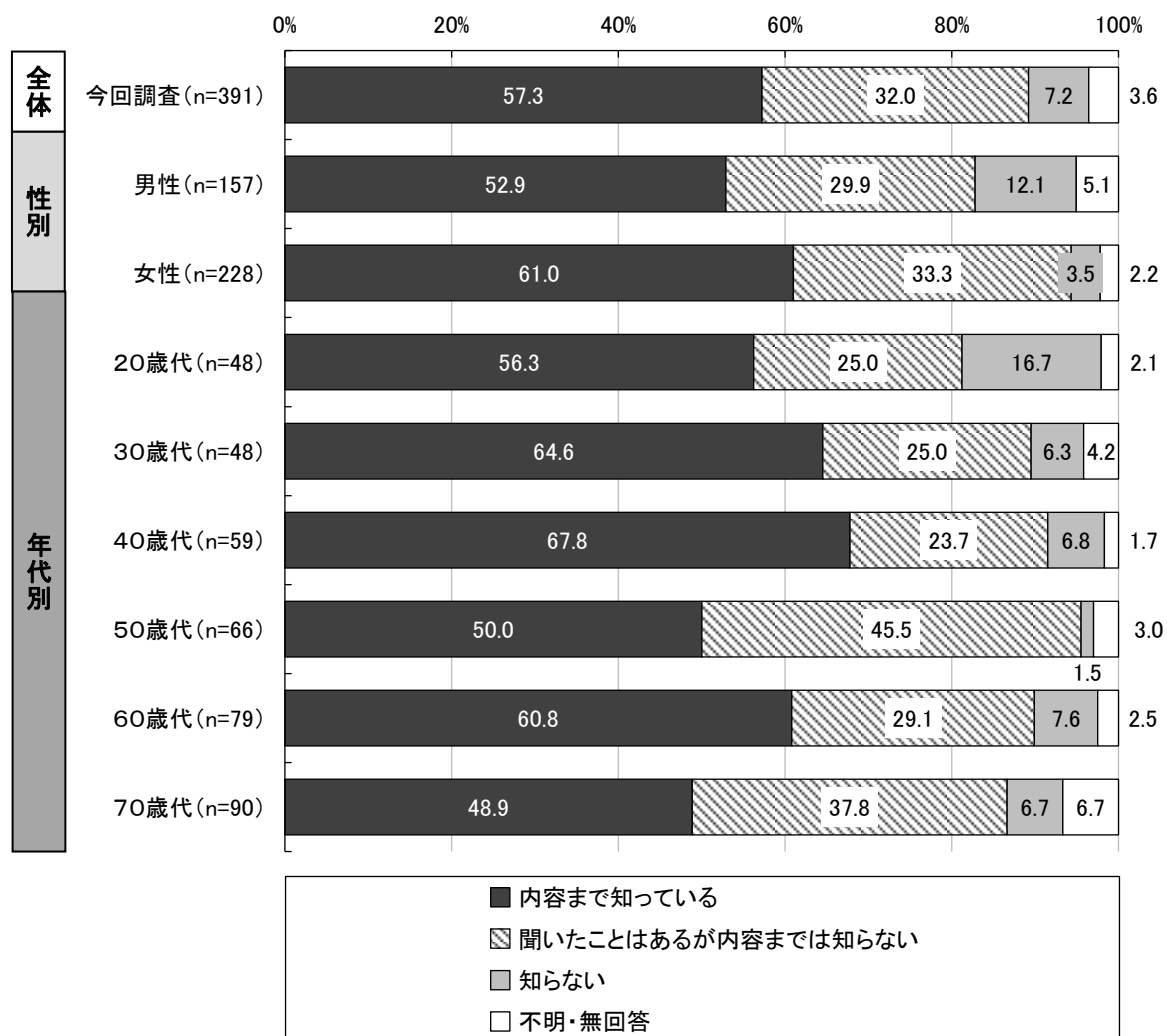


問2(3) 育児休業制度・介護休業制度

育児休業制度・介護休業制度についてみると、「内容まで知っている」が57.3%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が32.0%、「知らない」が7.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「内容まで知っている」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「内容まで知っている」が最も高くなっています。

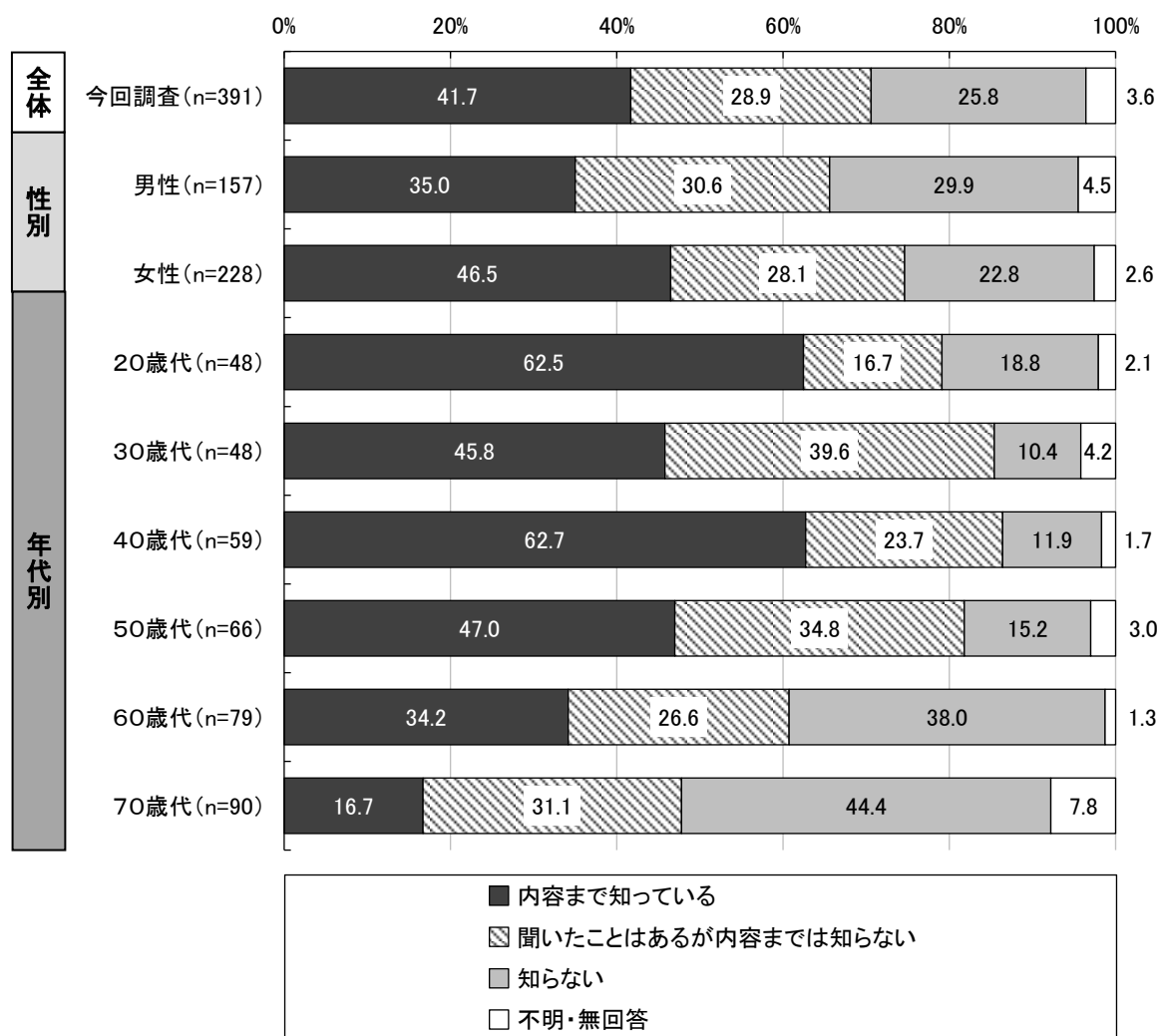


問2(4)ジェンダー

ジェンダーについてみると、「内容まで知っている」が41.7%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が28.9%、「知らない」が25.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「内容まで知っている」が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代から50歳代では「内容まで知っている」、60歳代以上では「知らない」がそれぞれ最も高くなっています。

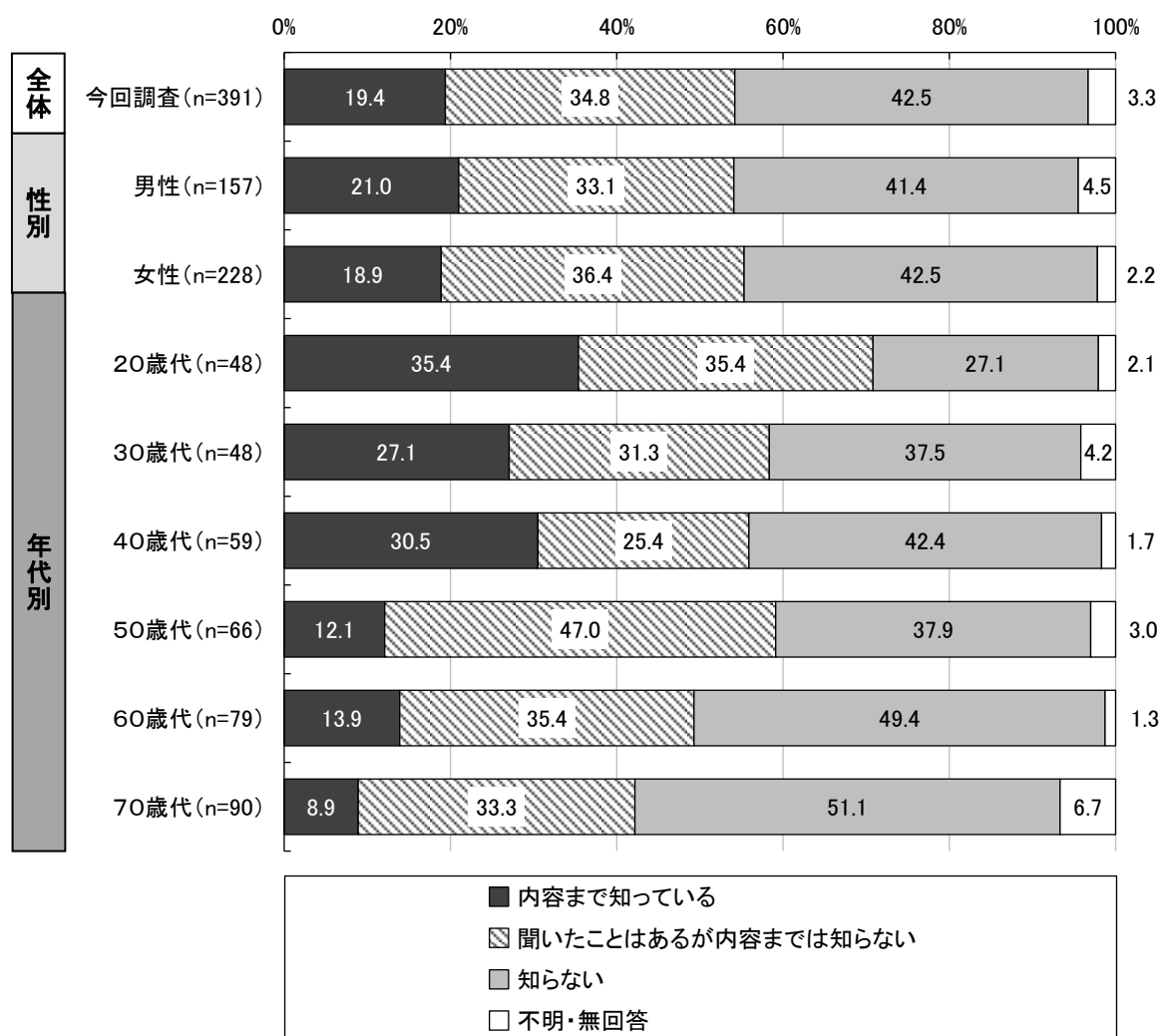


問2(5)ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランスについてみると、「知らない」が42.5%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が34.8%、「内容まで知っている」が19.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代では「内容まで知っている」「聞いたことはあるが内容までは知らない」がともに最も高く、50歳代では「聞いたことはあるが内容までは知らない」、そのほかの年代では「知らない」がそれぞれ最も高くなっています。

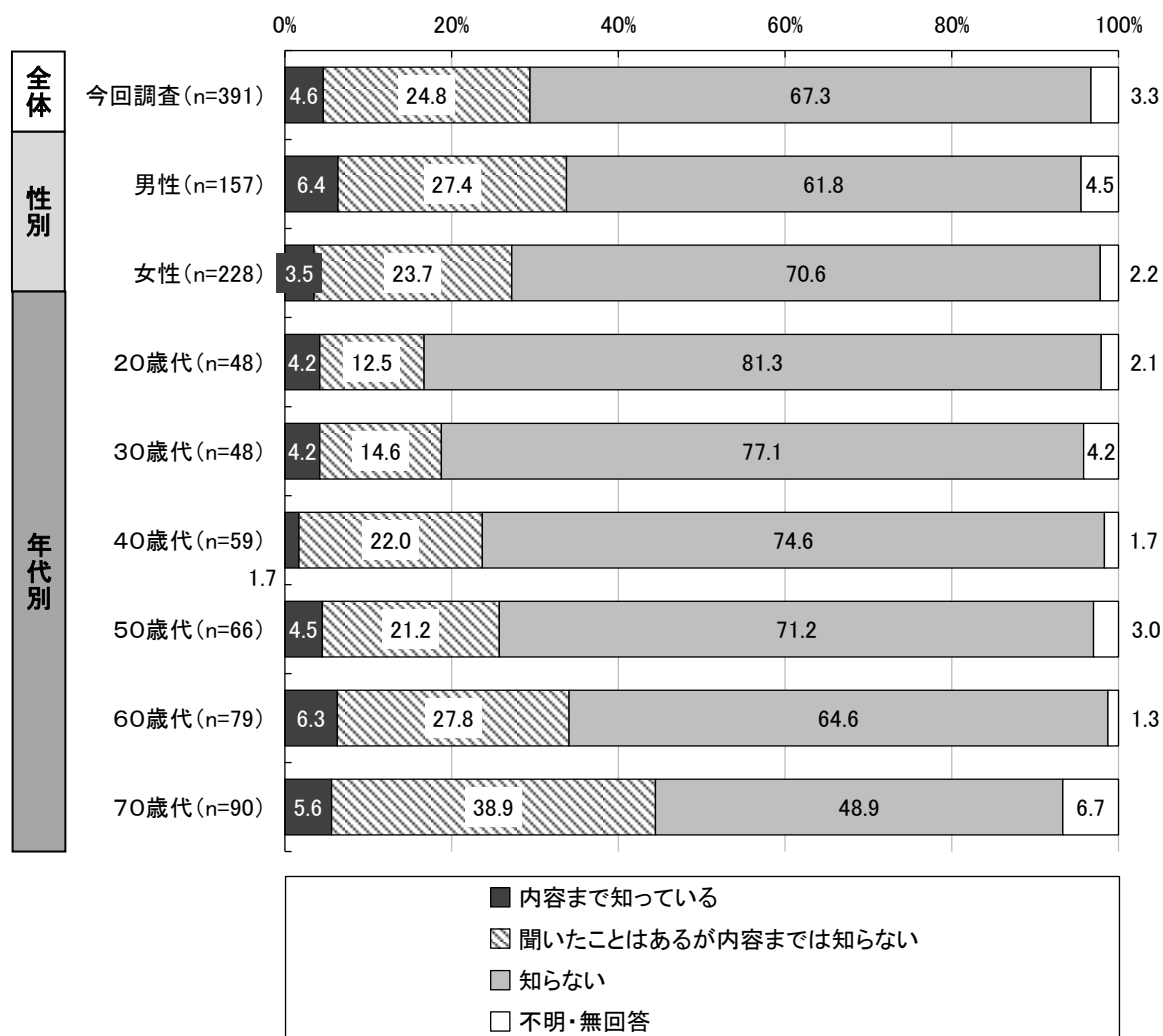


問2(6)南島原市男女共同参画推進懇話会

南島原市男女共同参画推進懇話会についてみると、「知らない」が67.3%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が24.8%、「内容まで知っている」が4.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「知らない」が最も高くなっています。

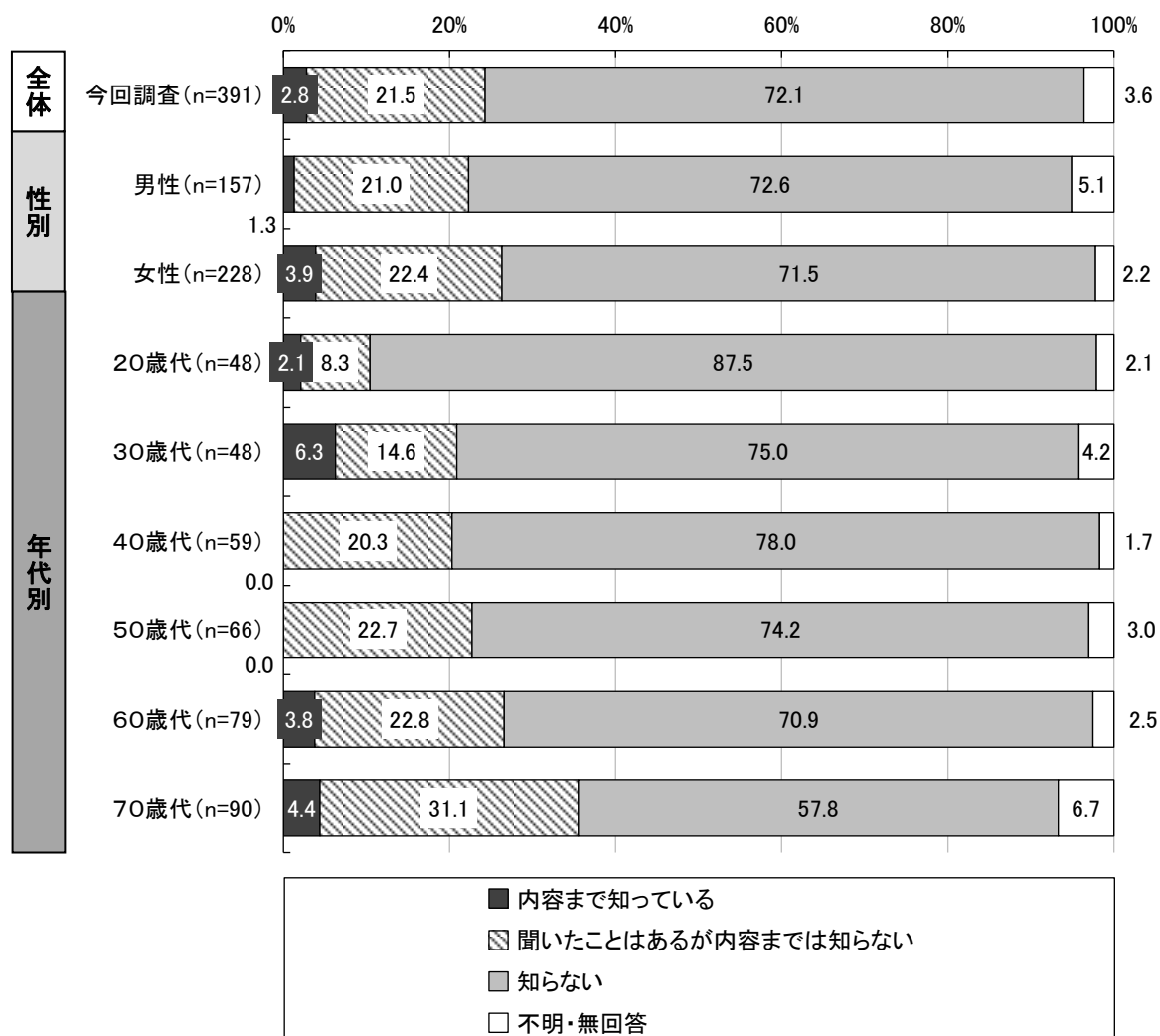


問2(7)南島原市女性人材バンク

南島原市女性人材バンクについてみると、「知らない」が72.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が21.5%、「内容まで知っている」が2.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「知らない」が最も高くなっています。

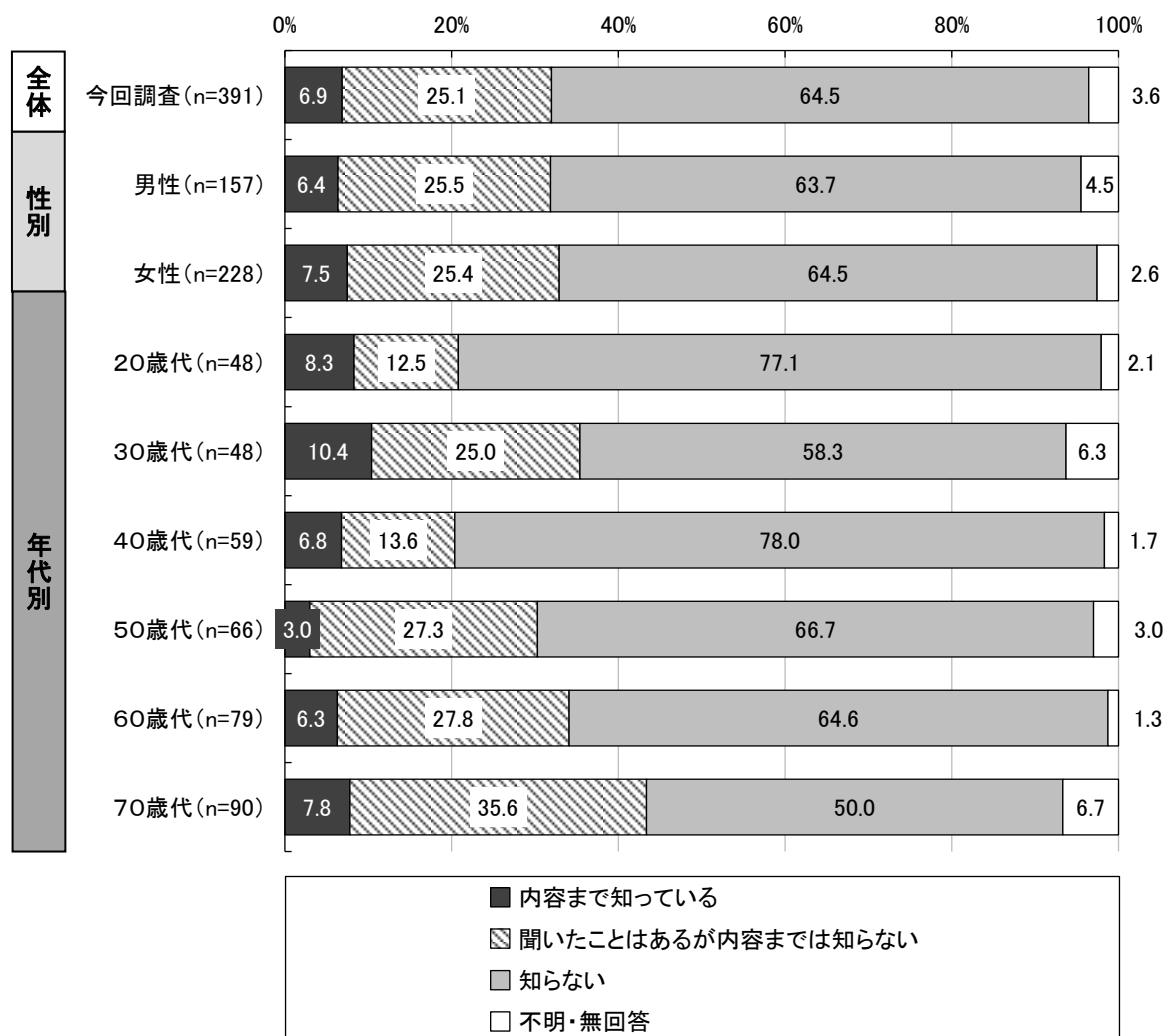


問 2 (8) 南島原市配偶者暴力相談支援センター

南島原市配偶者暴力相談支援センターについてみると、「知らない」が64.5%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が25.1%、「内容まで知っている」が6.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「知らない」が最も高くなっています。

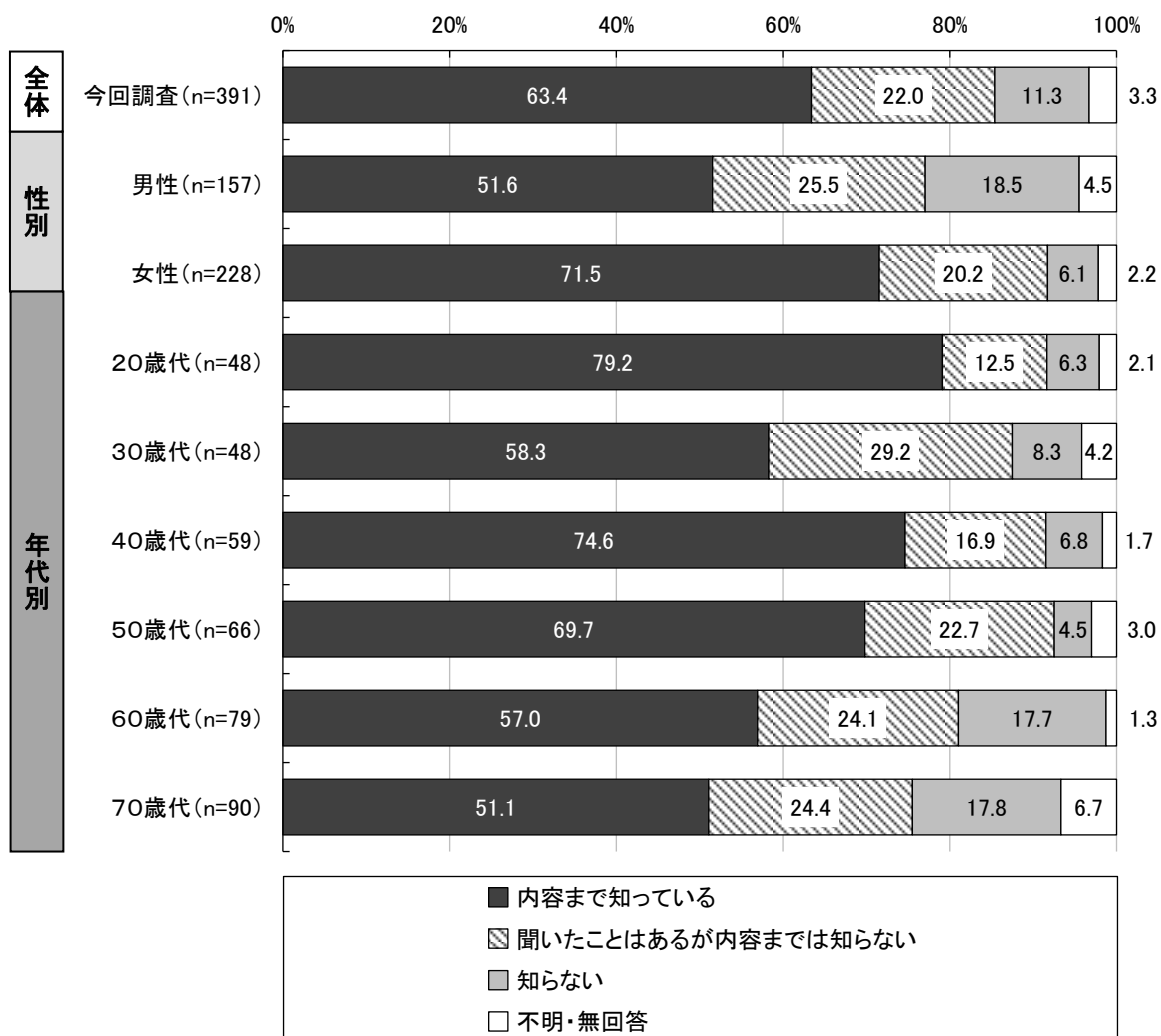


問2(9)イクメン

イクメンについてみると、「内容まで知っている」が63.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が22.0%、「知らない」が11.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「内容まで知っている」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「内容まで知っている」が最も高くなっています。

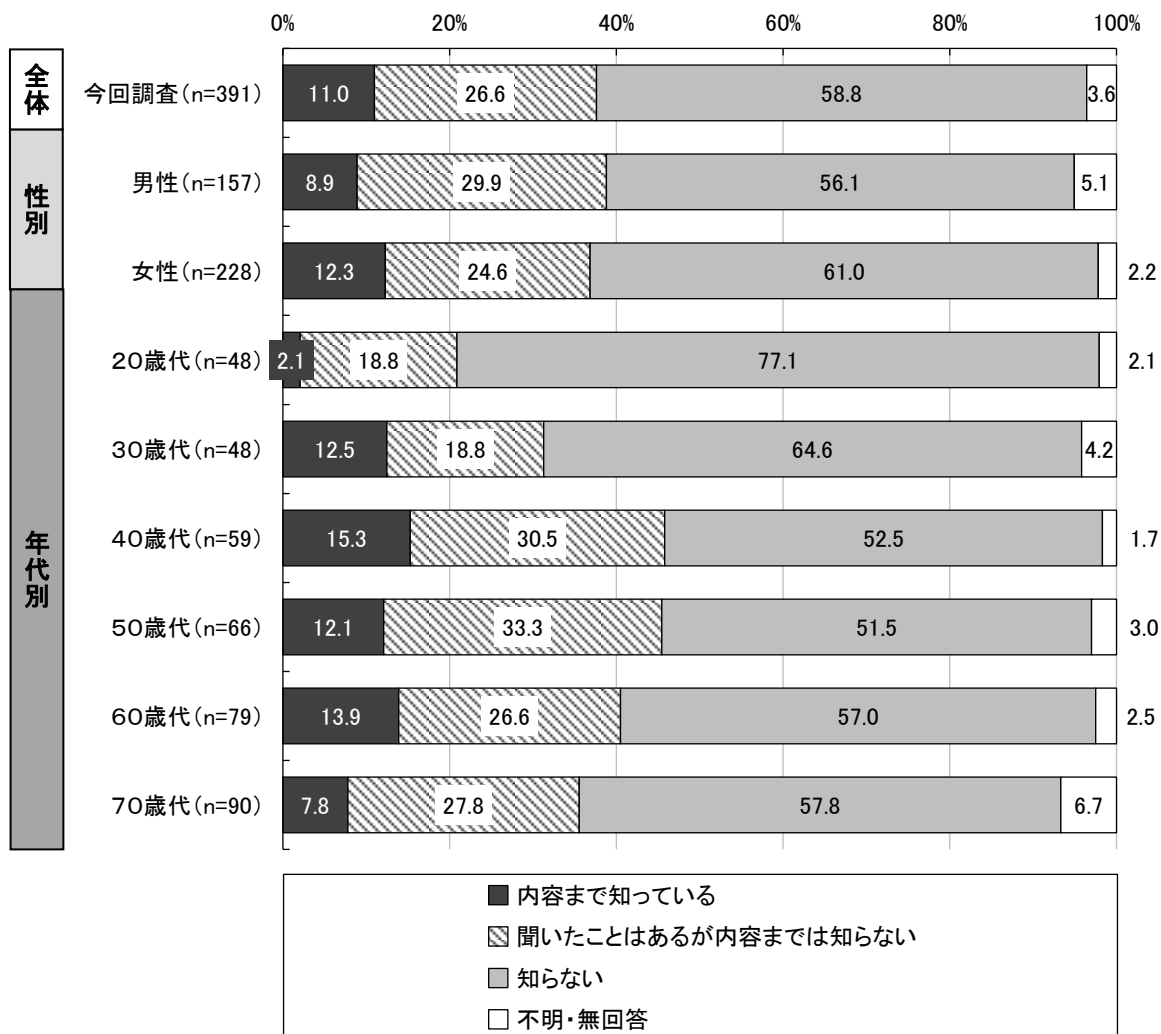


問2 (10) イクボス

イクボスについてみると、「知らない」が58.8%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が26.6%、「内容まで知っている」が11.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「知らない」が最も高くなっています。



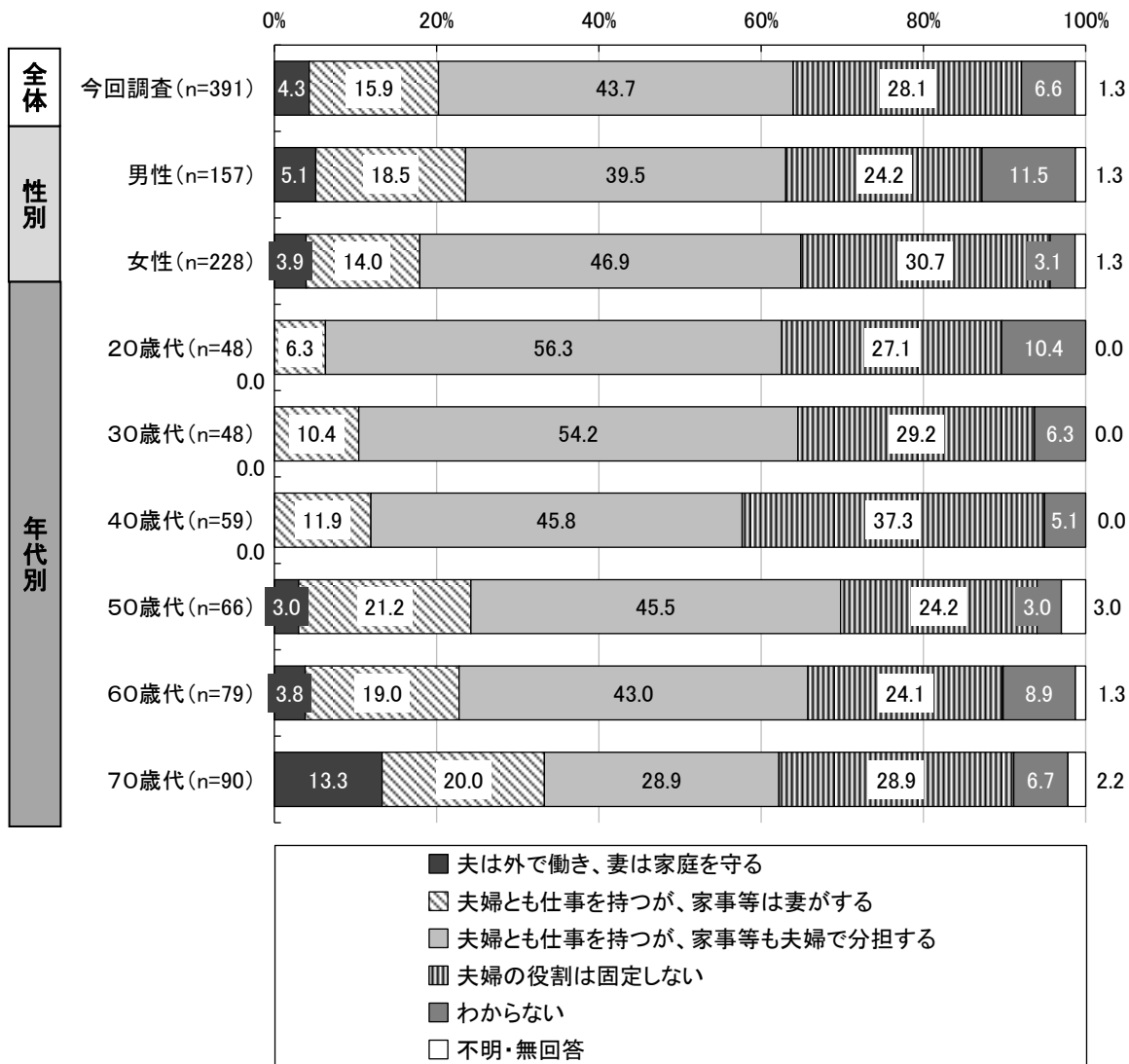
3 家庭生活・地域活動について

問3 家庭生活における夫婦の役割分担について、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

家庭生活における夫婦の役割分担についての考えについてみると、「夫婦とも仕事を持つが、家事等も夫婦で分担する」が43.7%と最も高く、次いで「夫婦の役割は固定しない」が28.1%、「夫婦とも仕事を持つが、家事等は妻がする」が15.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「夫婦とも仕事を持つが、家事等も夫婦で分担する」が最も高くなっています。

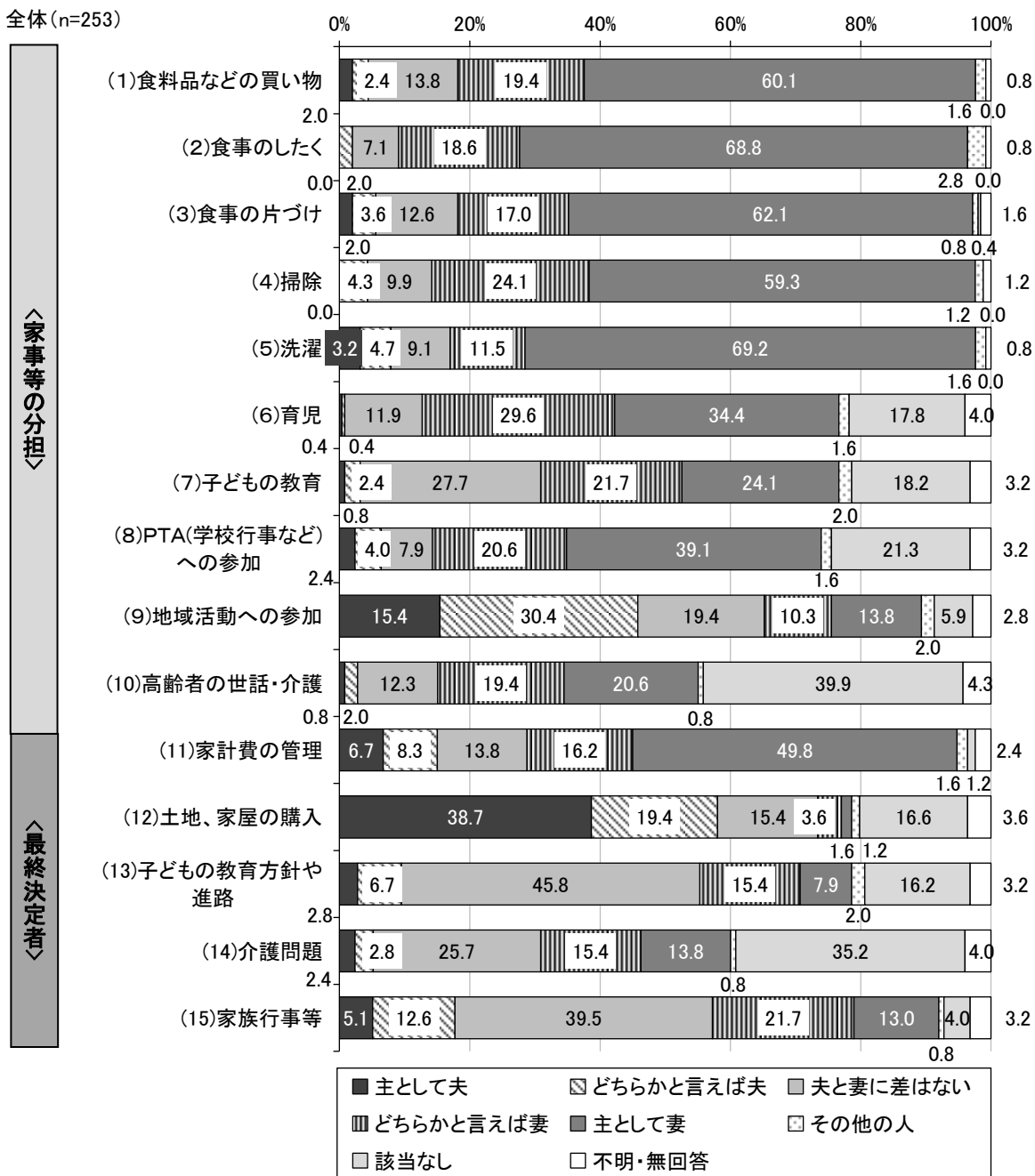
年代別にみると、70歳代では「夫婦とも仕事を持つが、家事等も夫婦で分担する」「夫婦の役割は固定しない」がともに最も高く、そのほかの年代では「夫婦とも仕事を持つが、家事等も夫婦で分担する」が最も高くなっています。



※結婚されている人（未婚だがパートナーと暮らしている人を含む）のみ

問4 あなたの家庭では家事等の分担をどうしていますか。また、家計費の管理などについて最終的に決定しているのはどなたですか。（1）～（15）について、最もあてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

結婚している人の家庭における家事等の分担についてみると、（1）食料品などの買い物、（2）食事のしたく、（3）食事の片づけ、（4）掃除、（5）洗濯、（6）育児、（8）PTA(学校行事など)への参加、（11）家計費の管理では「主として妻」、（9）地域活動への参加では「どちらかと言えば夫」、（12）土地、家屋の購入では「主として夫」がそれぞれ最も高くなっています。また、（7）子どもの教育、（13）子どもの教育方針や進路、（15）家族行事等では「夫と妻に差はない」、（10）高齢者の世話・介護、（14）介護問題では「該当なし」がそれぞれ最も高くなっています。

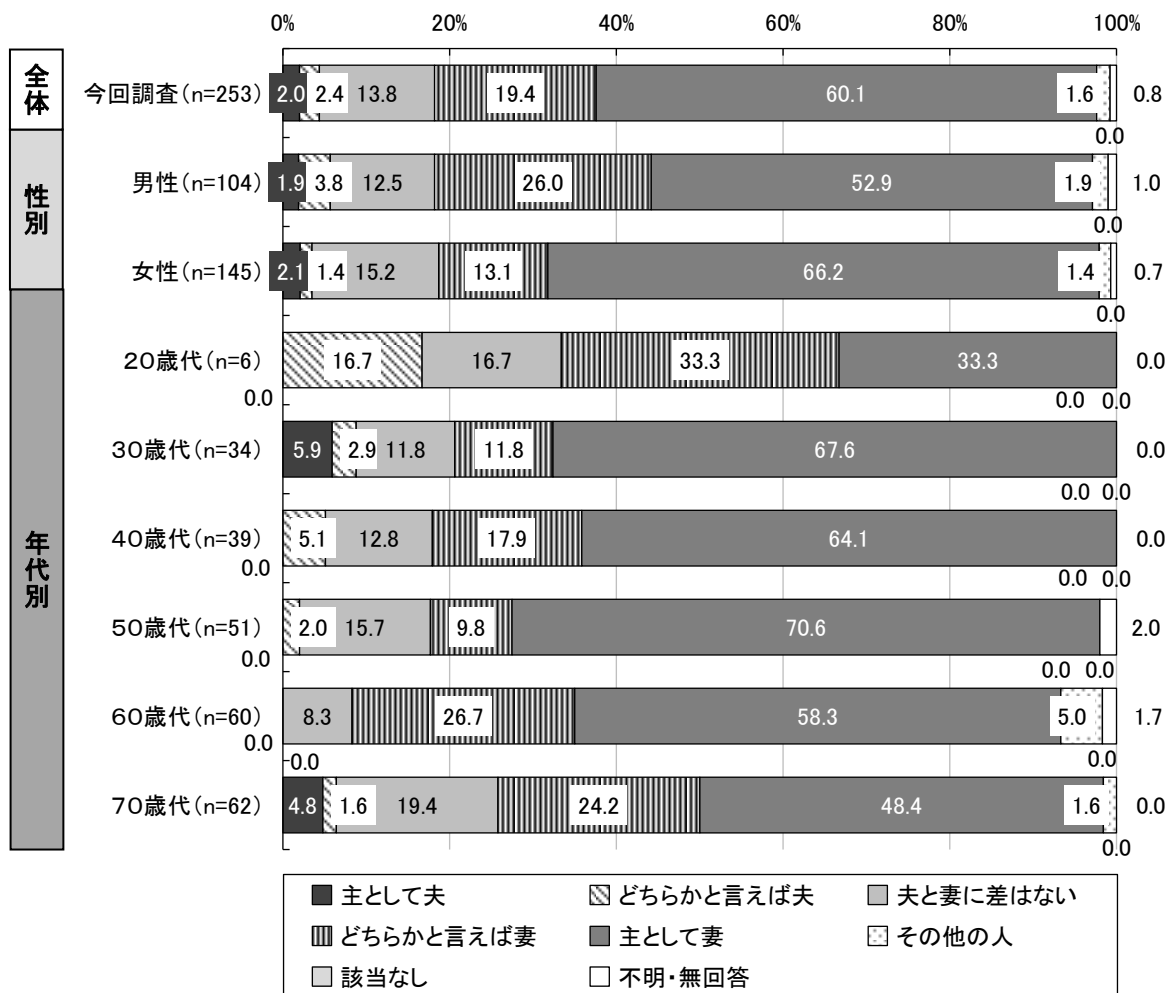


問4(1)食料品などの買い物

食料品などの買い物についてみると、「主として妻」が60.1%と最も高く、次いで「どちらかと言えば妻」が19.4%、「夫と妻に差はない」が13.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「主として妻」が最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代以上では「主として妻」が最も高くなっています。

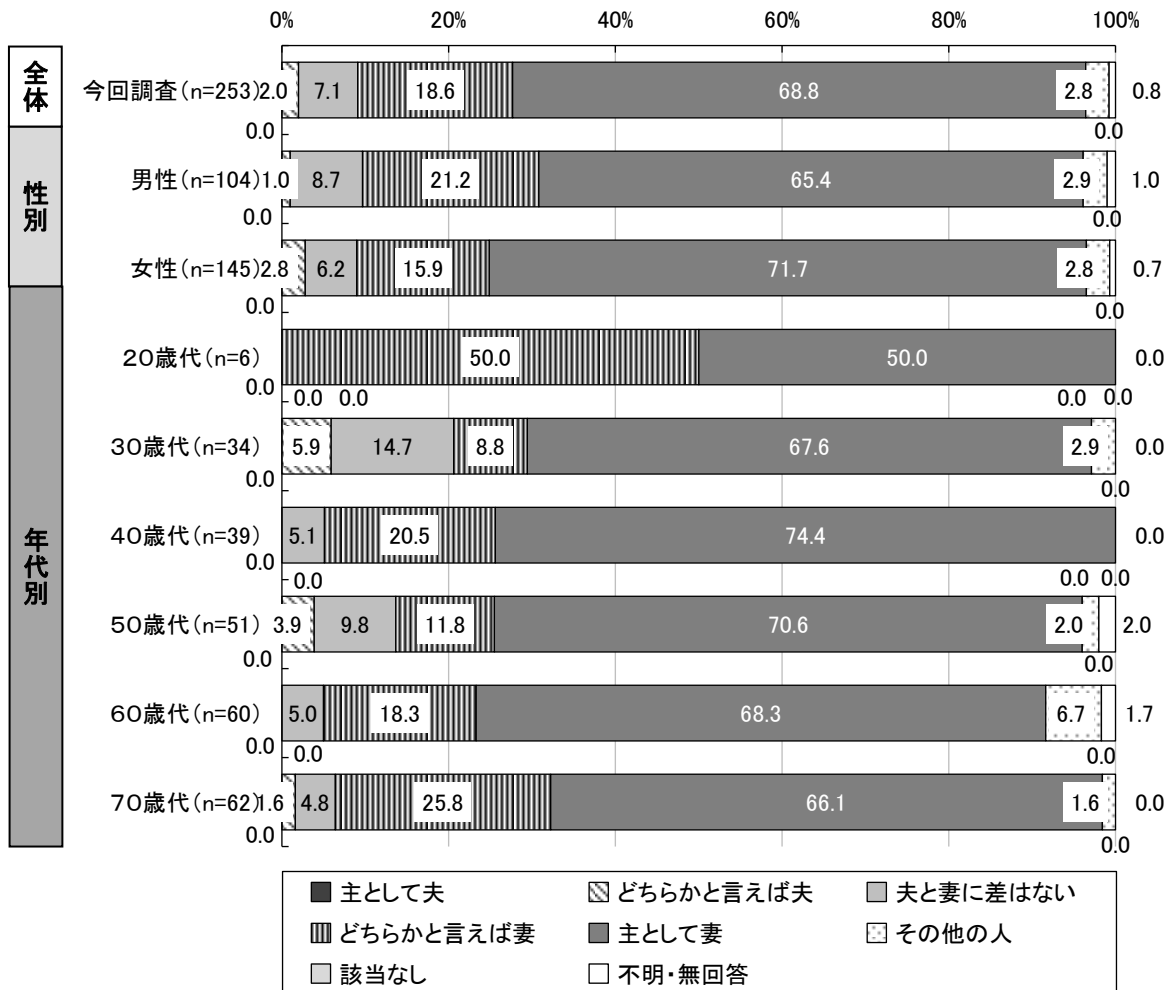


問4(2)食事のしたく

食事のしたくについてみると、「主として妻」が68.8%と最も高く、次いで「どちらかと言えば妻」が18.6%、「夫と妻に差はない」が7.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「主として妻」が最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代以上では「主として妻」が最も高くなっています。

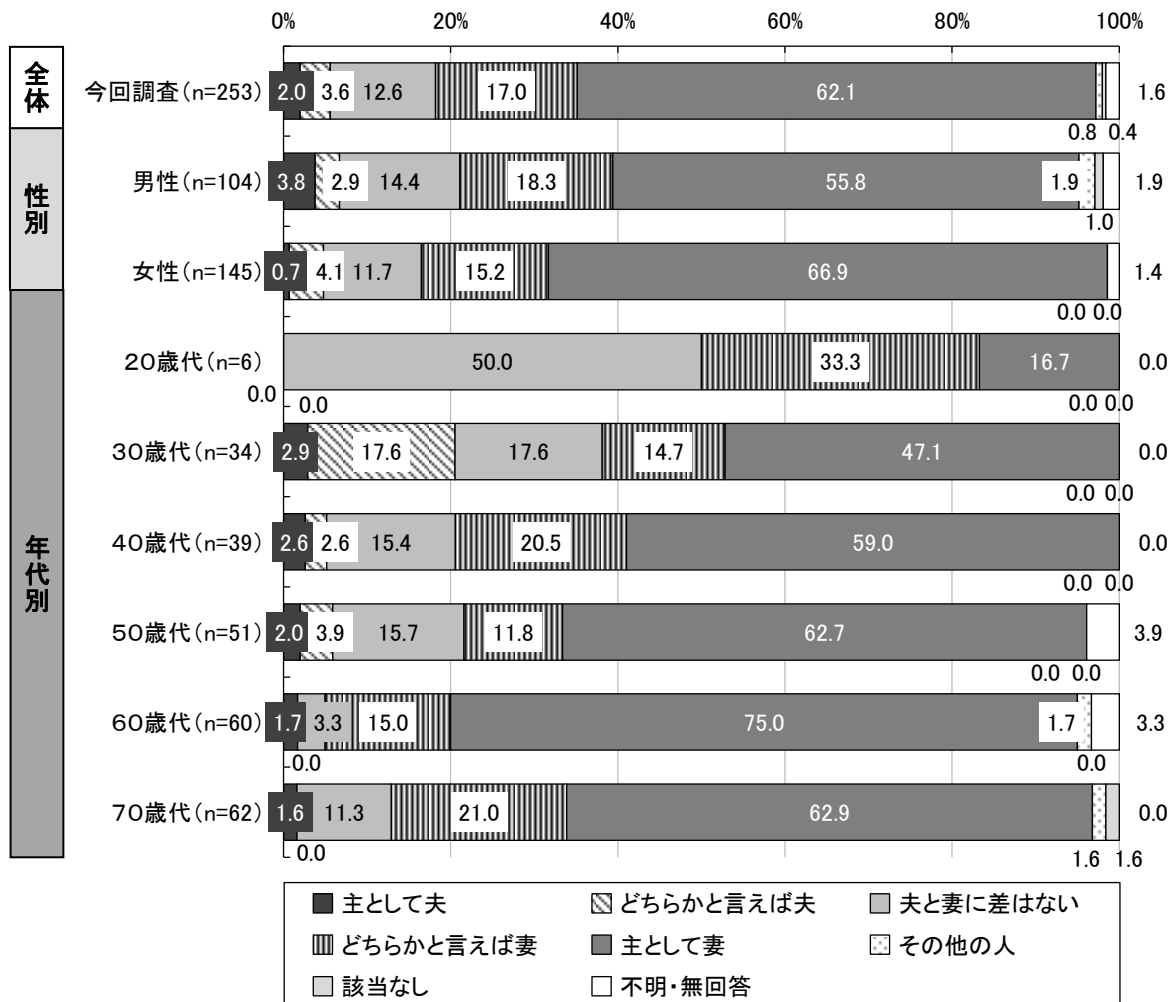


問4(3)食事の片づけ

食事の片づけについてみると、「主として妻」が62.1%と最も高く、次いで「どちらかと言えば妻」が17.0%、「夫と妻に差はない」が12.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「主として妻」が最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代以上では「主として妻」が最も高くなっています。

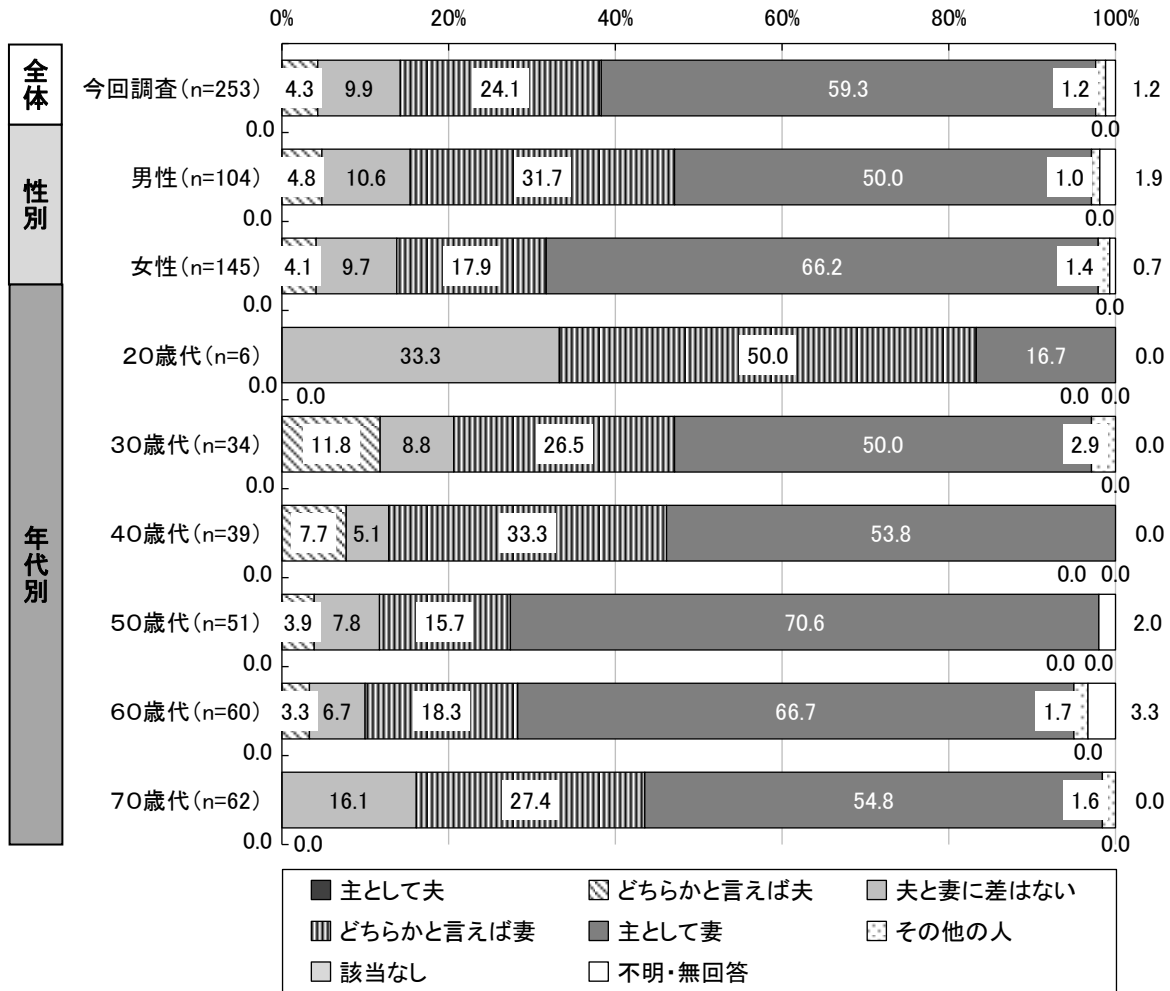


問4(4)掃除

掃除についてみると、「主として妻」が59.3%と最も高く、次いで「どちらかと言えば妻」が24.1%、「夫と妻に差はない」が9.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「主として妻」が最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代以上では「主として妻」が最も高くなっています。

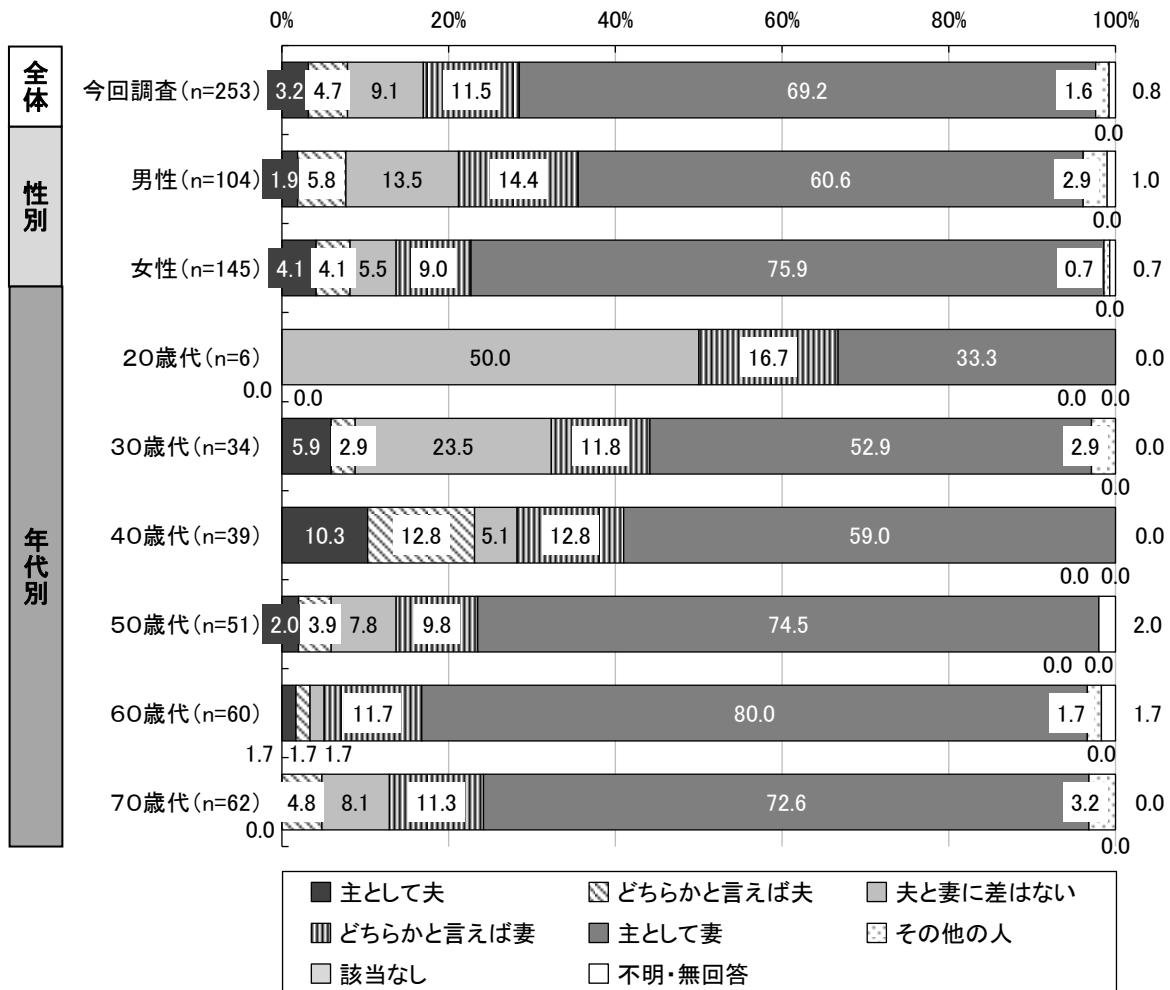


問4(5)洗濯

洗濯についてみると、「主として妻」が69.2%と最も高く、次いで「どちらかと言えば妻」が11.5%、「夫と妻に差はない」が9.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「主として妻」が最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代以上では「主として妻」が最も高くなっています。

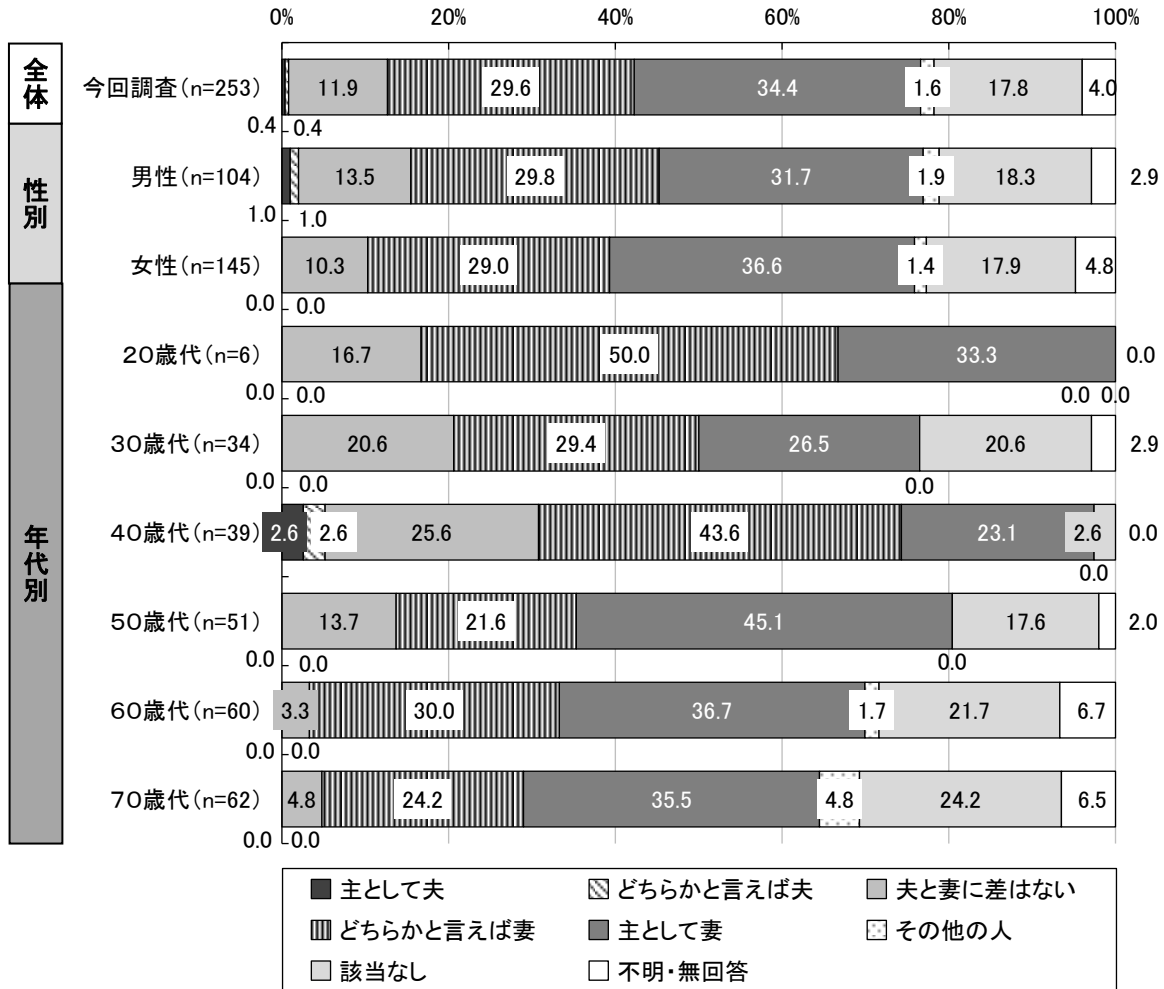


問4(6)育児

育児についてみると、「主として妻」が34.4%と最も高く、次いで「どちらかと言えば妻」が29.6%、「該当なし」が17.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「主として妻」が最も高くなっています。

年齢別にみると、30歳代、40歳代では「どちらかと言えば妻」、50歳代以上では「主として妻」がそれぞれ最も高くなっています。

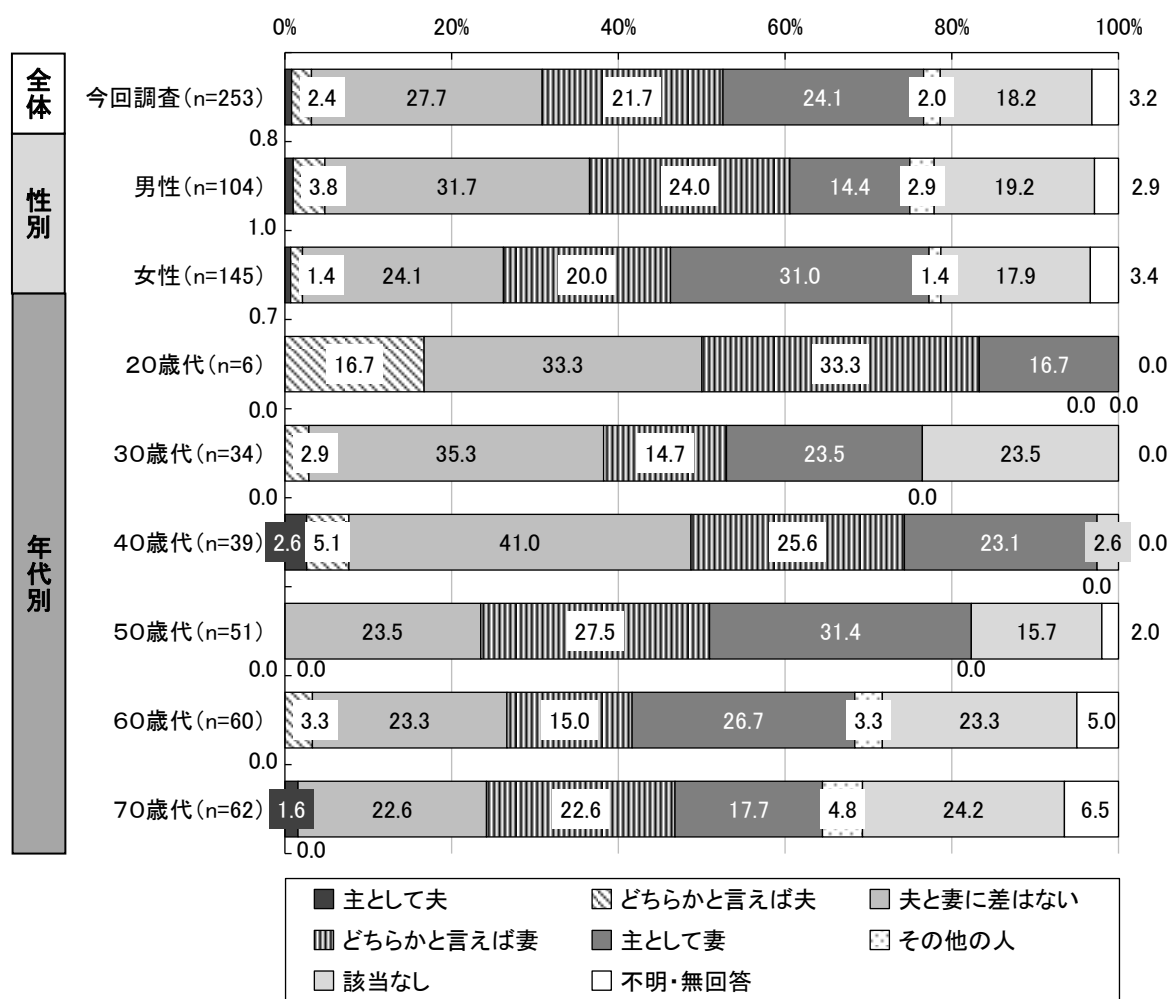


問4(7)子どもの教育

子どもの教育についてみると、「夫と妻に差はない」が27.7%と最も高く、次いで「主として妻」が24.1%、「どちらかと言えば妻」が21.7%となっています。

性別にみると、男性では「夫と妻に差はない」、女性では「主として妻」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代、40歳代では「夫と妻に差はない」、50歳代、60歳代では「主として妻」、70歳代では「該当なし」がそれぞれ最も高くなっています。

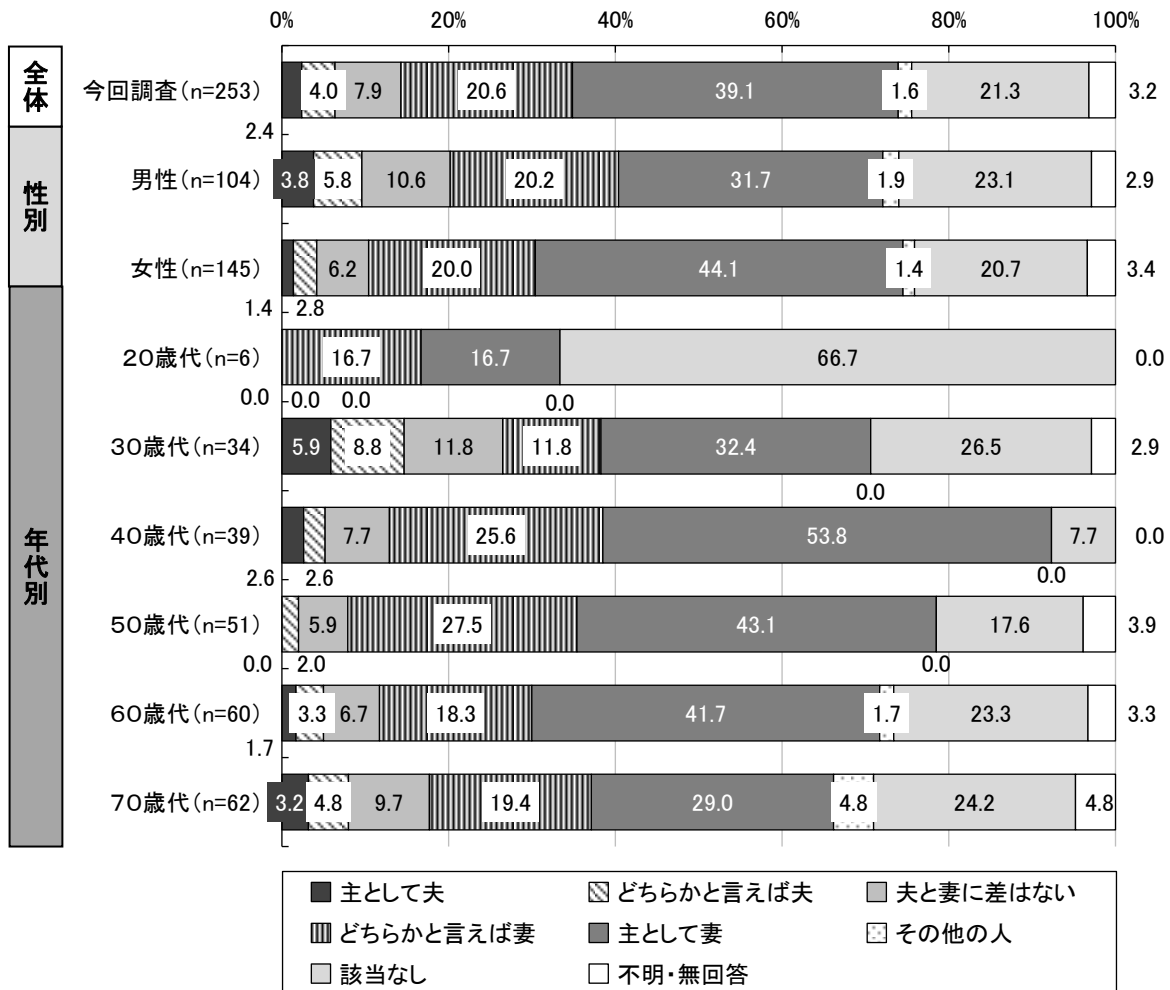


問4(8)PTA(学校行事など)への参加

PTA(学校行事など)への参加についてみると、「主として妻」が39.1%と最も高く、次いで「該当なし」が21.3%、「どちらかと言えば妻」が20.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「主として妻」が最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代以上では「主として妻」が最も高くなっています。

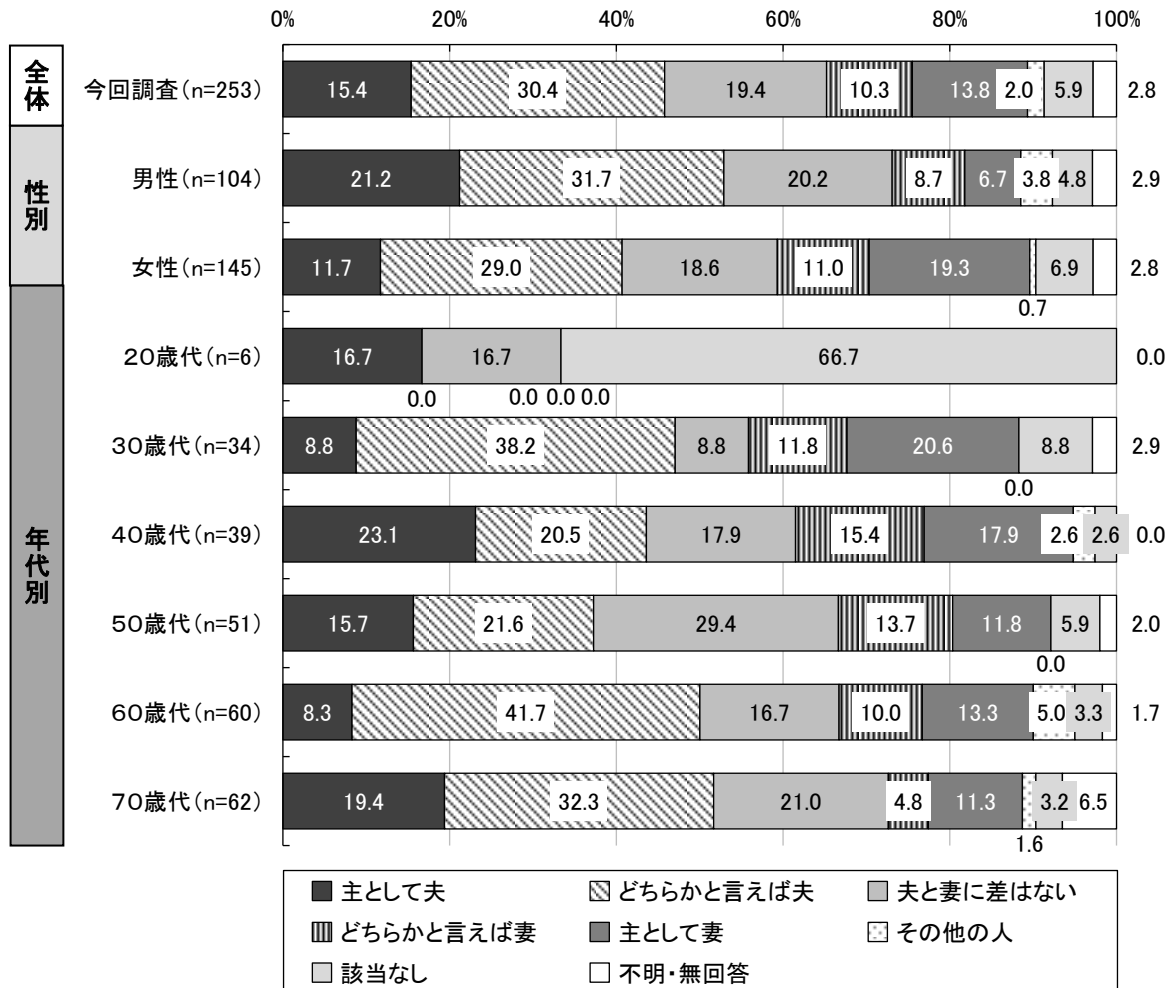


問4(9)地域活動への参加

地域活動への参加についてみると、「どちらかと言えば夫」が30.4%と最も高く、次いで「夫と妻に差はない」が19.4%、「主として夫」が15.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかと言えば夫」が最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代、60歳代以上では「どちらかと言えば夫」、40歳代では「主として夫」、50歳代では「夫と妻に差はない」がそれぞれ最も高くなっています。

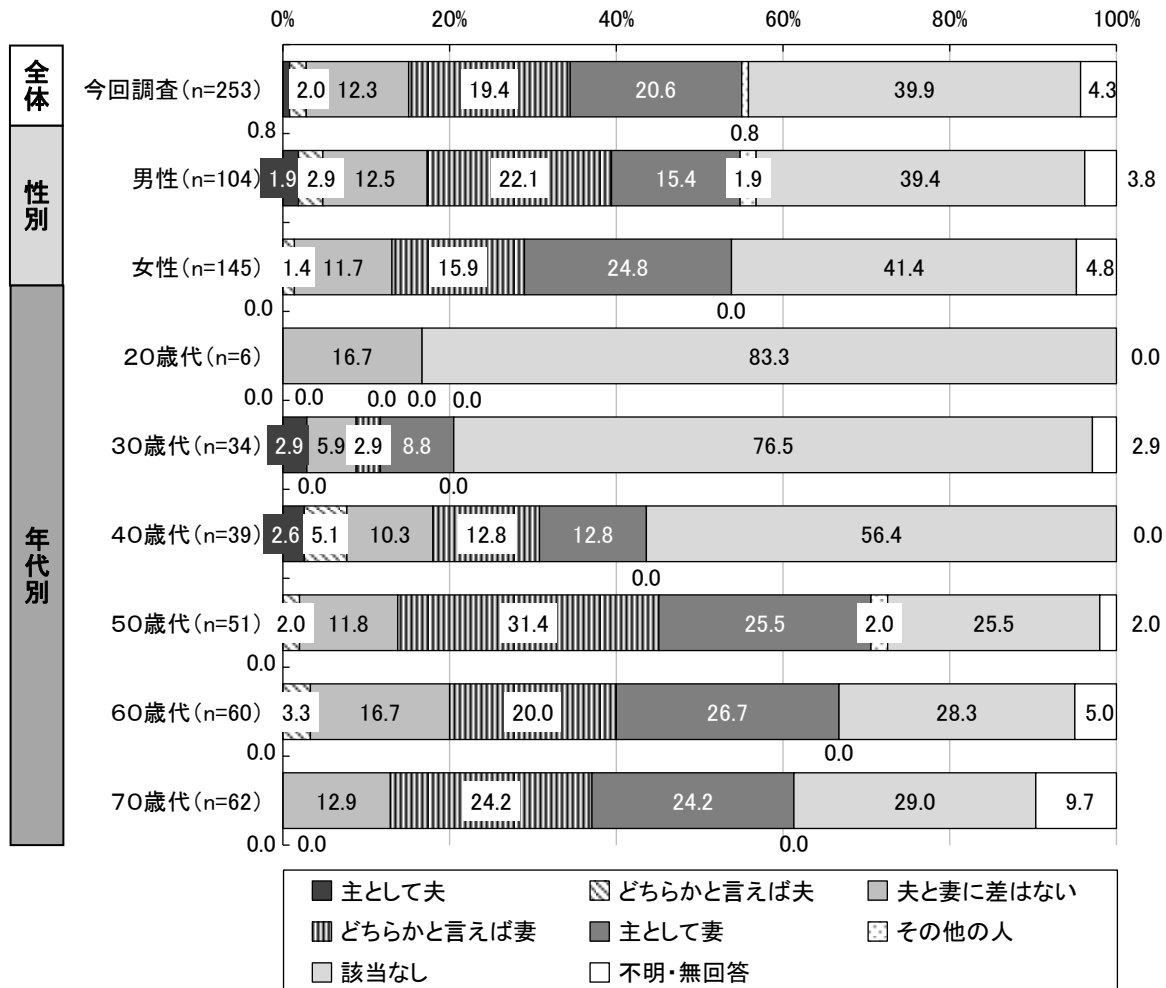


問 4 (10) 高齢者の世話・介護

高齢者の世話・介護についてみると、「該当なし」が39.9%と最も高く、次いで「主として妻」が20.6%、「どちらかと言えば妻」が19.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「該当なし」が最も高くなっています。

年代別にみると、50歳代では「どちらかと言えば妻」、そのほかの年代では「該当なし」がそれぞれ最も高くなっています。

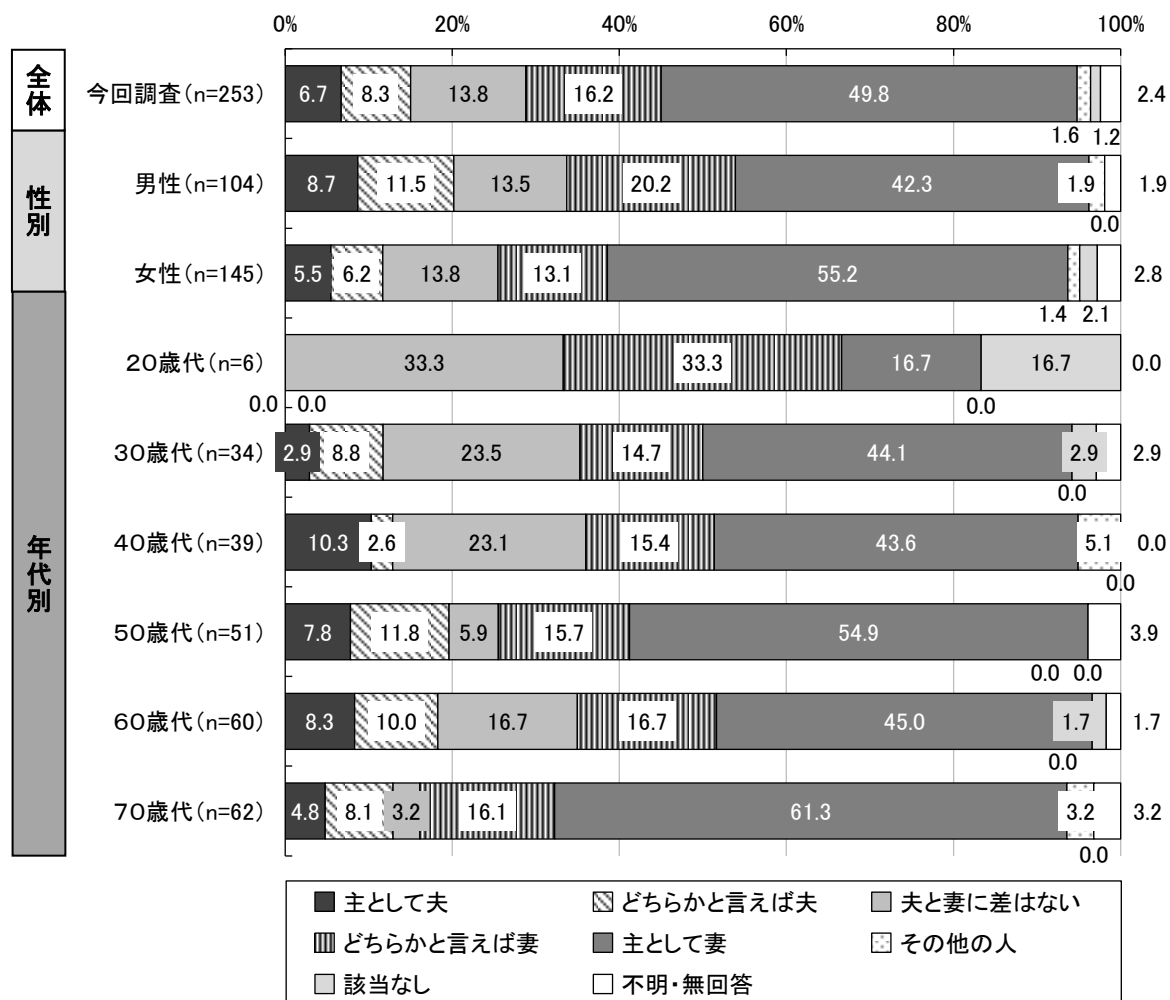


問 4 (11) 家計費の管理

家計費の管理についてみると、「主として妻」が 49.8%と最も高く、次いで「どちらかと言えば妻」が 16.2%、「夫と妻に差はない」が 13.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「主として妻」が最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代以上では「主として妻」が最も高くなっています。

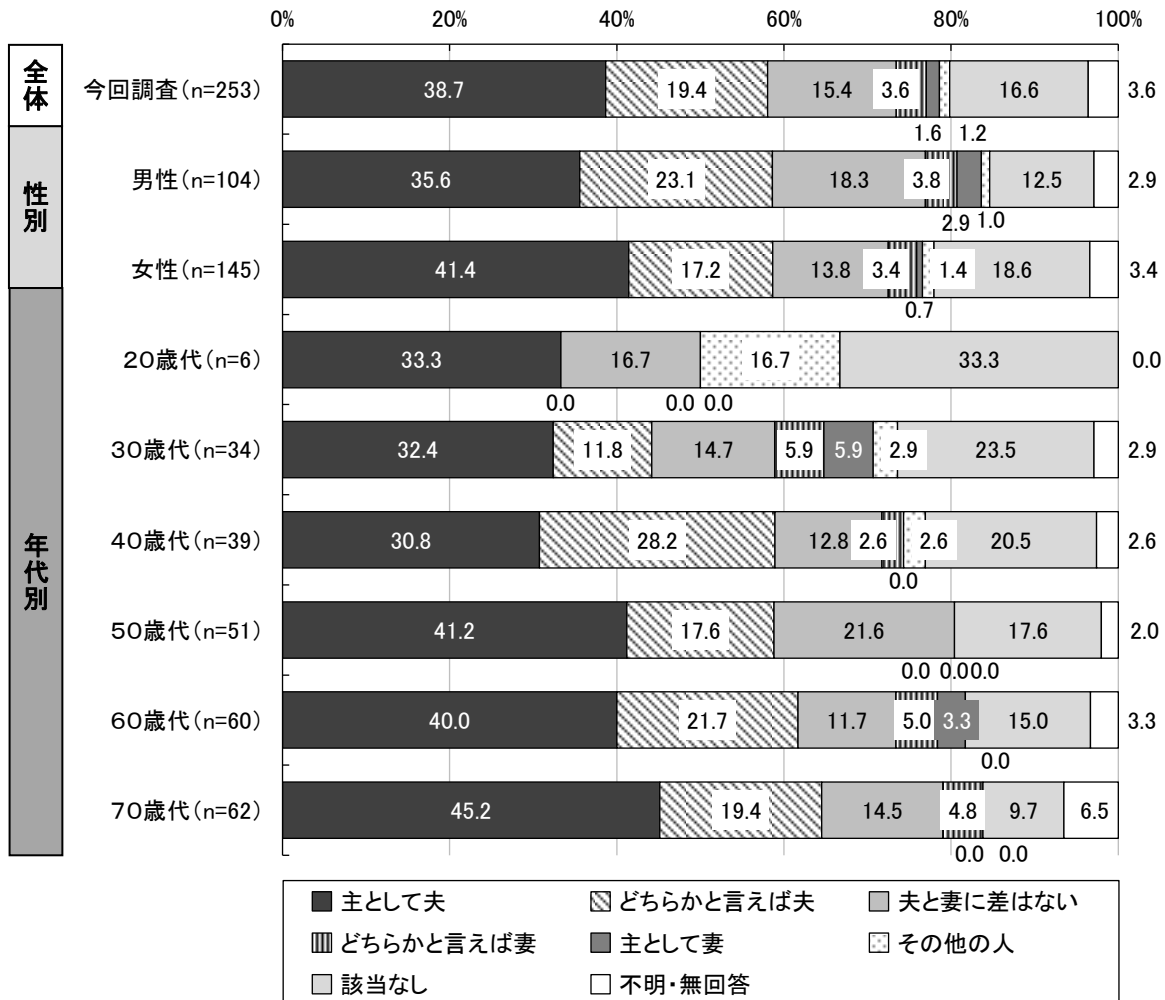


問 4 (12) 土地、家屋の購入

土地、家屋の購入についてみると、「主として夫」が 38.7%と最も高く、次いで「どちらかと言えば夫」が 19.4%、「該当なし」が 16.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「主として夫」が最も高くなっています。

年代別にみると、30 歳代以上では「主として夫」が最も高くなっています。

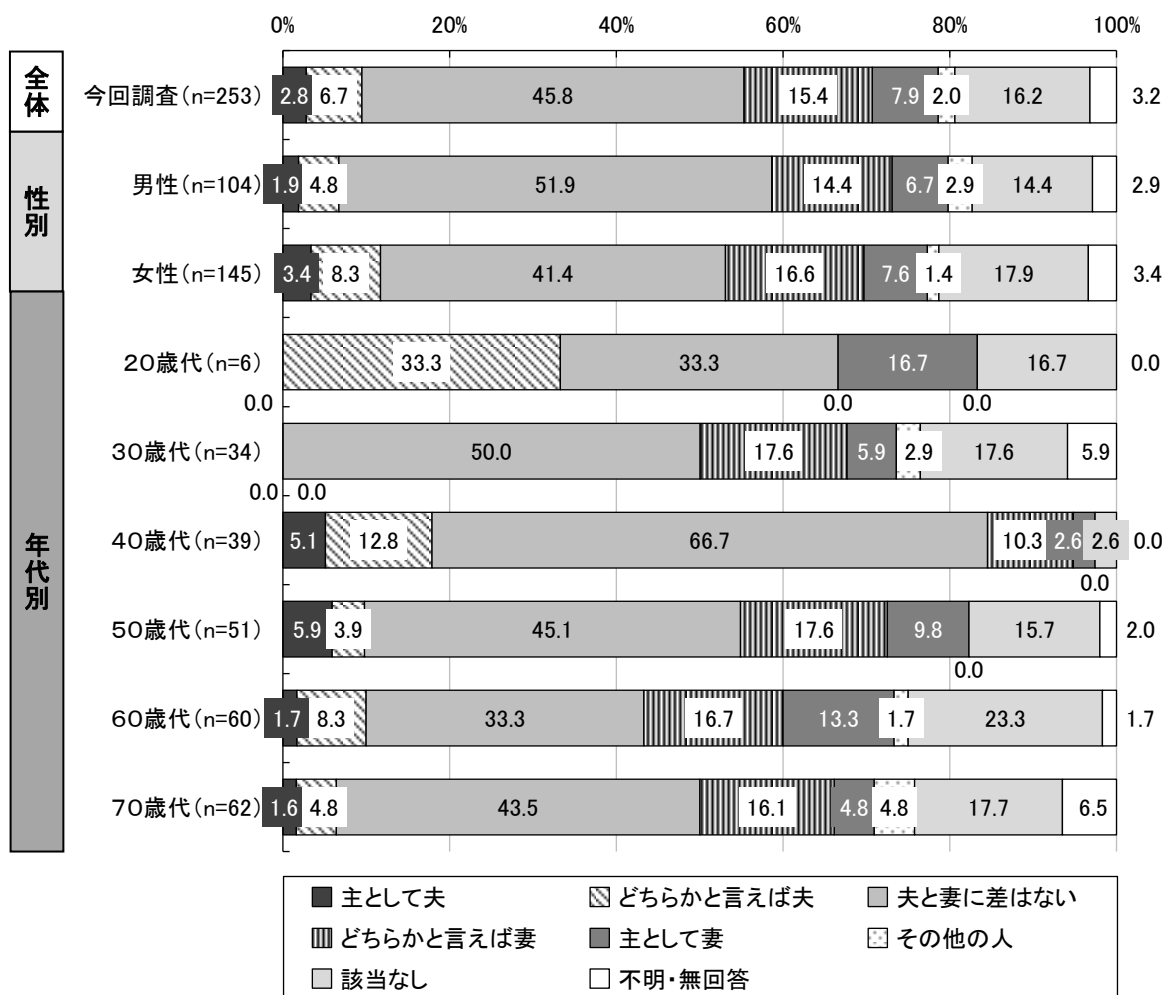


問 4 (13) 子どもの教育方針や進路

子どもの教育方針や進路についてみると、「夫と妻に差はない」が 45.8%と最も高く、次いで「該当なし」が 16.2%、「どちらかと言えば妻」が 15.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「夫と妻に差はない」が最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代以上では「夫と妻に差はない」が最も高くなっています。

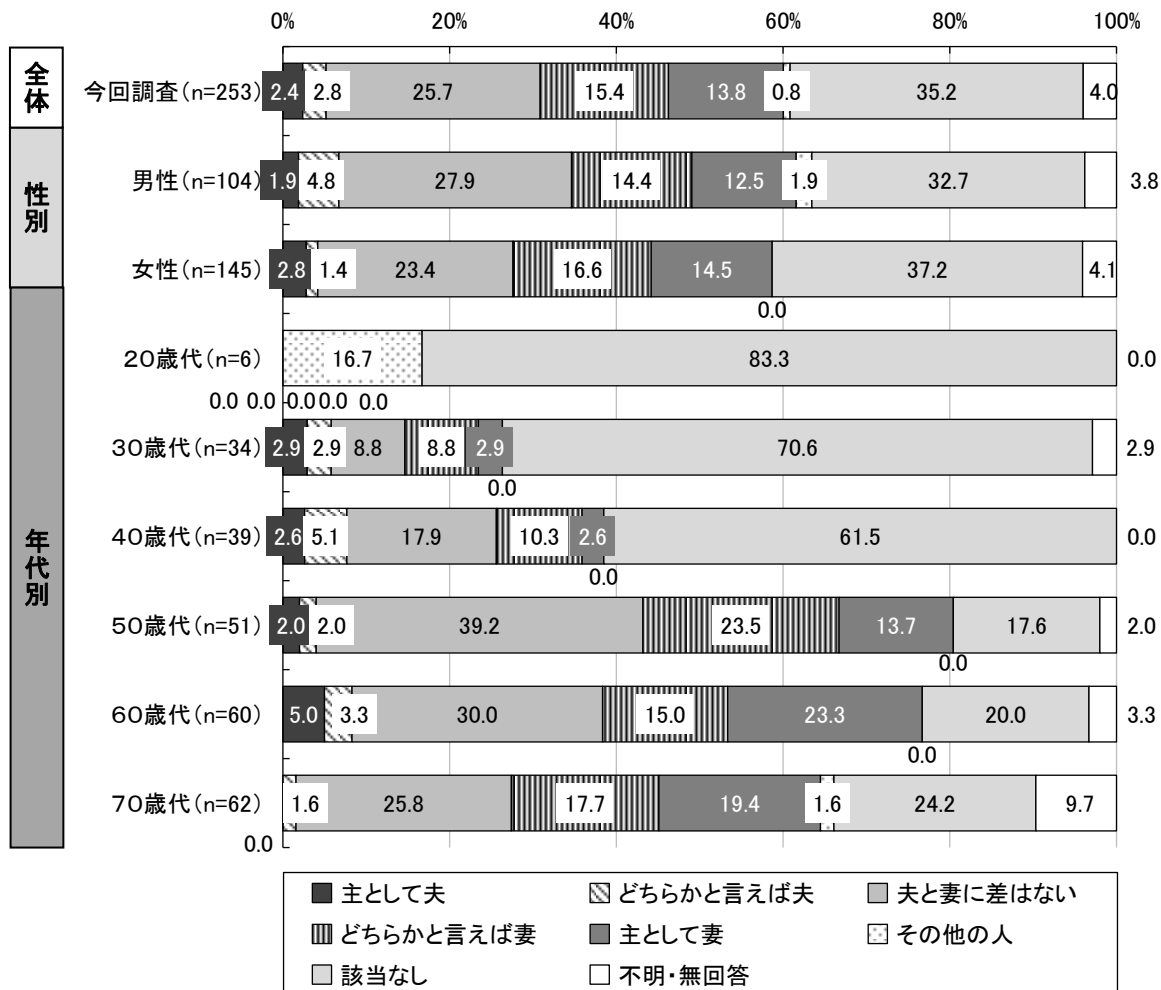


問 4 (14) 介護問題

介護問題についてみると、「該当なし」が 35.2%と最も高く、次いで「夫と妻に差はない」が 25.7%、「どちらかと言えば妻」が 15.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「該当なし」が最も高くなっています。

年代別にみると、30 歳代、40 歳代では「該当なし」、50 歳代以上では「夫と妻に差はない」がそれぞれ最も高くなっています。

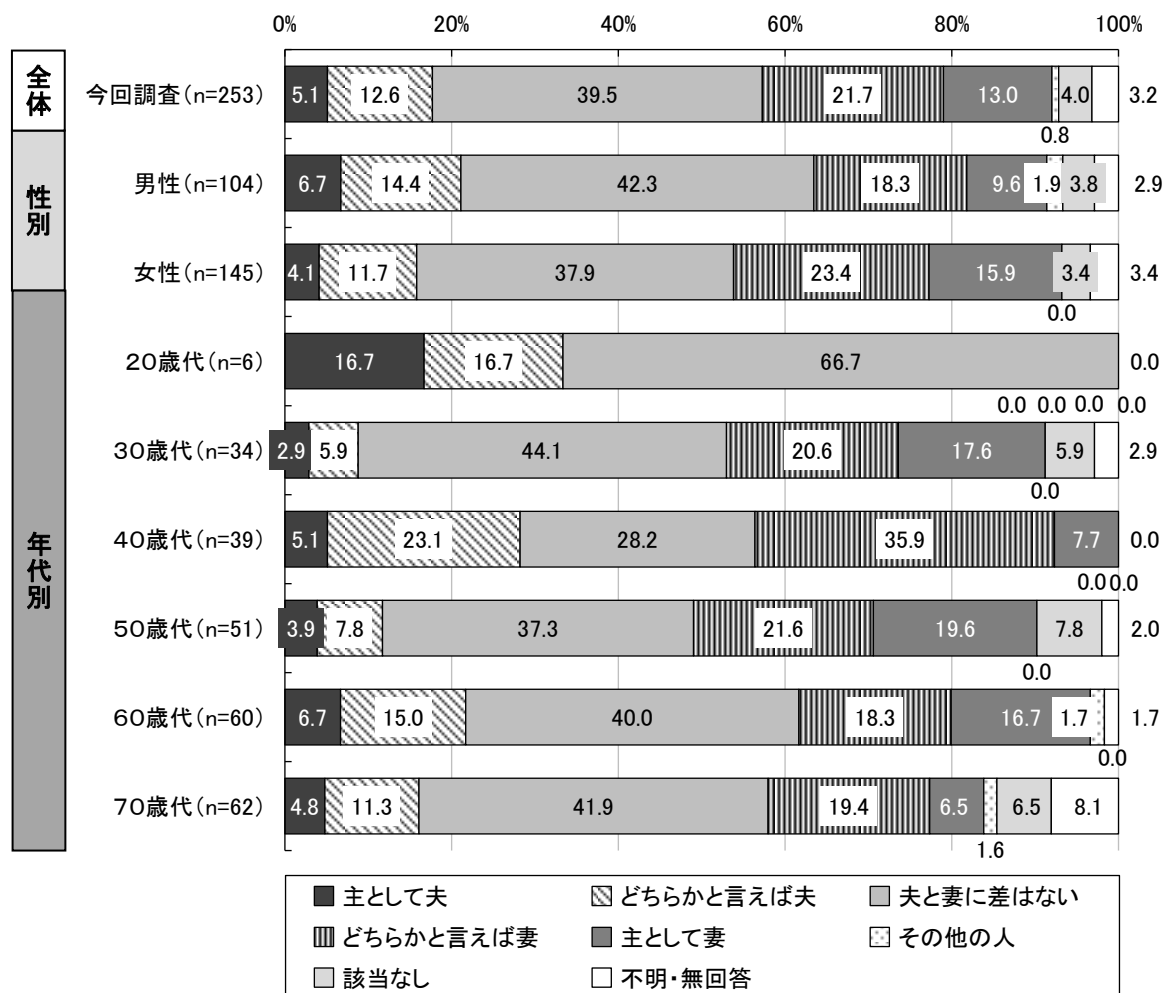


問 4 (15) 家族行事等

家族行事等についてみると、「夫と妻に差はない」が 39.5%と最も高く、次いで「どちらかと言えば妻」が 21.7%、「主として妻」が 13.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「夫と妻に差はない」が最も高くなっています。

年代別にみると、40 歳代では「どちらかと言えば妻」、そのほかの年代では「夫と妻に差はない」がそれぞれ最も高くなっています。



問5 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで)

今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うことについてみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が57.8%と最も高く、次いで「労働時間短縮・育児休業や介護休業などの休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が40.4%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が36.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高くなっています。

単位:%		男性が自身の家事などに参加することに対する抵抗感をなくす	男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくす	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる	夫婦の役割分担などについての人が尊重する	介護、地域活動についても家事、その評価を高める	労働時間短縮・育児休業や介護休業などの休暇制度を普及すること、仕事以外の時間をより多く持てるようにする	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	国の家事、子育て、介護などの技能を高める	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりを行う	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	その他	特に必要なことはない	不明・無回答
全体(n=391)		36.3	9.0	57.8	28.1	24.3	40.4	22.5	10.5	15.9	10.0	1.5	7.2	3.6
性別	男性(n=157)	31.8	8.9	55.4	21.0	22.9	41.4	21.0	10.8	15.9	12.1	1.3	14.0	3.2
	女性(n=228)	39.9	9.2	59.6	33.3	25.0	39.9	23.2	10.5	15.8	7.5	1.8	2.2	3.9
年代別	20歳代(n=48)	50.0	18.8	66.7	25.0	22.9	50.0	18.8	6.3	12.5	12.5	2.1	2.1	0.0
	30歳代(n=48)	35.4	6.3	52.1	25.0	14.6	33.3	22.9	6.3	8.3	8.3	2.1	10.4	4.2
	40歳代(n=59)	27.1	8.5	59.3	35.6	39.0	47.5	13.6	8.5	18.6	5.1	3.4	6.8	0.0
	50歳代(n=66)	36.4	7.6	51.5	28.8	27.3	36.4	28.8	19.7	16.7	12.1	0.0	1.5	4.5
	60歳代(n=79)	31.6	8.9	59.5	31.6	24.1	40.5	19.0	11.4	13.9	3.8	0.0	12.7	3.8
	70歳代(n=90)	38.9	6.7	57.8	23.3	18.9	36.7	28.9	8.9	21.1	16.7	2.2	7.8	6.7

4 就労およびワーク・ライフ・バランスについて

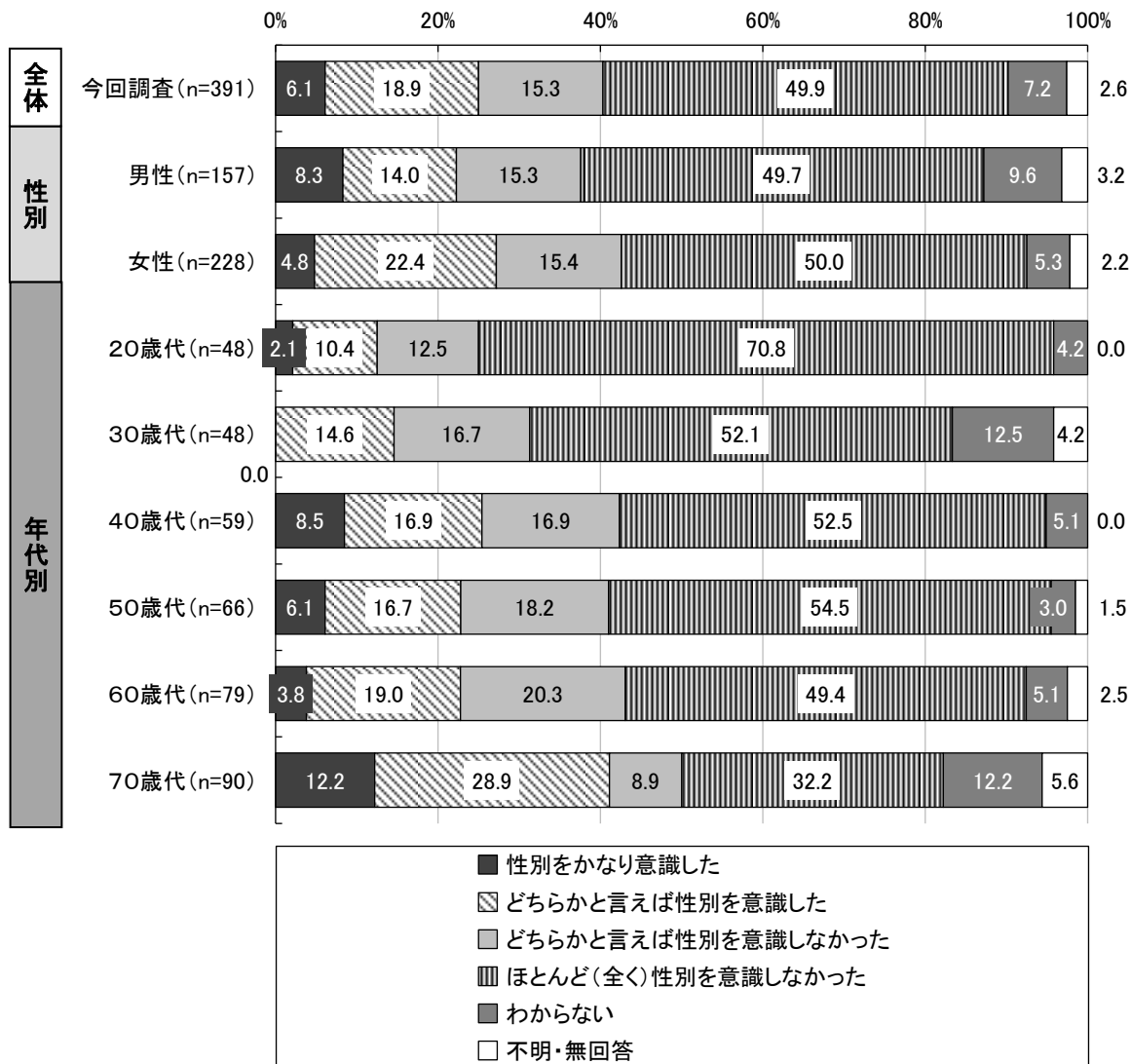
※ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)とは、一人ひとりがやりがいや充実感などをもちながら働き、仕事上の責任を果たすことと、仕事以外でやりたいこと(家庭生活や地域活動など)との両方が実現できる状態にあることです。

問6 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。これについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

進路や職業を選択する際に、性別を意識したかについてみると、「ほとんど(全く)性別を意識しなかった」が49.9%と最も高く、次いで「どちらかと言えば性別を意識した」が18.9%、「どちらかと言えば性別を意識しなかった」が15.3%となっています。

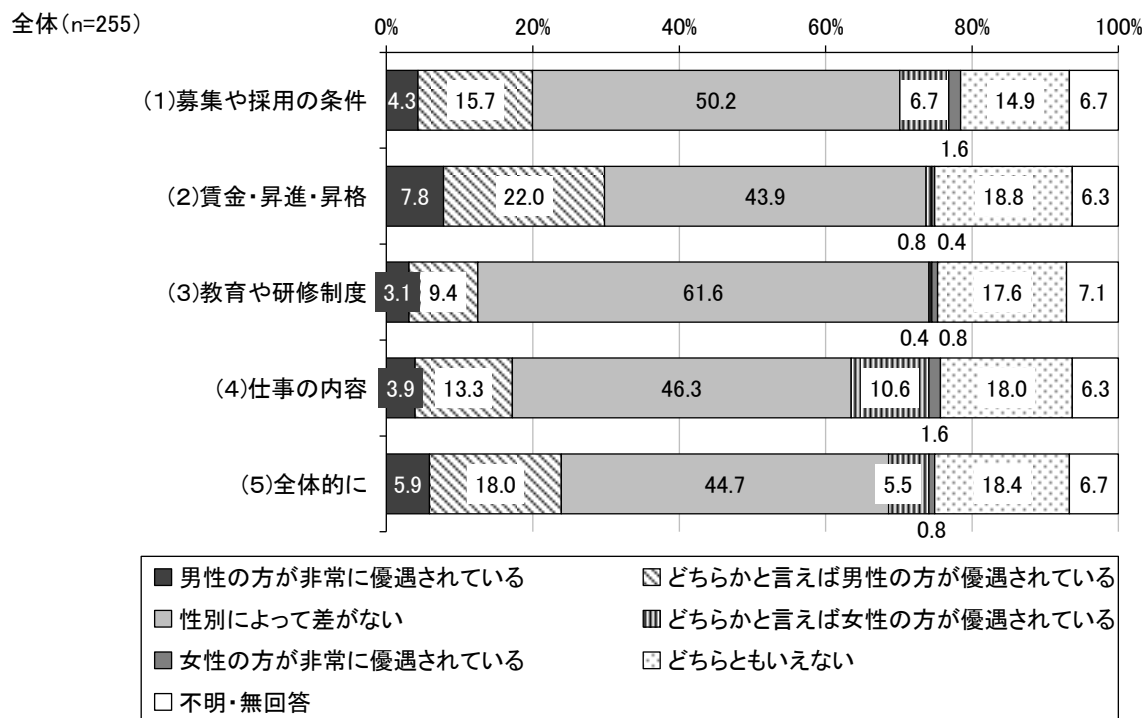
性別にみると、男女ともに「ほとんど(全く)性別を意識しなかった」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「ほとんど(全く)性別を意識しなかった」が最も高くなっています。



問7 現在、働いている方へお尋ねします。あなたの職場では、次にあげるそれぞれの場面で性別によって差があると思いますか。(1)～(5)について、最もあてはまるものを、1つずつお選びください。

職場での性別による差の有無についてみると、すべての場面で「性別によって差がない」が最も高く、(1)募集や採用の条件、(3)教育や研修制度の場面では5割を超えています。

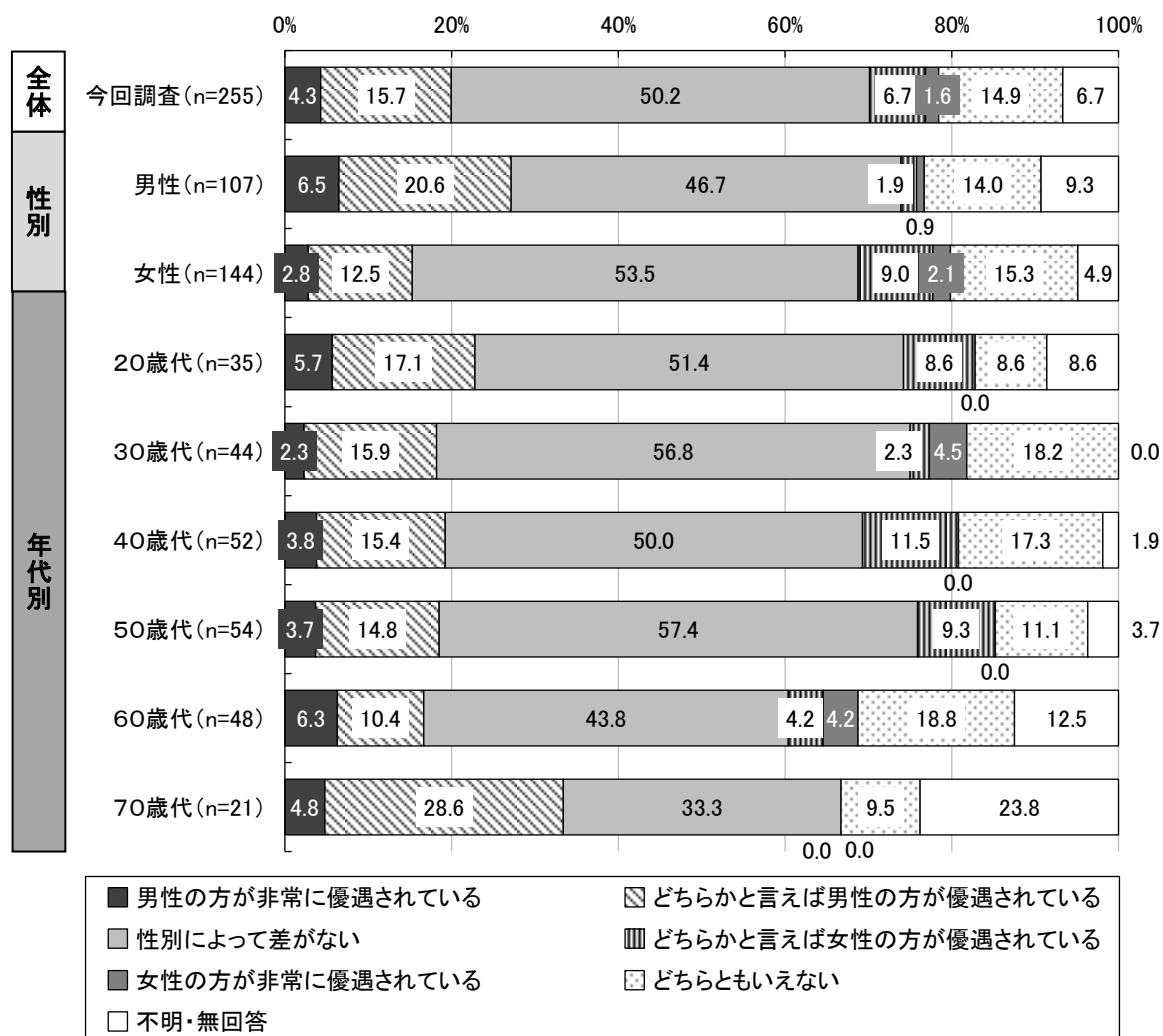


問7(1) 募集や採用の条件

募集や採用の条件についてみると、「性別によって差がない」が50.2%と最も高く、次いで「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が15.7%、「どちらともいえない」が14.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「性別によって差がない」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「性別によって差がない」が最も高くなっています。

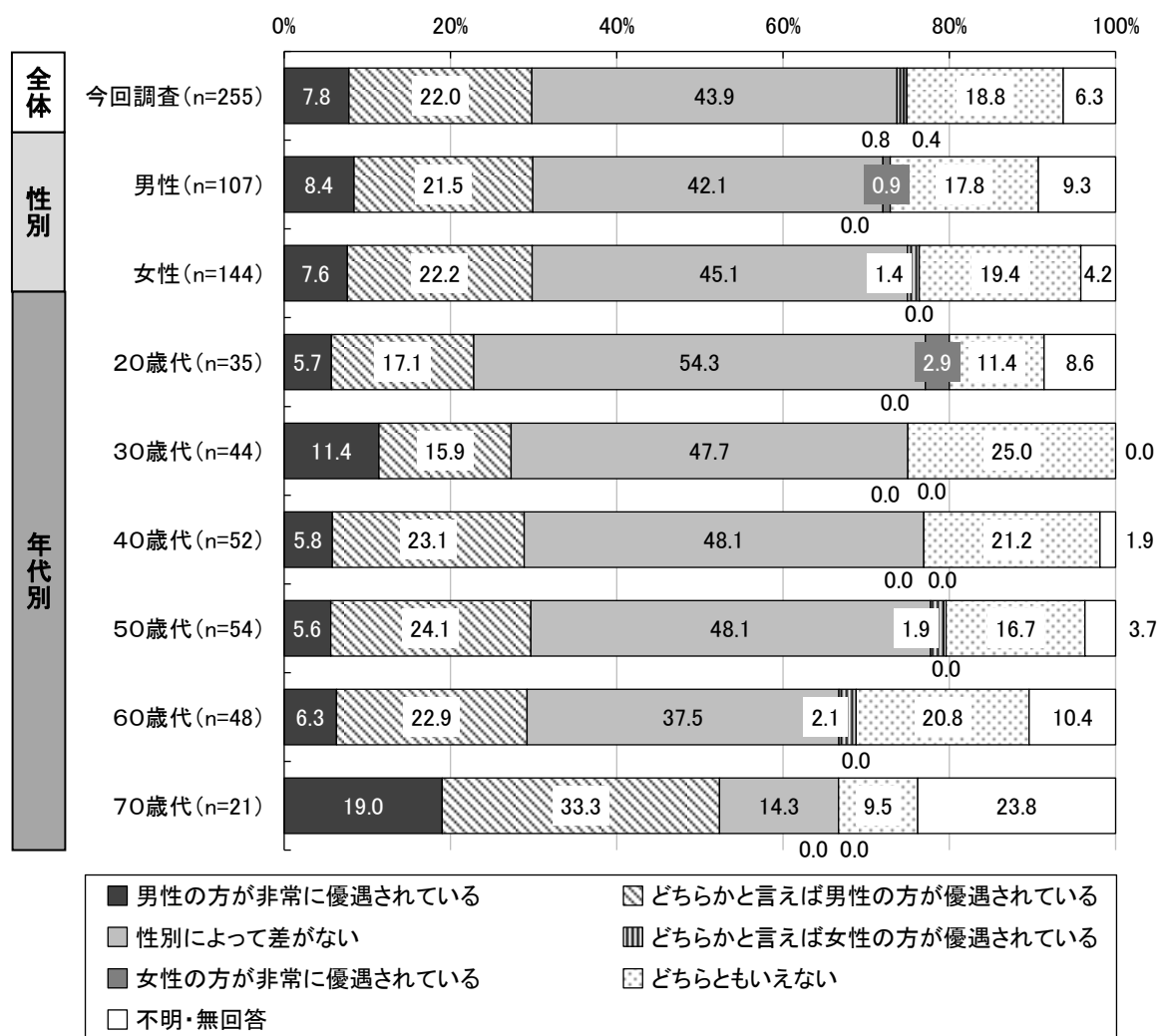


問7(2)賃金・昇進・昇格

賃金・昇進・昇格についてみると、「性別によって差がない」が43.9%と最も高く、次いで「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が22.0%、「どちらかとも言えない」が18.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「性別によって差がない」が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代から60歳代では「性別によって差がない」、70歳代では「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」がそれぞれ最も高くなっています。

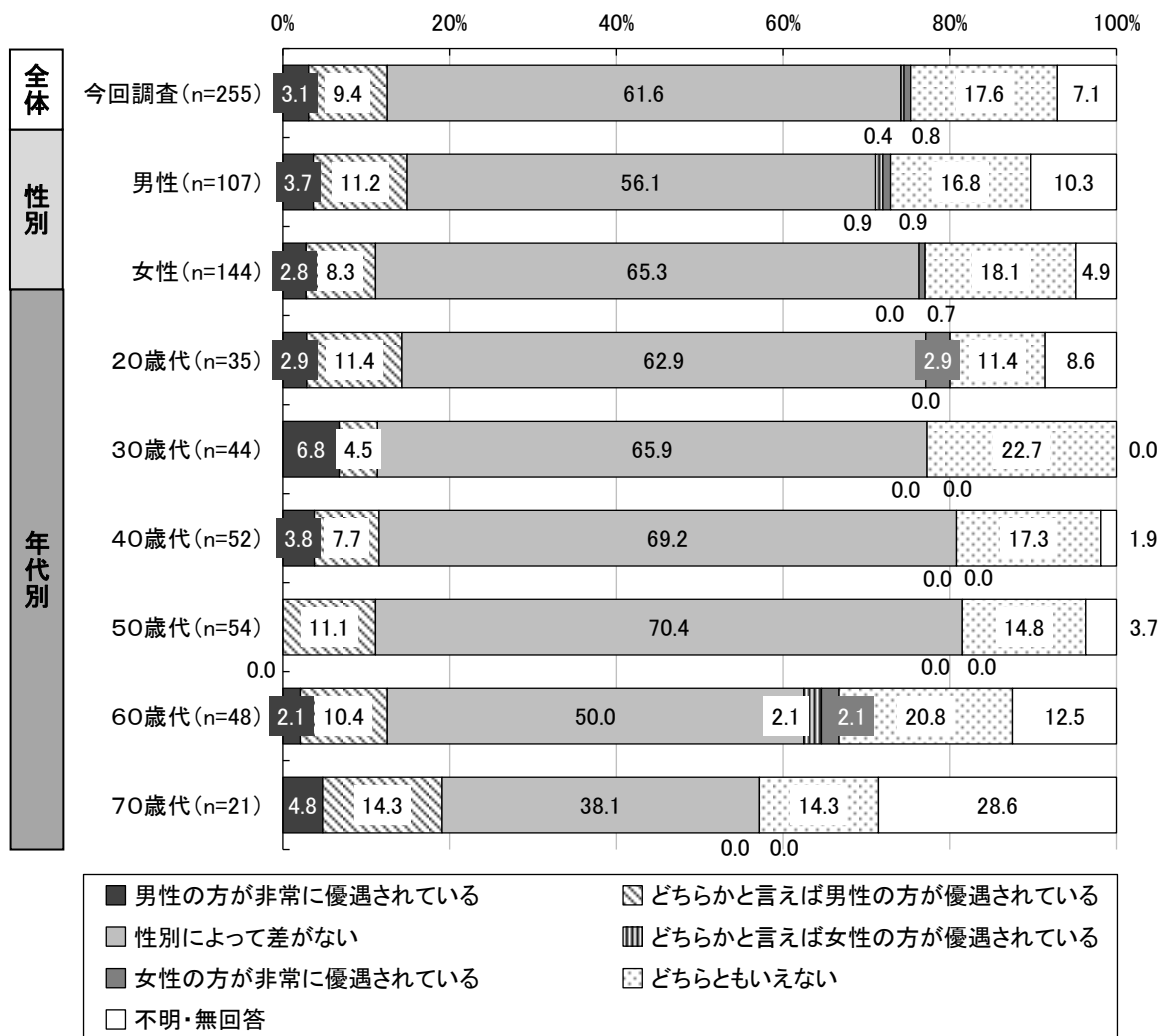


問7(3)教育や研修制度

教育や研修制度についてみると、「性別によって差がない」が61.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が17.6%、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が9.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「性別によって差がない」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「性別によって差がない」が最も高くなっています。

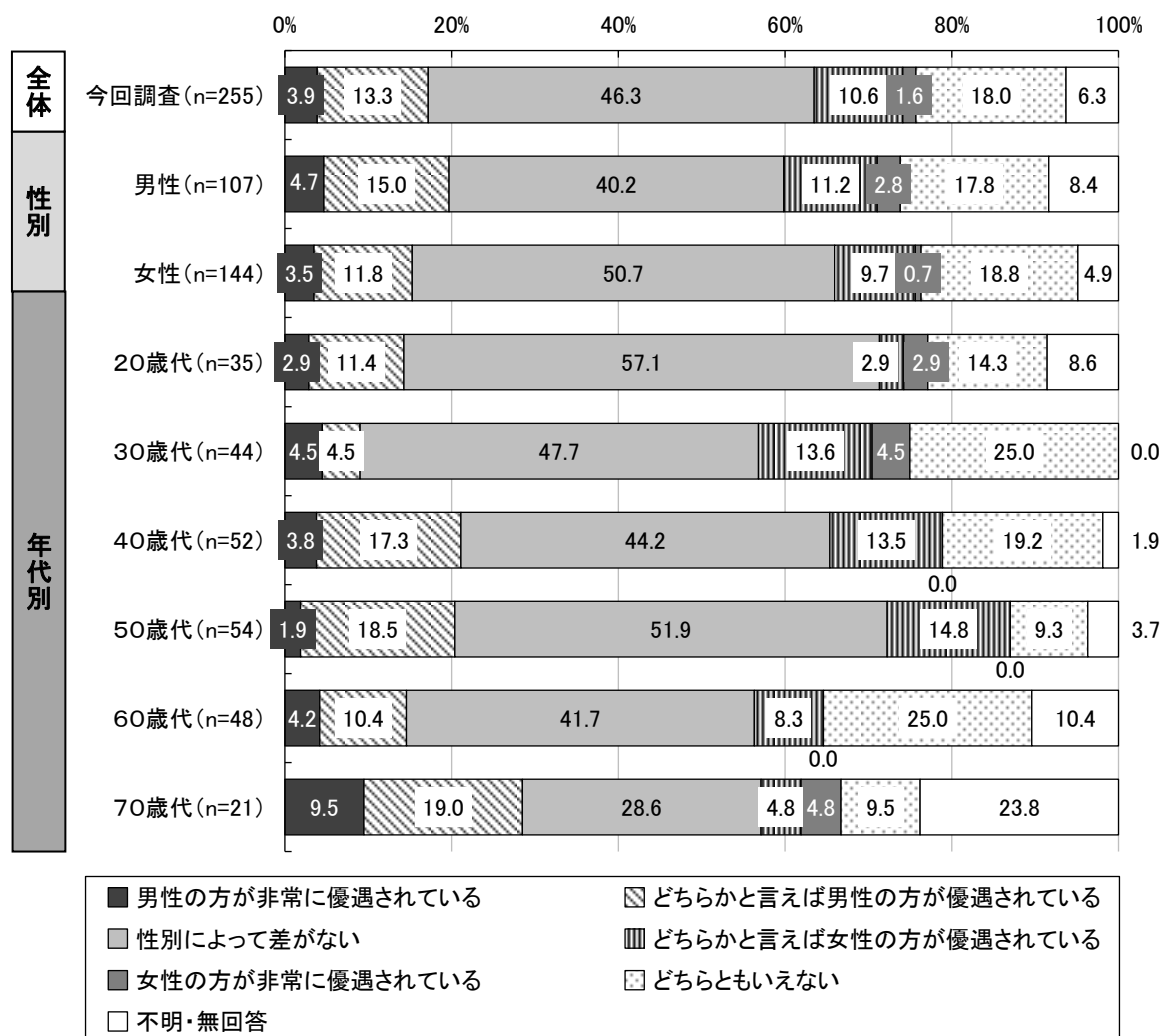


問7(4)仕事の内容

仕事の内容についてみると、「性別によって差がない」が46.3%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が18.0%、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が13.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「性別によって差がない」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「性別によって差がない」が最も高くなっています。

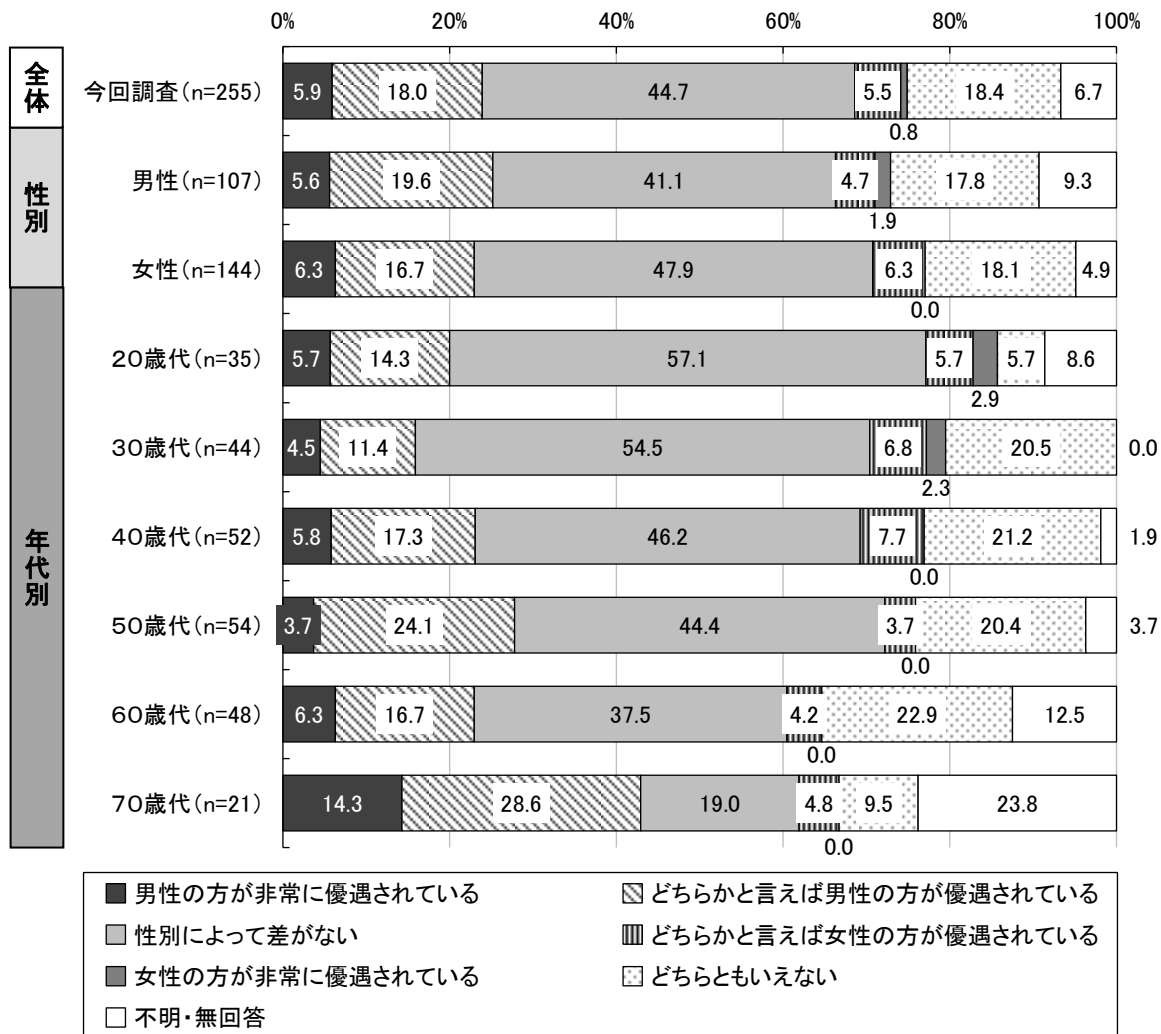


問7(5)全体的に

全体的についてみると、「性別によって差がない」が44.7%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が18.4%、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」が18.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「性別によって差がない」が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代から60歳代では「性別によって差がない」、70歳代では「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」がそれぞれ最も高くなっています。



問8 現在、働いていない方へお尋ねします。あなたが働いていない理由に近いものを1つお選びください。

働いていない理由についてみると、「高齢である」が33.1%と最も高く、次いで「特に理由はない」が6.6%、「自分の健康に自信がない」「その他」が5.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「高齢である」が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代では「現在、学校に通っている」、50歳代では「適当な仕事が見つからない」、60歳代以上では「高齢である」がそれぞれ最も高くなっています。

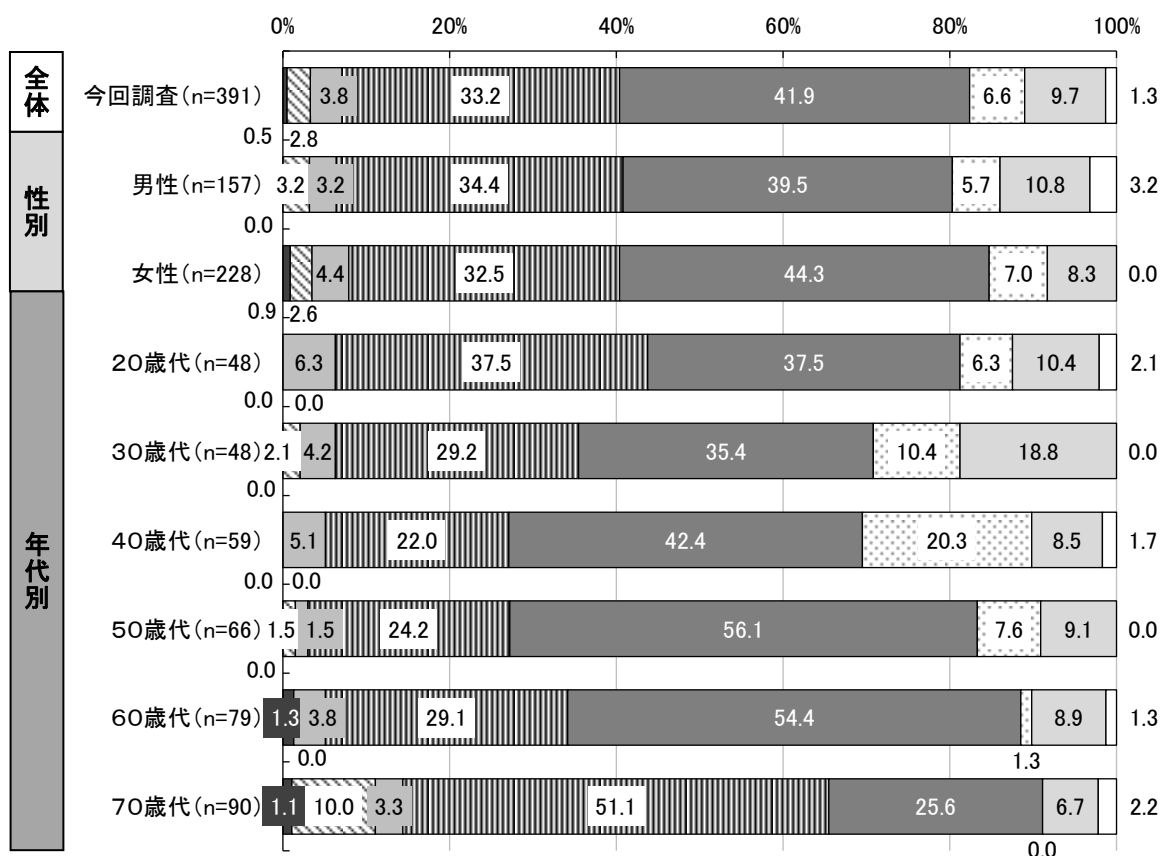
単位: %		い 適 当 な 仕 事 が 見 つ か ら な い	自 分 の 能 力 や 技 術 に 自 信 が な い	自 分 の 健 康 に 自 信 が な い	家 事 や 育 児 が お ろ そ か に な る	高 齢 者 や 病 人 の 介 護 が お ろ そ か に な る	趣 味 や ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 な ど に 忙 し い	経 済 的 に 働 く 必 要 が な い	働 き た く な い	働 く こ と を 禁 止 さ れ て い る	現 在 、 学 校 に 通 っ て い る	高 齢 で あ る	特 に 理 由 は な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=136)		4.4	0.7	5.9	0.7	3.7	2.2	0.7	2.9	0.7	5.1	33.1	6.6	5.9	27.2
性別	男性(n=50)	2.0	2.0	8.0	0.0	2.0	4.0	0.0	2.0	2.0	0.0	26.0	6.0	6.0	40.0
	女性(n=84)	6.0	0.0	4.8	1.2	4.8	1.2	1.2	2.4	0.0	8.3	38.1	7.1	6.0	19.0
年代別	20歳代(n=13)	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	53.8	0.0	7.7	0.0	30.8
	30歳代(n=4)	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	40歳代(n=7)	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4
	50歳代(n=12)	25.0	0.0	8.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	25.0
	60歳代(n=31)	3.2	0.0	3.2	0.0	9.7	3.2	0.0	9.7	3.2	0.0	19.4	3.2	9.7	35.5
	70歳代(n=69)	1.4	0.0	7.2	0.0	0.0	2.9	1.4	0.0	0.0	0.0	56.5	8.7	2.9	18.8

問9 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

女性が職業をもつことについての考えについてみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が41.9%と最も高く、次いで「子どもができたなら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後再就職する方がよい」が33.2%、「わからない」が9.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高くなっています。

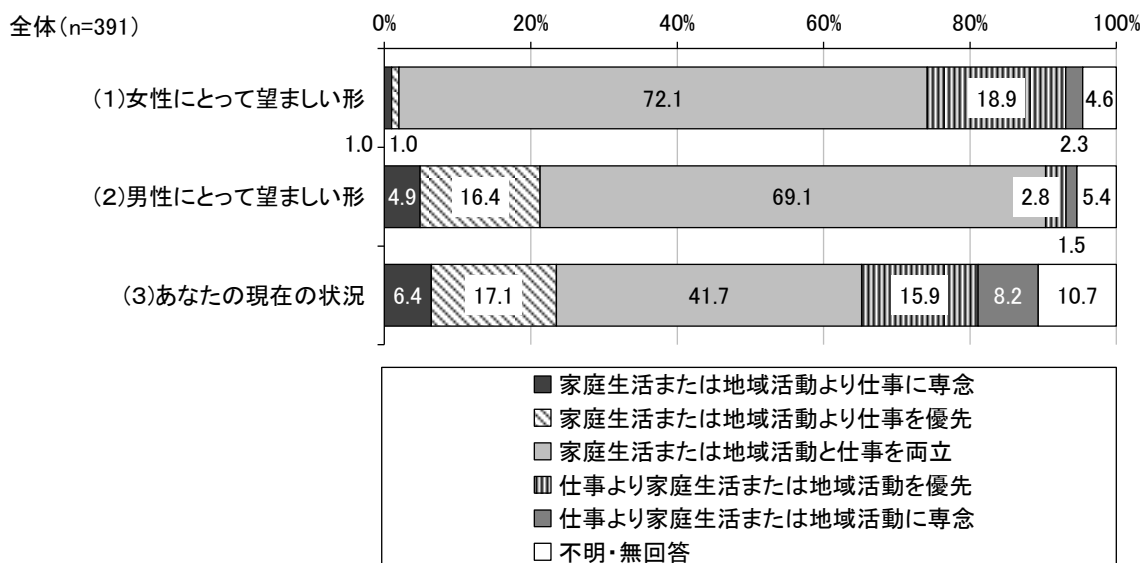
年代別にみると、20歳代では「子どもができたなら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後再就職する方がよい」「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」がともに最も高く、30歳代から60歳代では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」、70歳代では「子どもができたなら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後再就職する方がよい」がそれぞれ最も高くなっています。



- 女性は職業をもたない方がよい
- ▨ 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- ▩ 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- ▧ 子どもができたなら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後再就職する方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- ▨ その他
- わからない
- 不明・無回答

問 10 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」について、どのようなバランスにあるのが望ましいと思いますか。（１）～（３）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを１つずつお選びください。

「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の望ましい形についてみると、（１）～（３）の項目において「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が最も高くなっていますが、（３）あなたの現在の状況では、割合が半数以下となっています。次いで、（１）女性にとって望ましい形では「仕事より家庭生活または地域活動を優先」が高くなっているのに対して、（２）男性にとって望ましい形、（３）あなたの現在の状況では「家庭生活または地域活動より仕事を優先」が高くなっています。

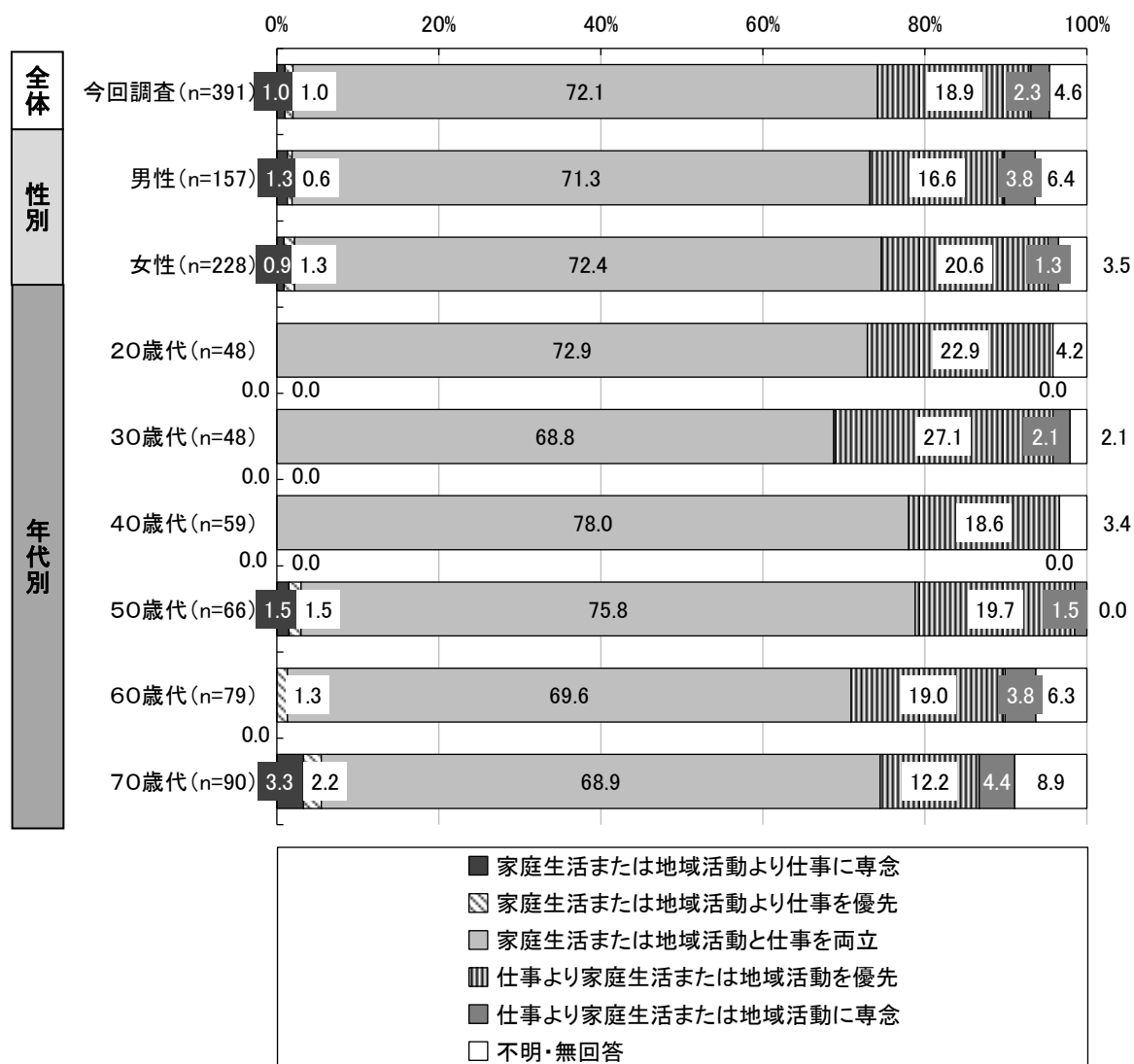


問 10(1)女性にとって望ましい形

「ワーク・ライフ・バランス」の女性にとって望ましい形についてみると、「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が72.1%と最も高く、次いで「仕事より家庭生活または地域活動を優先」が18.9%、「仕事より家庭生活または地域活動に専念」が2.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が最も高くなっています。

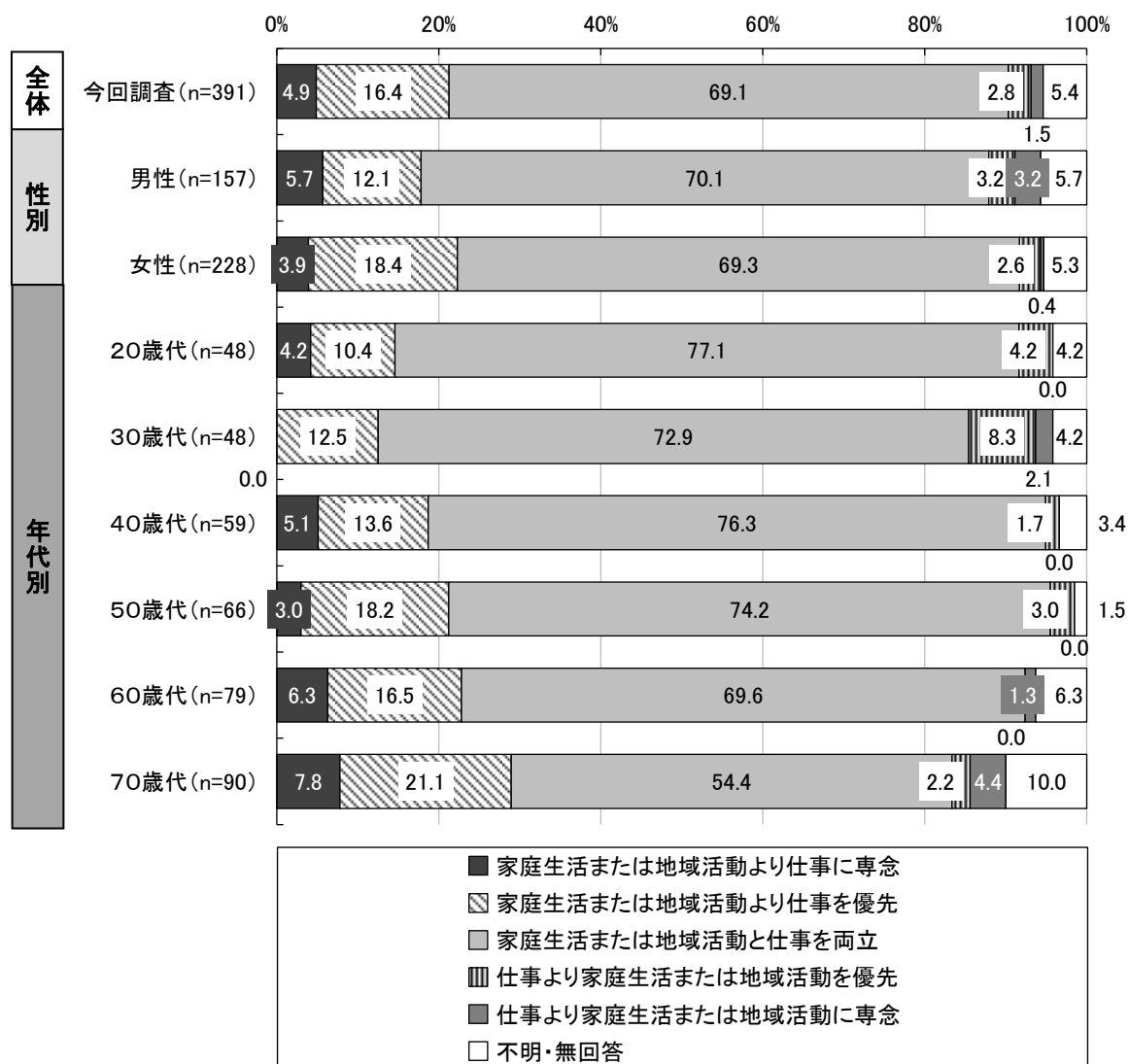


問 10(2) 男性にとって望ましい形

「ワーク・ライフ・バランス」の男性にとって望ましい形についてみると、「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が 69.1%と最も高く、次いで「家庭生活または地域活動より仕事を優先」が 16.4%、「家庭生活または地域活動より仕事に専念」が 4.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が最も高くなっています。

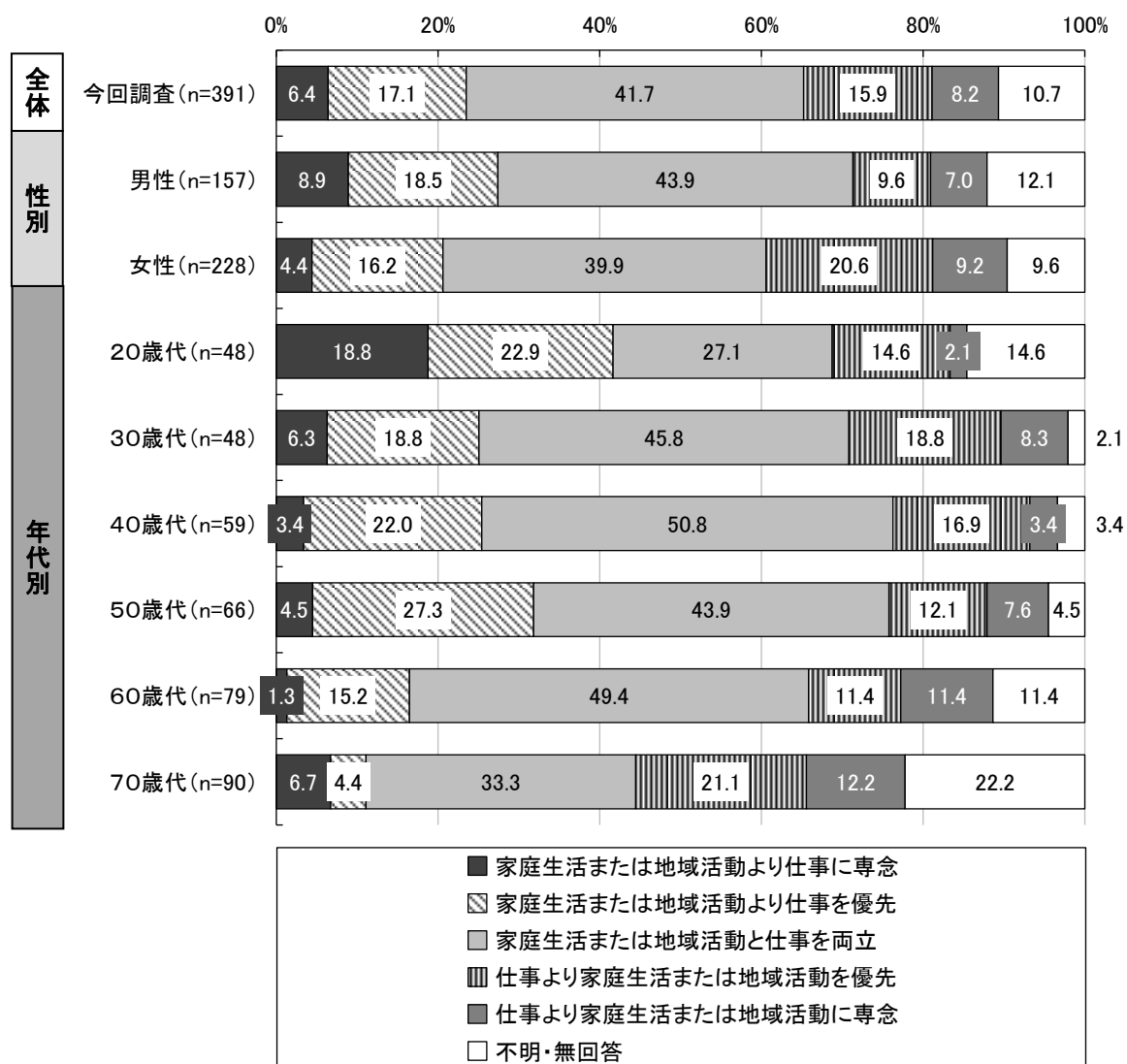


問 10(3) あなたの現在の状況

「ワーク・ライフ・バランス」の現在の状況についてみると、「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が41.7%と最も高く、次いで「家庭生活または地域活動より仕事を優先」が17.1%、「仕事より家庭生活または地域活動を優先」が15.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が最も高くなっています。



問 11 あなたは、男女がともに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」を実現させるためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで）

男女がともに「ワーク・ライフ・バランス」を実現させるために今後必要だと思うことについてみると、「労働時間の短縮、フレックスタイム制(自由勤務時間制)、在宅勤務制度を導入する」「女性が働くことに対する、家族や職場などの周囲の理解・協力を深める」がともに 32.0%と最も高く、次いで「男性が家事や育児、介護へ参加する」が 31.5%、「育児や介護のための施設やサービスを充実する」が 26.9%となっています。

性別にみると、男性では「労働時間の短縮、フレックスタイム制、在宅勤務制度を導入する」、女性では「男性が家事や育児、介護へ参加する」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、20 歳代では「結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する」、30 歳代では「労働時間の短縮、フレックスタイム制、在宅勤務制度を導入する」、40 歳代では「育児や介護のための施設やサービスを充実する」、50 歳代以上では「女性が働くことに対する、家族や職場などの周囲の理解・協力を深める」がそれぞれ最も高くなっています。

単位：%		雇用・労働条件での男女間格差を是正する	在宅勤務制度を導入する	労働時間の短縮、フレックスタイム制、在宅勤務制度を導入する	育児休業制度・介護休業制度の取得を促進する※	※「子の看護休暇制度」の取得を促進する	子育て時期などにおける転勤に配慮する	男性が家事や育児、介護へ参加する	女性や職場などの周囲の理解・協力を深める	育児や介護のための施設やサービスを充実する	結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する	就職情報を積極的に提供する	男性、女性ともに自覚や意欲・能力を向上させる	その他	特に必要なことはない	不明・無回答
全体 (n=391)		26.3	32.0	24.0	23.5	13.8	31.5	32.0	26.9	24.8	9.5	18.4	2.8	5.1	3.3	
性別	男性 (n=157)	29.3	36.9	23.6	19.1	14.0	26.1	28.0	22.3	25.5	10.2	19.7	3.2	7.0	3.2	
	女性 (n=228)	24.6	28.9	24.6	26.8	14.0	36.0	33.8	29.8	24.6	8.3	17.1	2.6	3.5	3.5	
年代別	20歳代 (n=48)	29.2	39.6	31.3	16.7	20.8	37.5	16.7	16.7	43.8	12.5	8.3	2.1	2.1	4.2	
	30歳代 (n=48)	14.6	45.8	27.1	20.8	8.3	33.3	22.9	25.0	27.1	4.2	14.6	4.2	12.5	0.0	
	40歳代 (n=59)	20.3	33.9	25.4	30.5	8.5	32.2	33.9	35.6	13.6	11.9	20.3	5.1	3.4	1.7	
	50歳代 (n=66)	33.3	28.8	15.2	28.8	12.1	39.4	40.9	30.3	19.7	7.6	21.2	1.5	1.5	0.0	
	60歳代 (n=79)	27.8	30.4	21.5	27.8	17.7	20.3	34.2	25.3	27.8	8.9	19.0	1.3	5.1	3.8	
	70歳代 (n=90)	27.8	23.3	26.7	16.7	14.4	30.0	35.6	26.7	21.1	11.1	22.2	3.3	6.7	7.8	

※「育児休業・介護休業制度」とは、法律により取得することができる、育児又は介護のための一定期間の休業制度で、無給の企業が多いですが、一定の要件を満たすと給付金が支給されます。

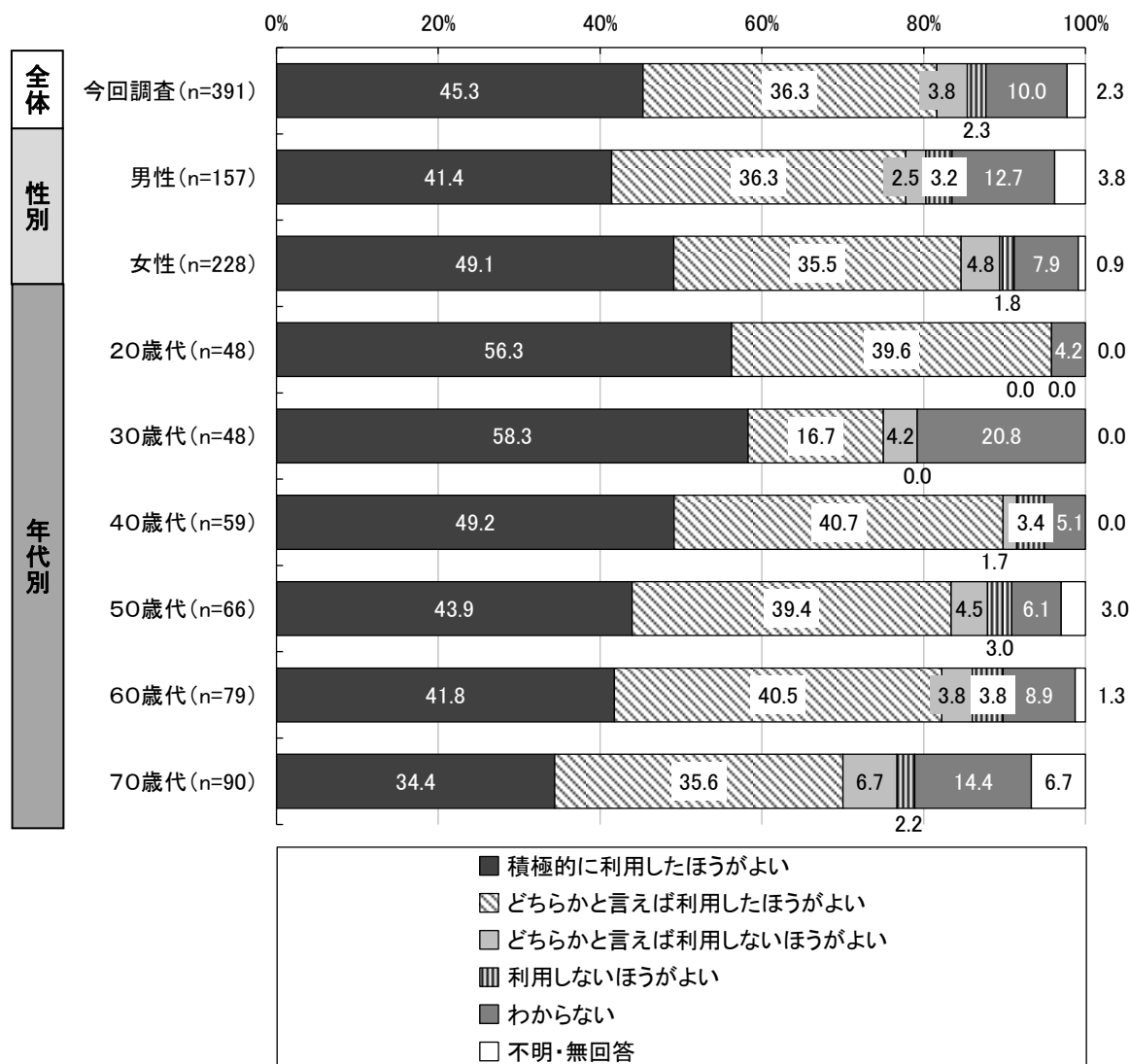
※「子の看護休暇制度」は、子どもが病気やけがの時などに休暇が取得できる制度で、「介護休暇制度」は、要介護状態にある家族の介護やその他の世話をする時に休暇が取得できる制度です。どちらも法律により休暇取得の権利が保障されています。

問 12 あなたは、男性が「育児休業制度・介護休業制度」を利用することについてどう考えますか。
あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

男性が「育児休業制度・介護休業制度」を利用することについての考えについてみると、「積極的に利用したほうがよい」が45.3%と最も高く、次いで「どちらかと言えば利用したほうがよい」が36.3%、「わからない」が10.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「積極的に利用したほうがよい」が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代から60歳代では「積極的に利用したほうがよい」、70歳代では「どちらかと言えば利用したほうがよい」がそれぞれ最も高くなっています。



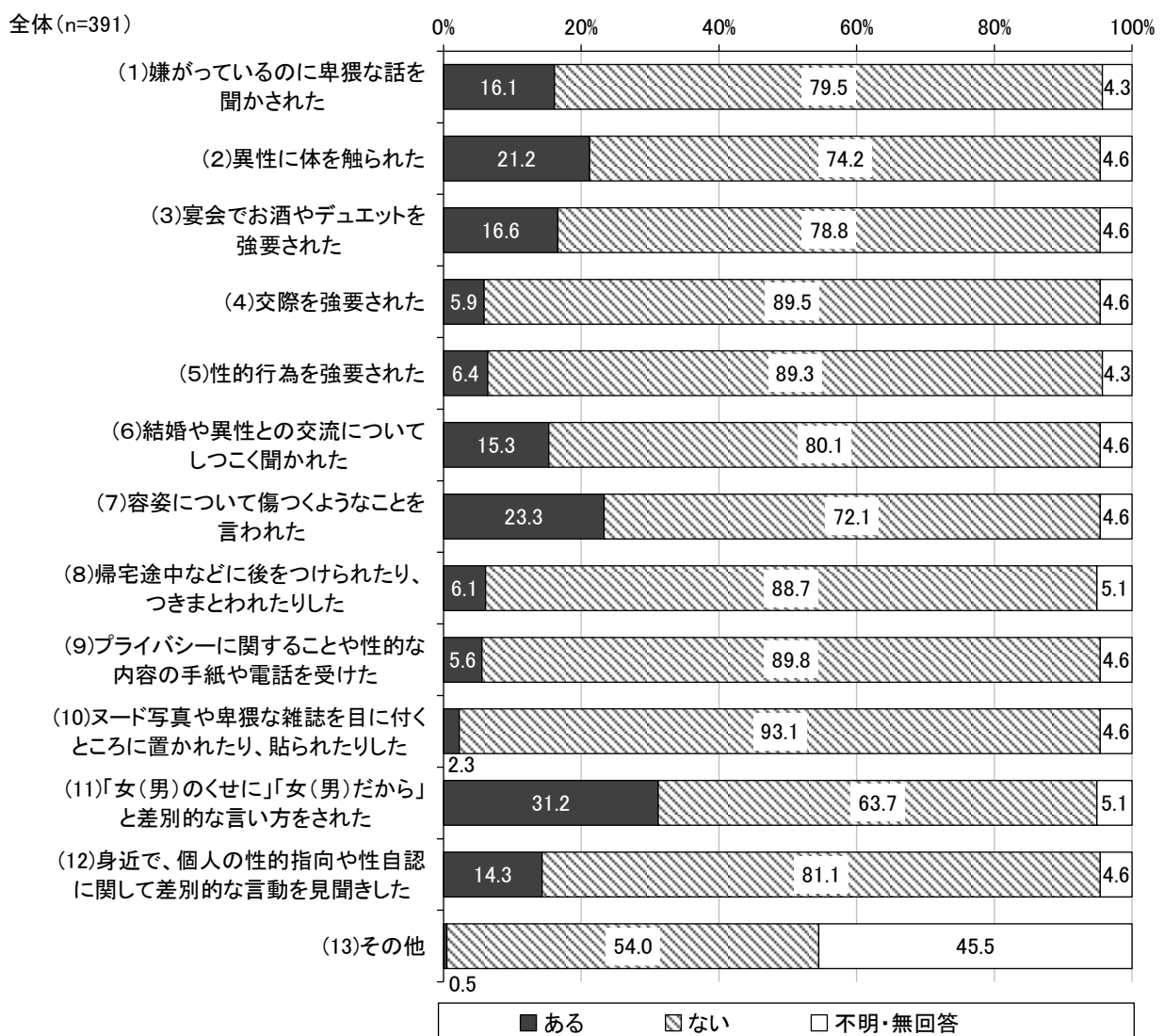
5 セクハラ・DV・性的マイノリティについて

※DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人などの親密な関係にある者またはあった者からふるわれる身体的・心理的・性的・経済的暴力のことです。

※性的マイノリティ(LGBTQ)とは、性的少数者(同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々)のことをいいます。

問 13 あなたはこれまでに、次のような行為で不快な思いをしたことがありますか。(1)～(13)のそれぞれについて、経験がある場合には1、ない場合には2をお選びください。

不快な思いをした経験の有無についてみると、すべての行為において「ない」が5割以上となっています。また、経験が「ある」の中では、(11)「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた経験が「ある」割合が3割と、最も高くなっています。

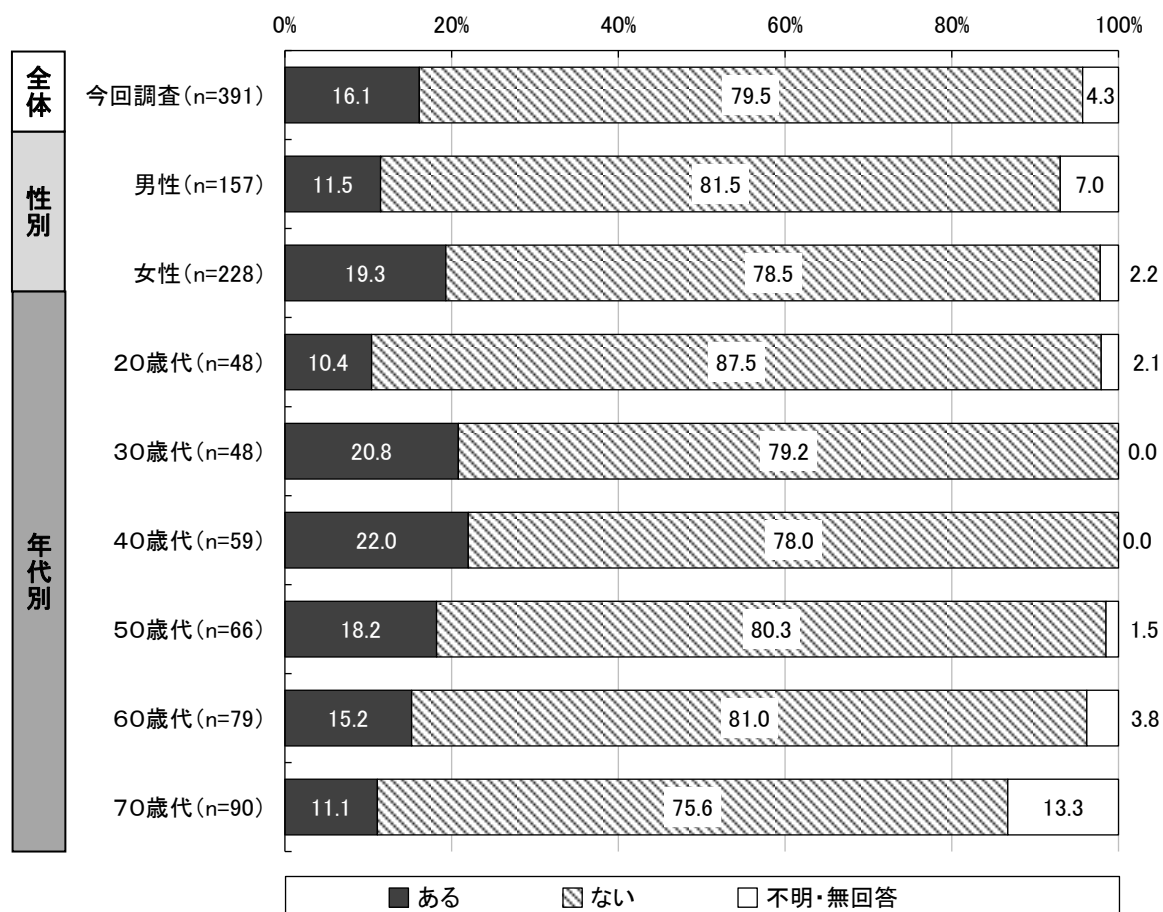


問 13(1)嫌がっているのに卑猥な話を聞かされた

嫌がっているのに卑猥な話を聞かされた経験の有無についてみると、「ない」が79.5%と、「ある」の16.1%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では11.5%、女性では19.3%となっています。

年代別にみると、「ある」が30歳代から50歳代では2割前後となっています。

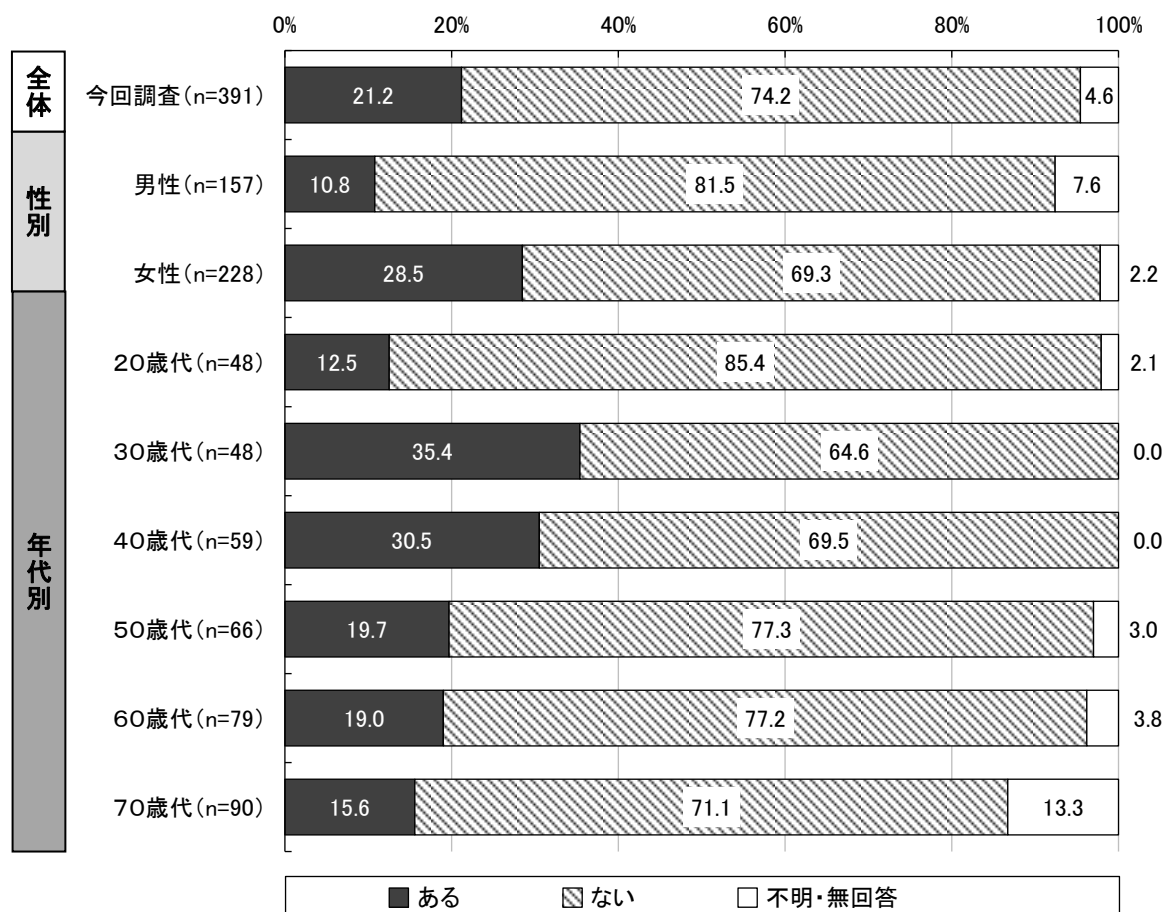


問 13(2) 異性に体を触られた

異性に体を触られた経験の有無についてみると、「ない」が74.2%と、「ある」の21.2%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では10.8%、女性では28.5%となっています。

年代別にみると、「ある」が30歳代、40歳代では3割台となっています。

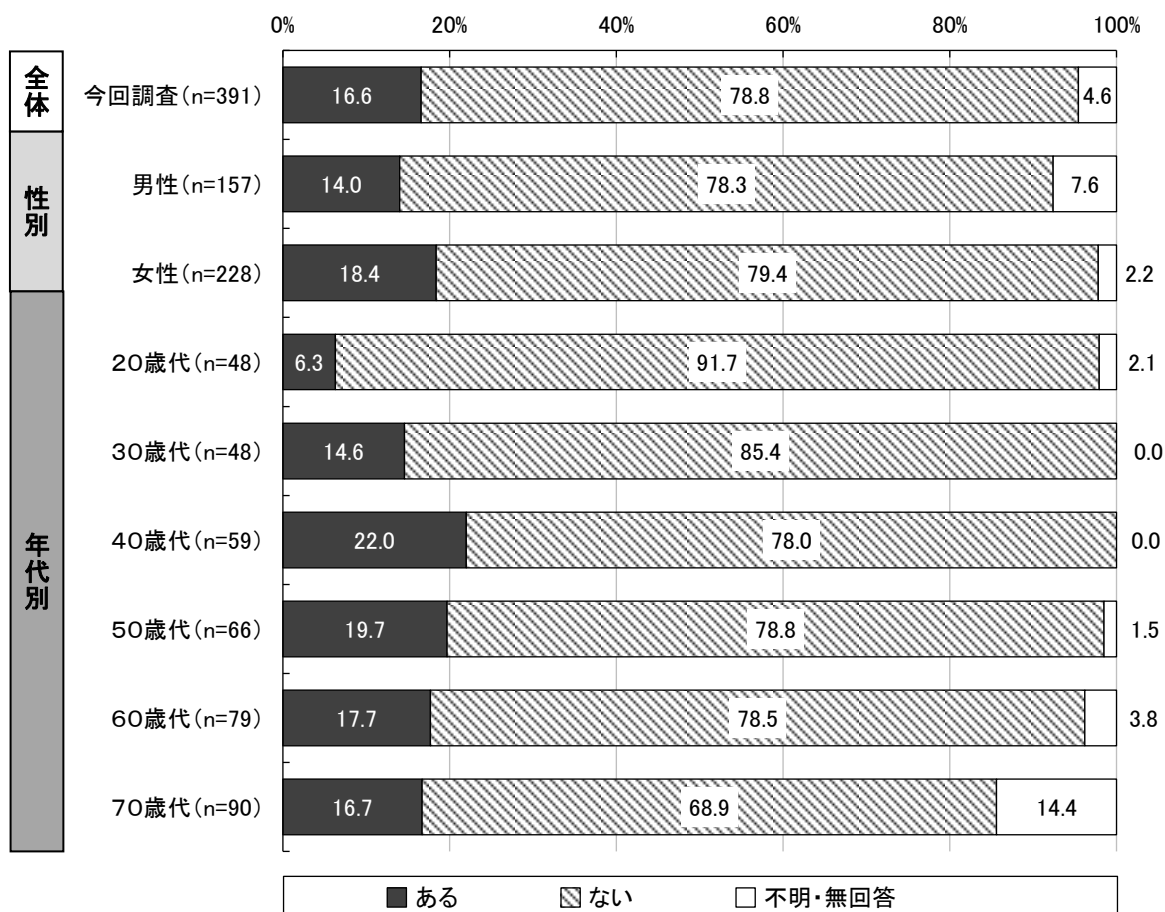


問 13(3) 宴会でお酒やデュエットを強要された

宴会でお酒やデュエットを強要された経験の有無についてみると、「ない」が 78.8%と、「ある」の 16.6%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では 14.0%、女性では 18.4%となっています。

年代別にみると、「ある」が 40 歳代、50 歳代では 2 割前後となっています。

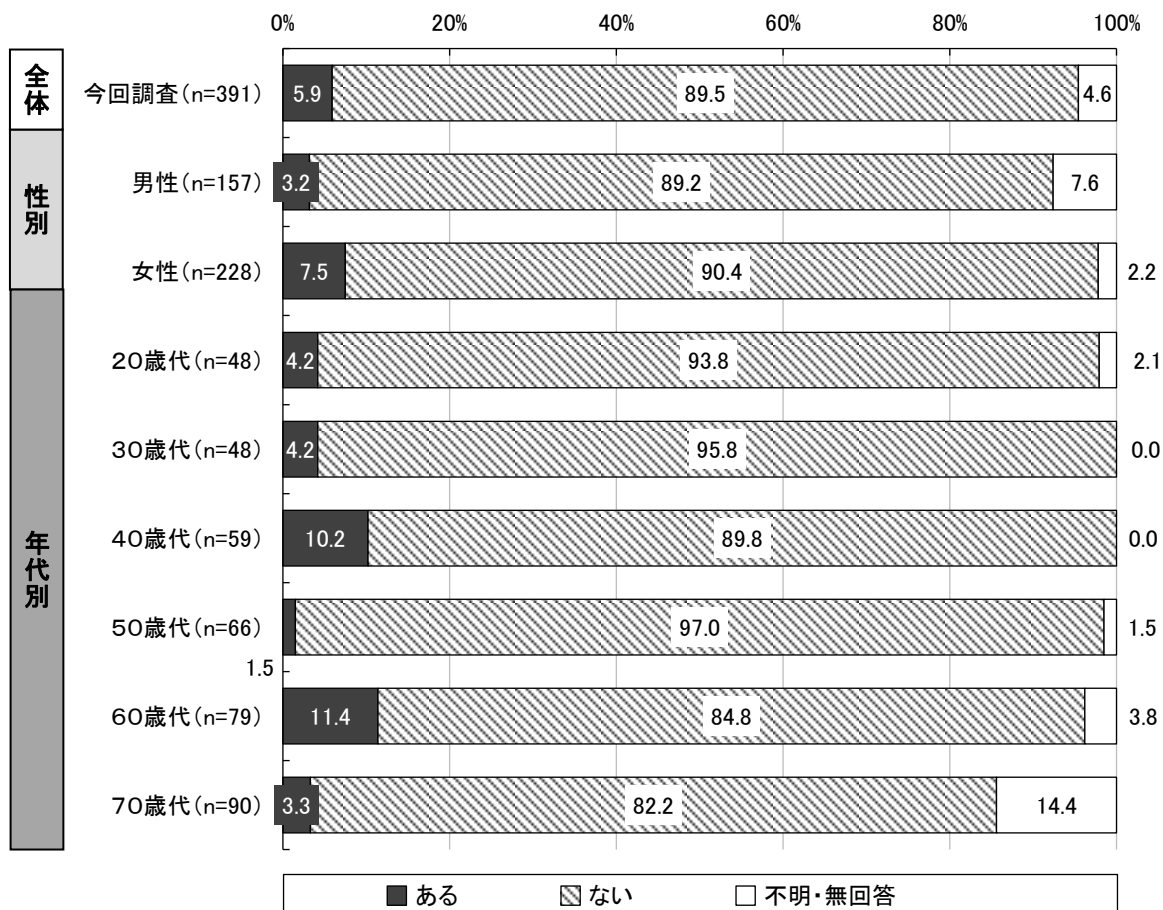


問 13(4) 交際を強要された

交際を強要された経験の有無についてみると、「ない」が89.5%と、「ある」の5.9%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では3.2%、女性では7.5%となっています。

年代別にみると、「ある」が40歳代、60歳代では1割台となっています。

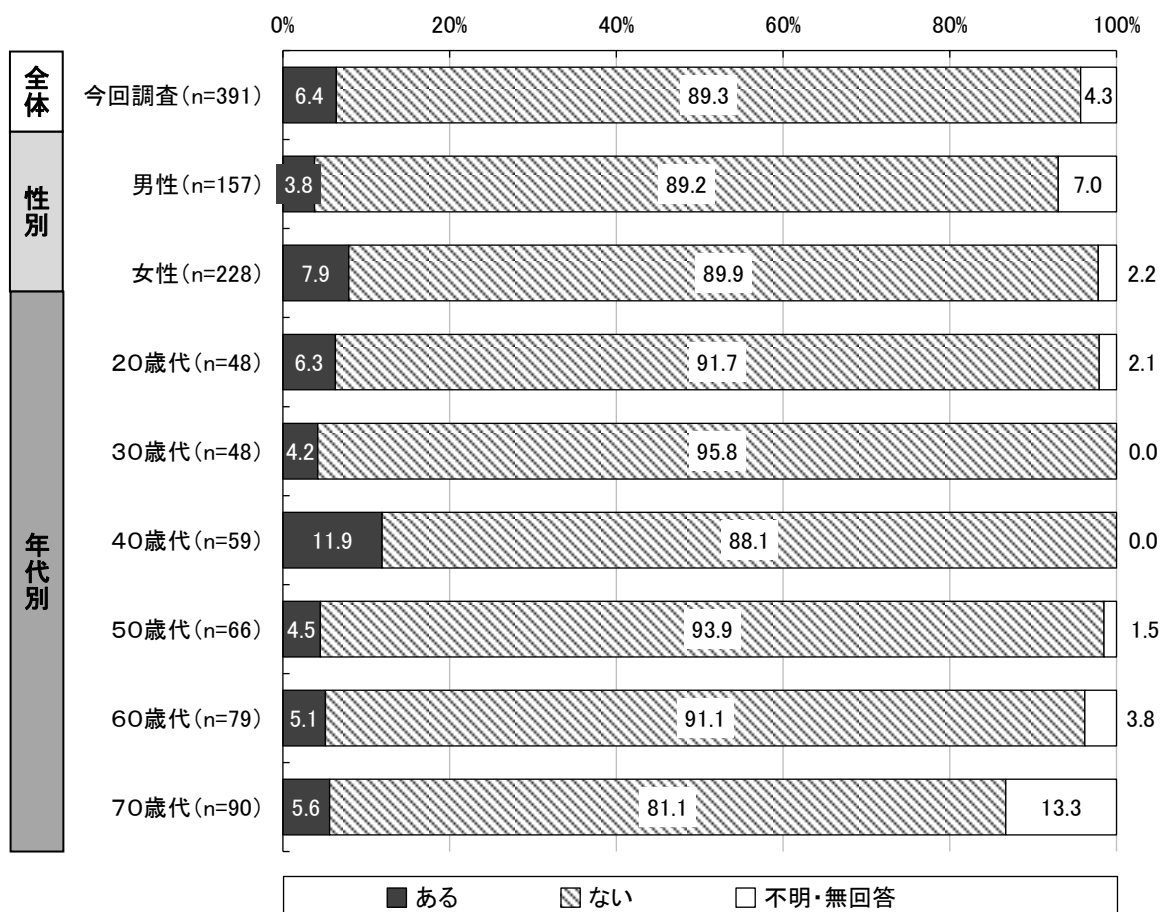


問 13(5) 性的行為を強要された

性的行為を強要された経験の有無についてみると、「ない」が89.3%と、「ある」の6.4%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では3.8%、女性では7.9%となっています。

年代別にみると、「ある」が40歳代では1割台となっています。

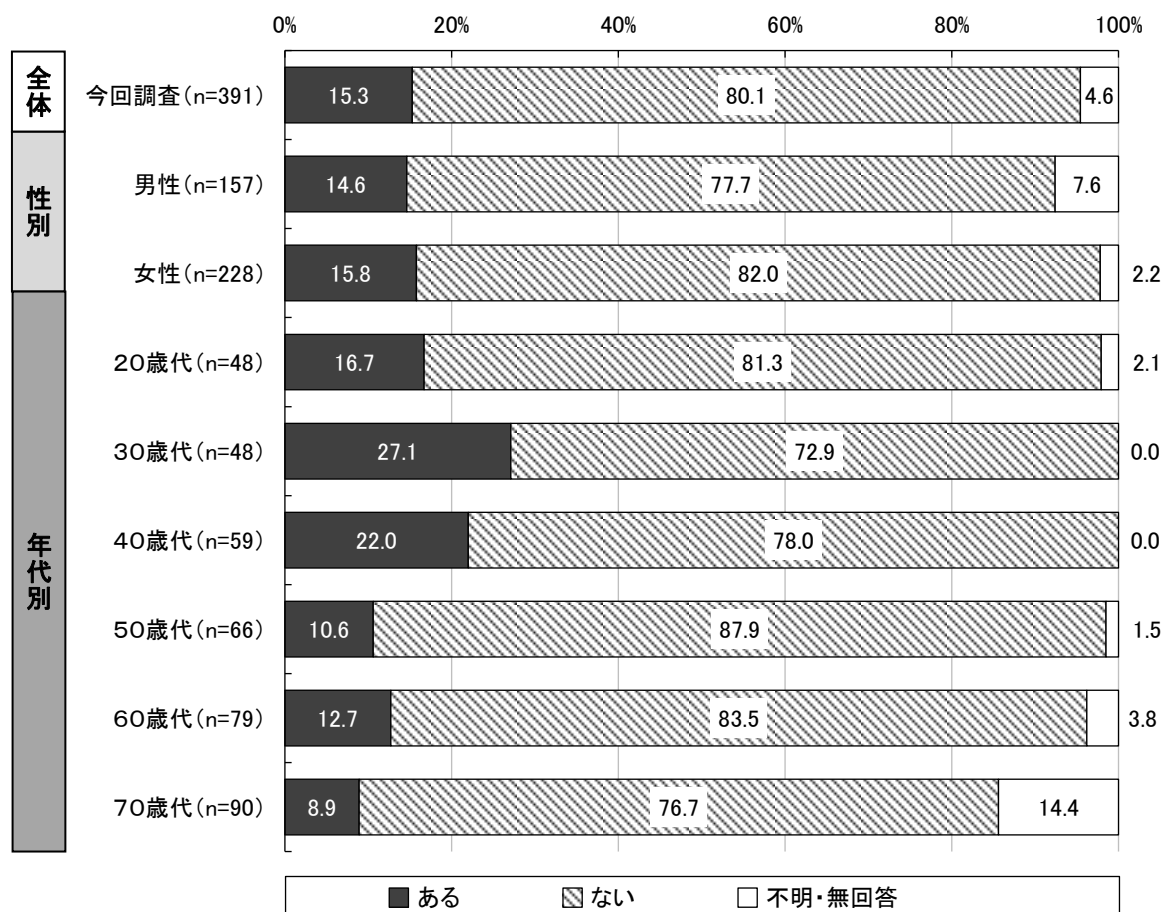


問 13(6)結婚や異性との交流についてしつこく聞かれた

結婚や異性との交流についてしつこく聞かれた経験の有無についてみると、「ない」が80.1%と、「ある」の15.3%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では14.6%、女性では15.8%となっています。

年代別にみると、「ある」が30歳代、40歳代では2割台となっています。

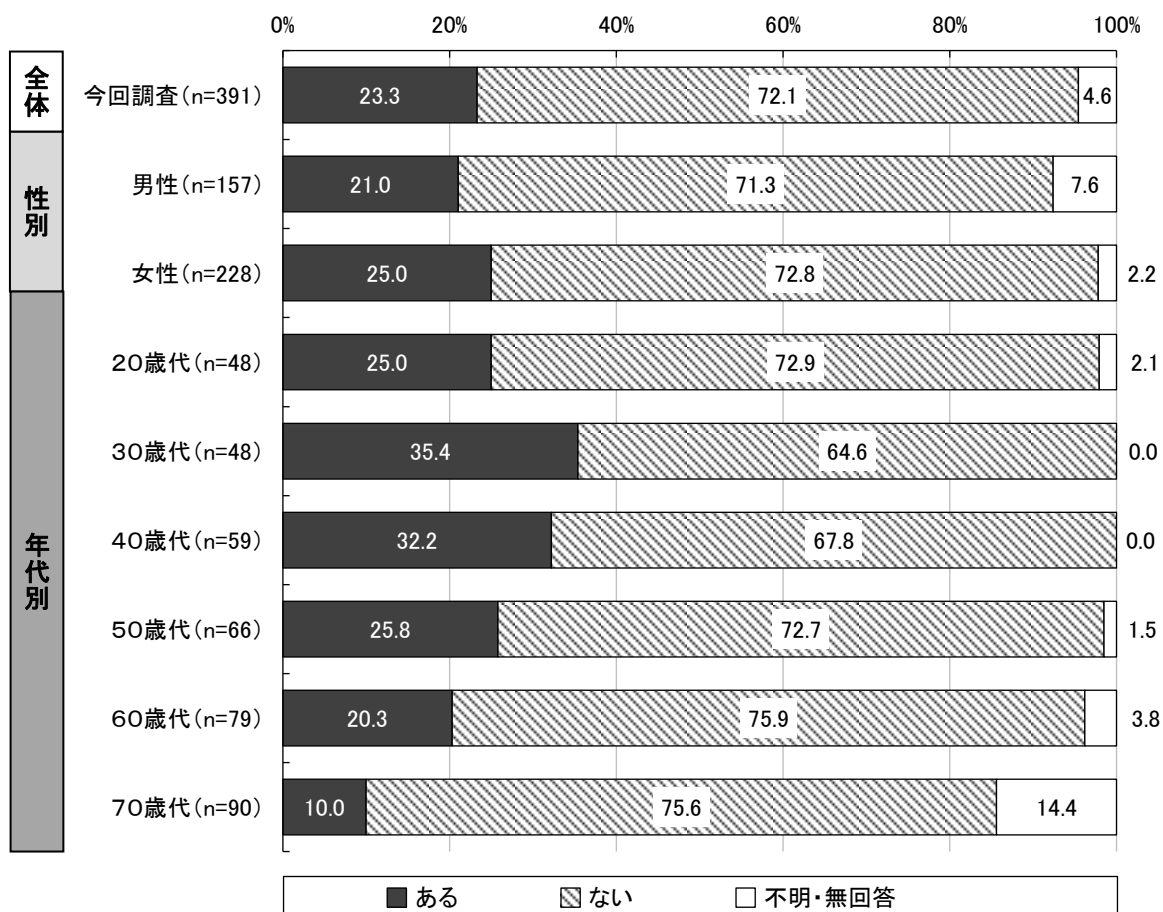


問 13(7)容姿について傷つくようなことを言われた

容姿について傷つくようなことを言われた経験の有無についてみると、「ない」が 72.1%と、「ある」の 23.3%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では 21.0%、女性では 25.0%となっています。

年代別にみると、「ある」が 30 歳代、40 歳代では 3 割台となっています。

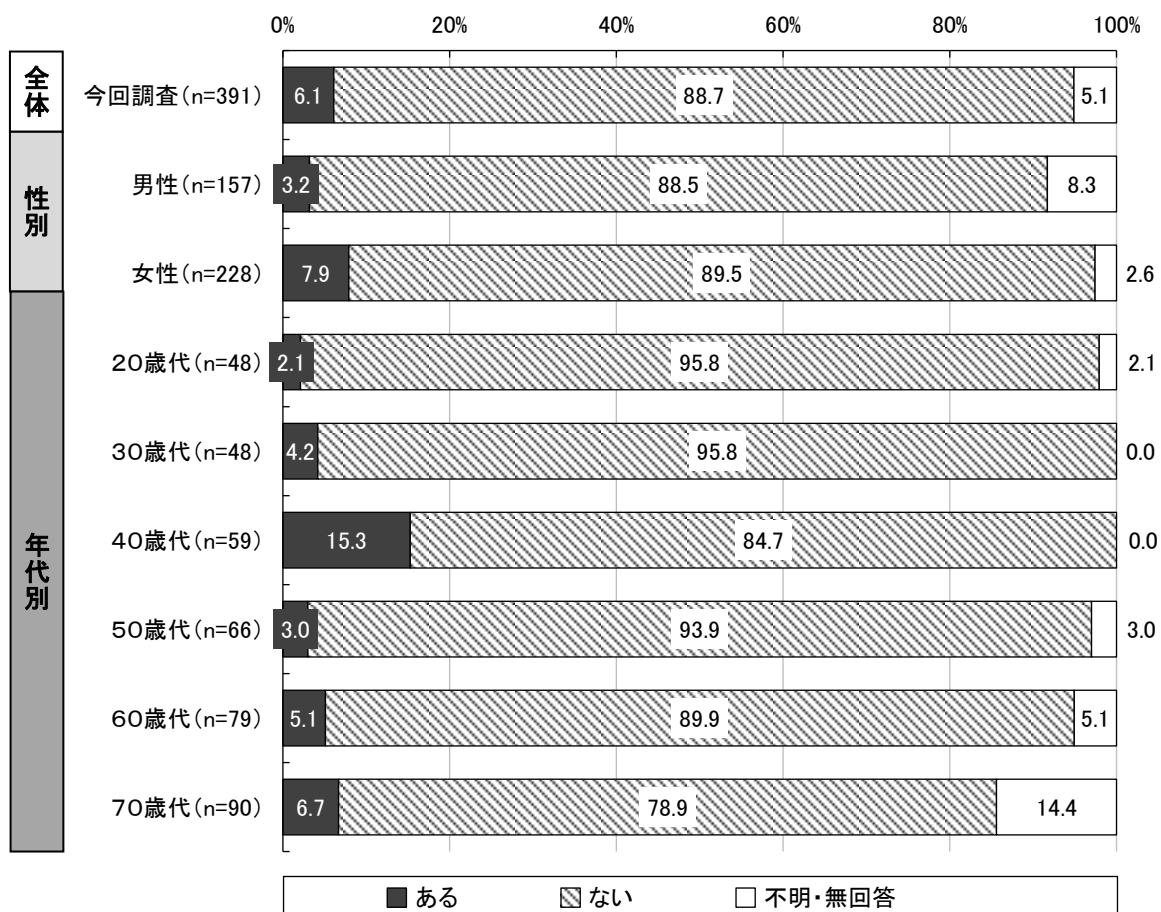


問 13(8) 帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした

帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした経験の有無についてみると、「ない」が88.7%と、「ある」の6.1%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では3.2%、女性では7.9%となっています。

年代別にみると、「ある」が40歳代では1割台となっています。

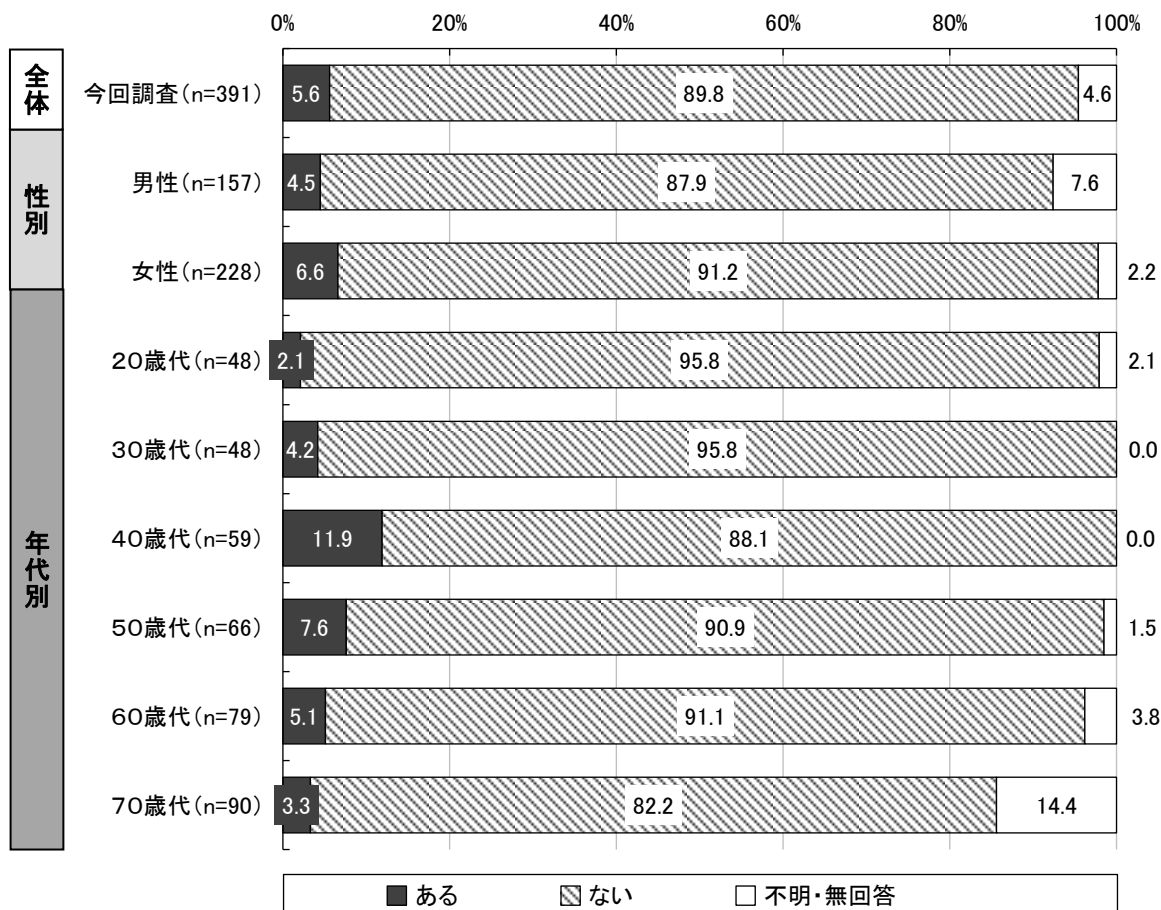


問 13(9) プライバシーに関することや性的な内容の手紙や電話を受けた

プライバシーに関することや性的な内容の手紙・電話を受けた経験の有無についてみると、「ない」が89.8%と、「ある」の5.6%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では4.5%、女性では6.6%となっています。

年代別にみると、「ある」が40歳代では1割台となっています。

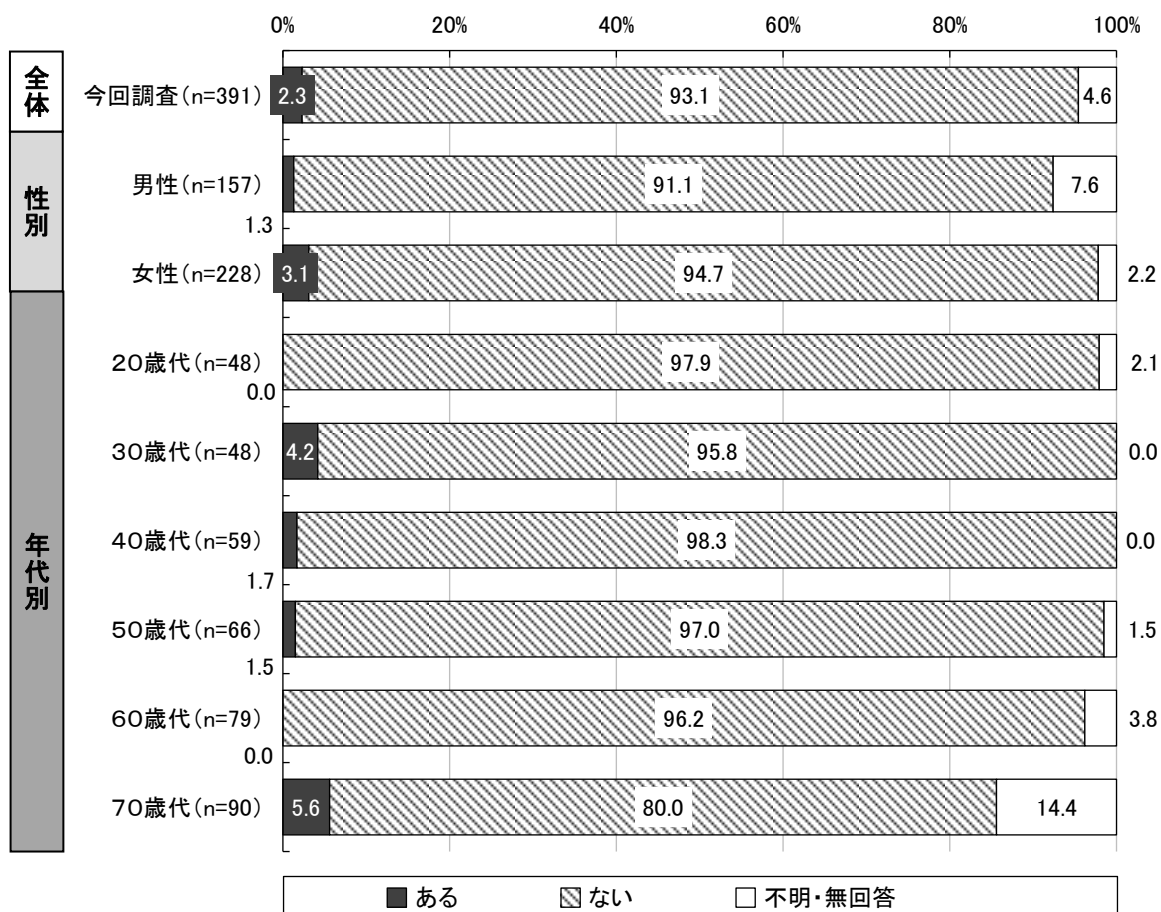


問 13(10)ヌード写真や卑猥な雑誌を目に付くところに置かれたり、貼られたりした

ヌード写真や卑猥な雑誌を目に付くところに置かれたり、貼られたりした経験の有無についてみると、「ない」が93.1%と、「ある」の2.3%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では1.3%、女性では3.1%となっています。

年代別にみると、「ある」がすべての年代で1割未満となっています。

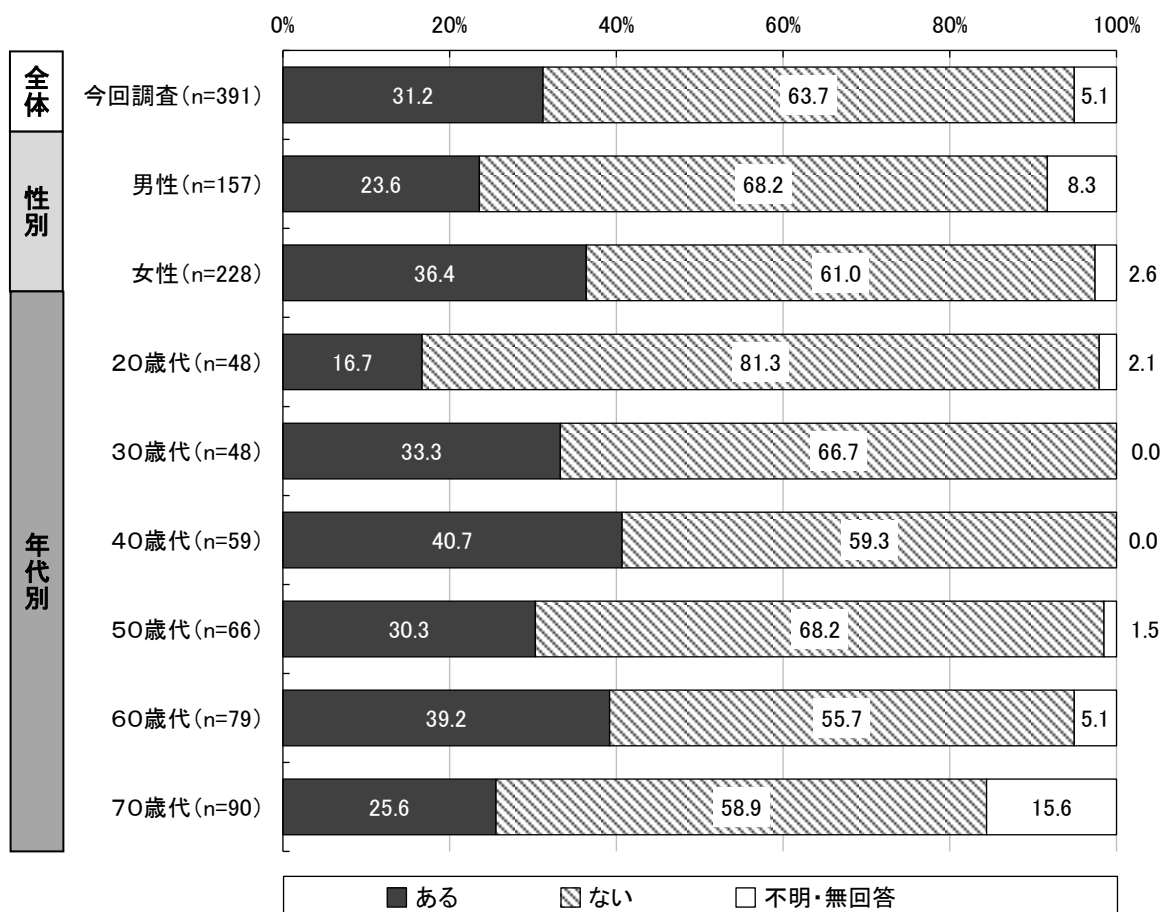


問 13(11) 「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた

「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた経験の有無についてみると、「ない」が 63.7%と、「ある」の 31.2%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では 23.6%、女性では 36.4%となっています。

年代別にみると、「ある」が 40 歳代、60 歳代では 4 割前後となっています。

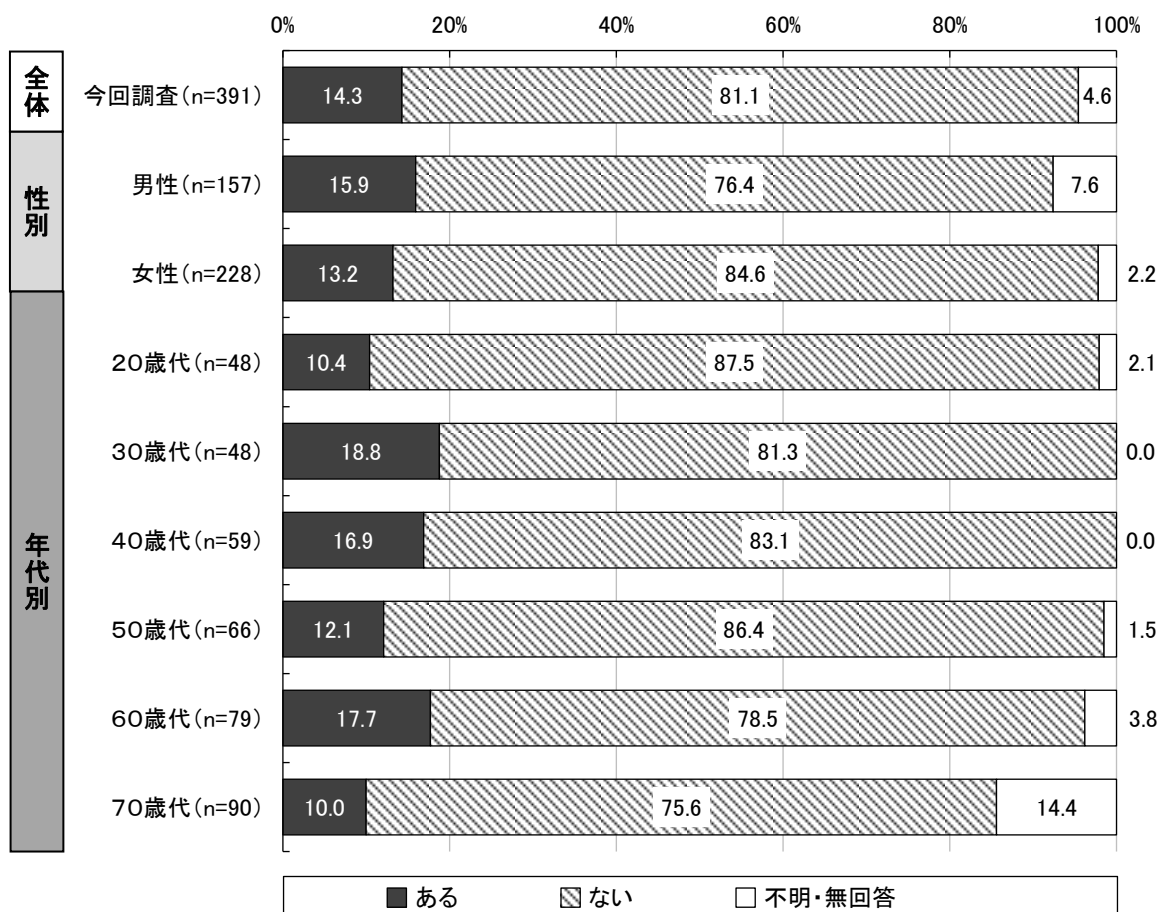


問 13(12) 身近で、個人の性的指向や性自認に関して差別的な言動を見聞きした

身近で、個人の性的指向や性自認に関して差別的な言動を見聞きした経験の有無についてみると、「ない」が81.1%と、「ある」の14.3%を上回っています。

性別にみると、「ある」が男性では15.9%、女性では13.2%となっています。

年代別にみると、「ある」が30歳代では約2割となっています。

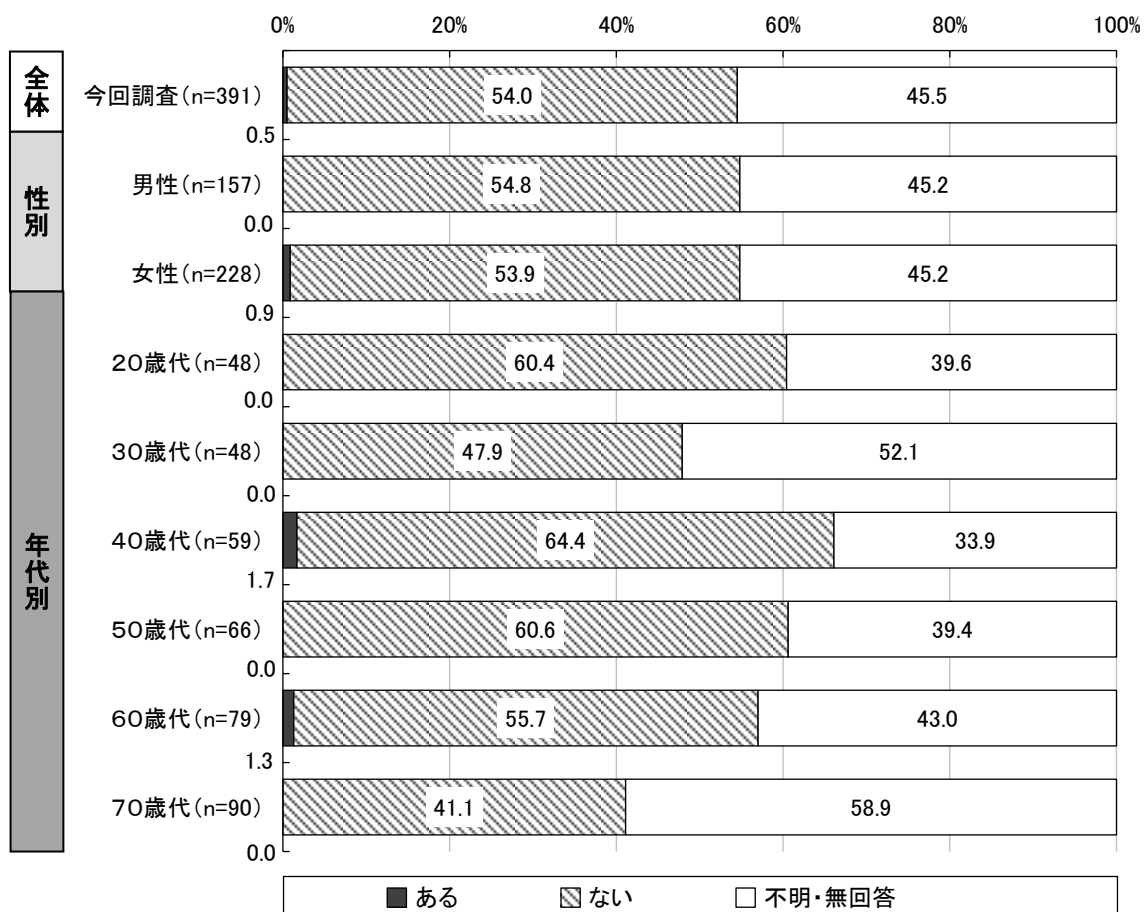


問 13(13) その他

(1) から (12) の項目以外で、不快な思いをした経験の有無についてみると、「ない」が 54.0%と、「ある」の 0.5%を上回っています。

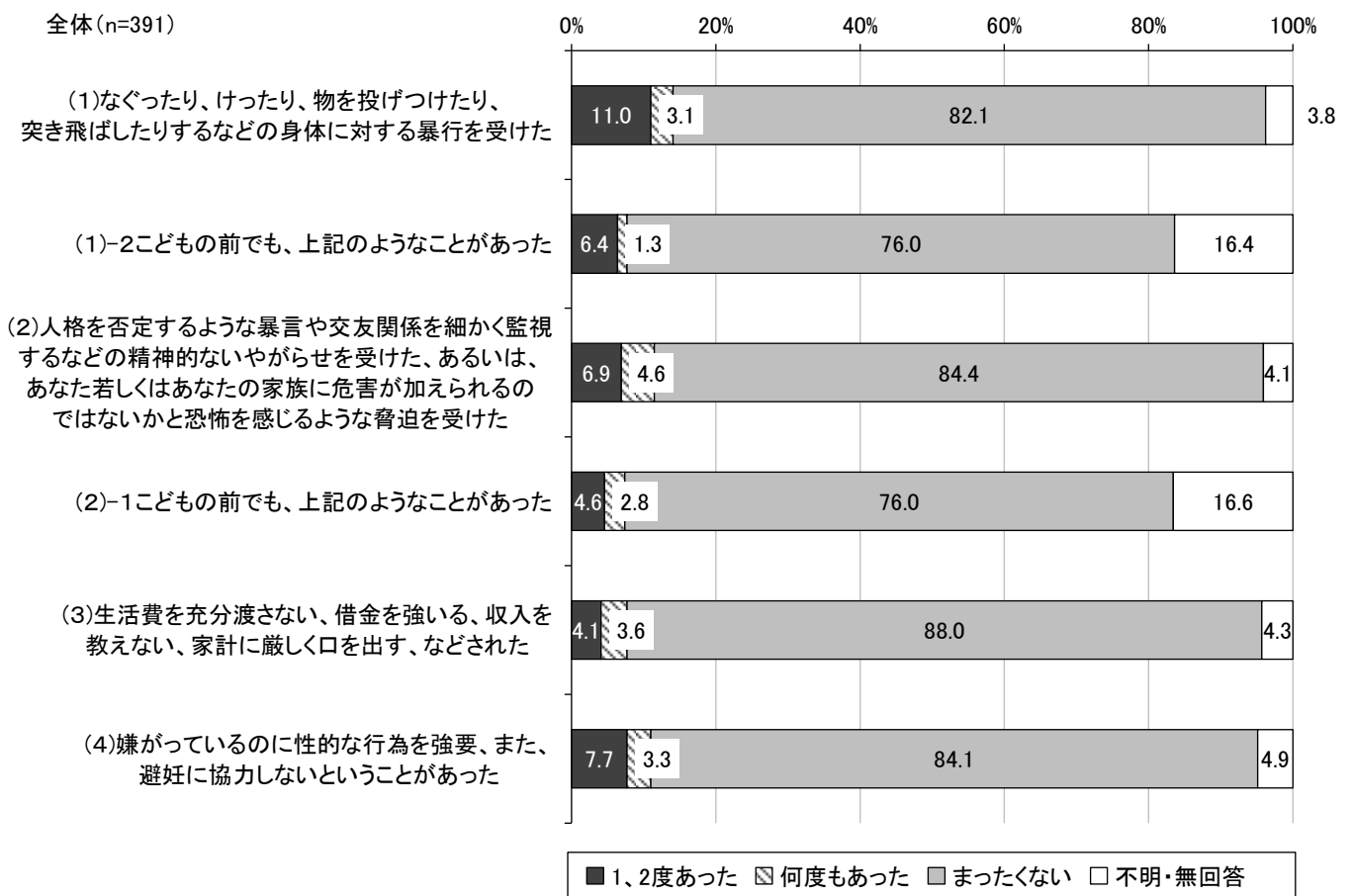
性別にみると、「ない」が男性では 54.8%、女性では 53.9%となっています。

年代別にみると、「ない」が 30 歳代、70 歳代では 4 割台となっています。



問 14 「DV（ドメスティック・バイオレンス）」についてお尋ねします。あなたは配偶者や恋人、交際相手など親密な関係にある（あった）者から次のようなことをされたことがありますか。

「DV（ドメスティック・バイオレンス）」について、以下のような経験の有無をみると、すべての項目で「まったくない」が最も高くなっています。また、(1)なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた、(2)人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的ないやがらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた、(4)嫌がっているのに性的な行為を強要、また、避妊に協力しないということがあった、の項目では『経験があった』（「1、2度あった」と「何度もあった」の計）が1割台となっています。

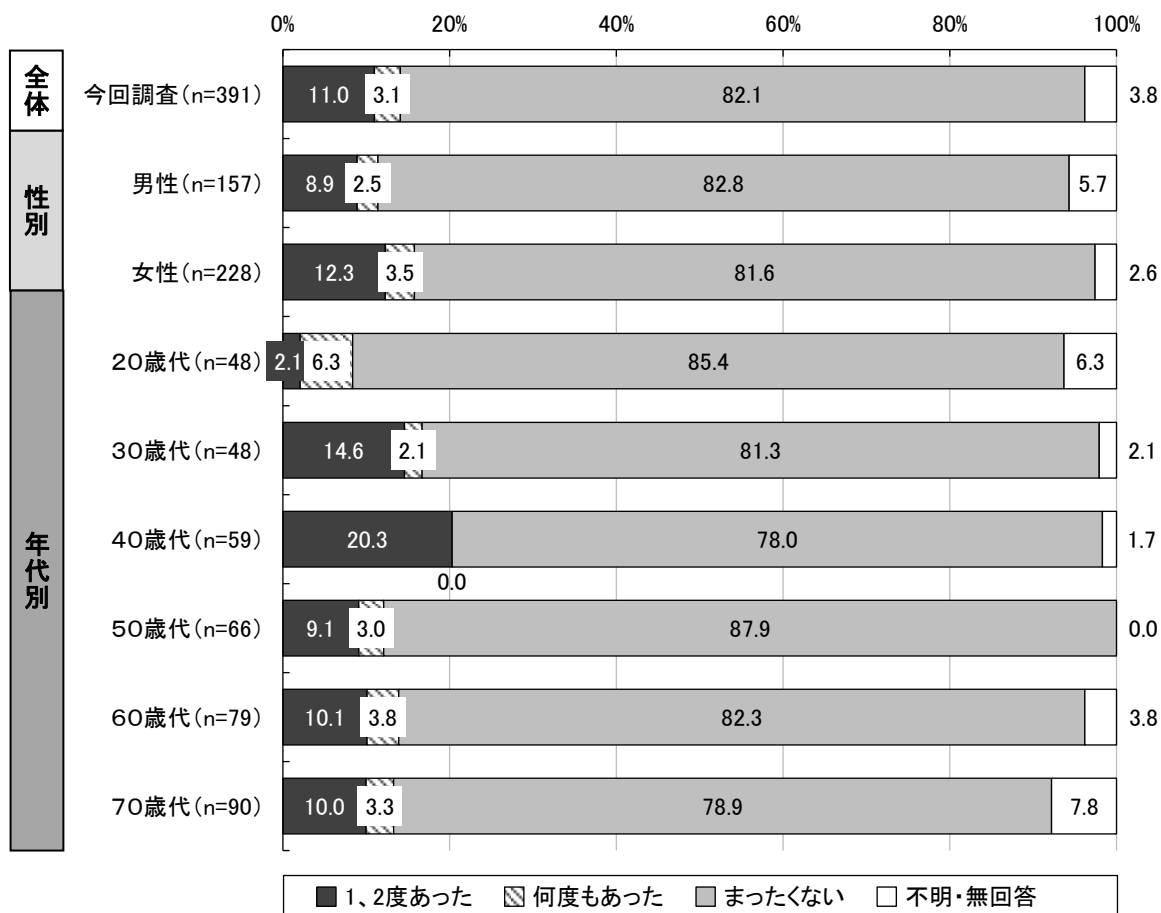


問 14(1) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

身体に対する暴行を受けた経験の有無についてみると、「まったくない」が 82.1%と最も高く、次いで「1、2度あった」が 11.0%、「何度もあった」が 3.1%となっています。

性別にみると、『経験があった』が、男性で 11.4%、女性で 15.8%となっています。

年代別にみると、40歳代では「1、2度あった」が、約2割となっています。

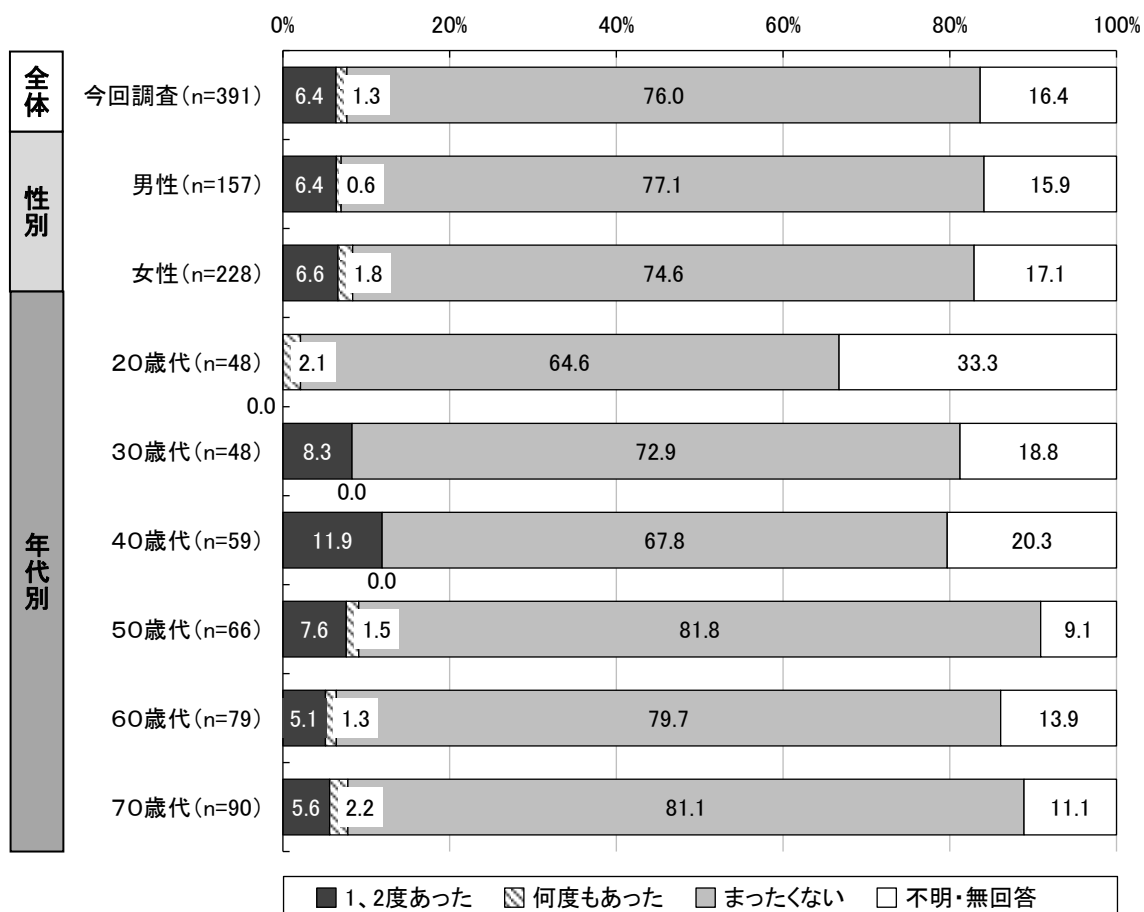


問 14(1)-2 こどもの前でも、上記のようなことがあった

こどもの前で身体に対する暴行を受けた経験の有無についてみると、「まったくない」が 76.0%と最も高く、次いで「1、2度あった」が 6.4%、「何度もあった」が 1.3%となっています。

性別にみると、『経験があった』が、男性で 7.0%、女性で 8.4%となっています。

年代別にみると、40歳代では「1、2度あった」が、約 1割となっています。

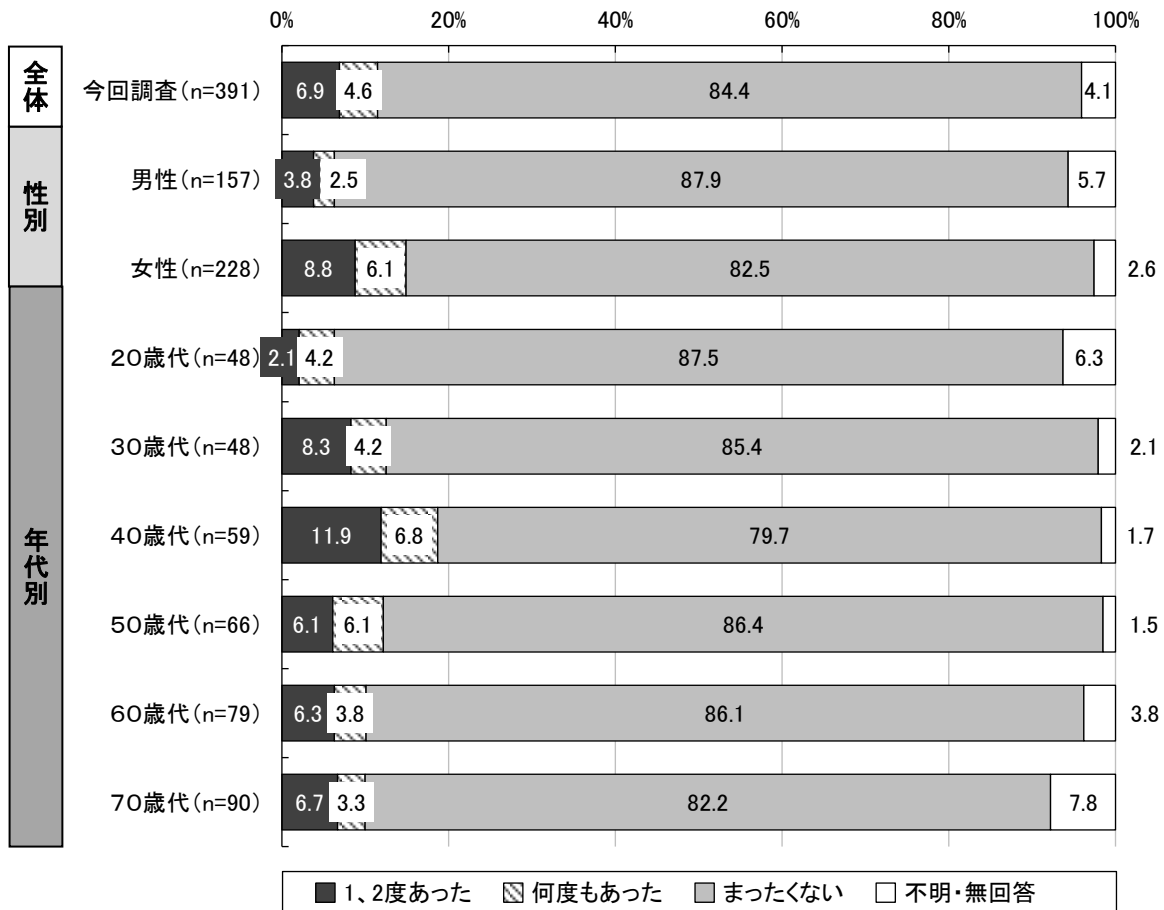


問 14(2) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的ないやがらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

人格否定などの精神的ないやがらせや脅迫を受けた経験の有無についてみると、「まったくない」が84.4%と最も高く、次いで「1、2度あった」が6.9%、「何度もあった」が4.6%となっています。

性別にみると、『経験があった』が、男性で6.3%、女性で14.9%となっています。

年代別にみると、40歳代では『経験があった』が、約2割となっています。

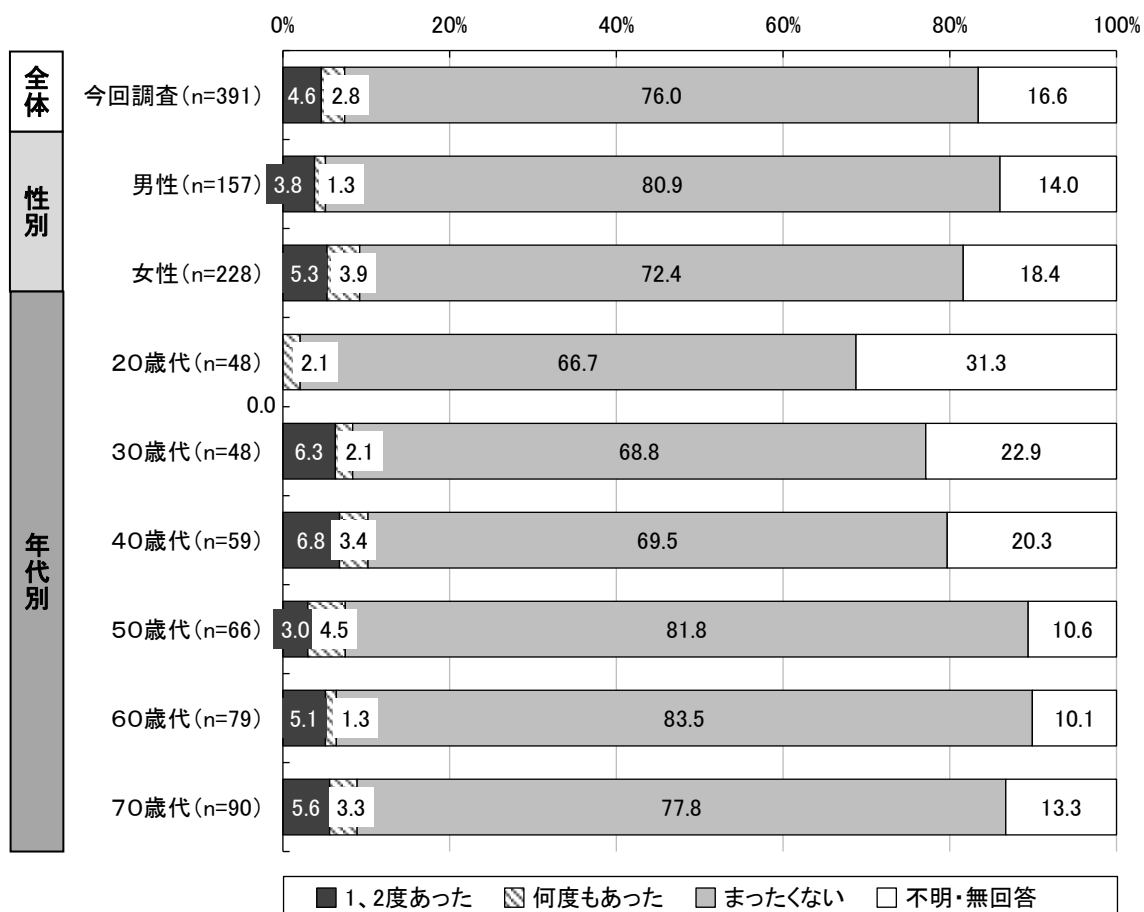


問 14(2)-1 こどもの前でも、上記のようなことがあった

こどもの前で精神的ないやがらせや脅迫を受けた経験の有無についてみると、「まったくない」が76.0%と最も高く、次いで「1、2度あった」が4.6%、「何度もあった」が2.8%となっています。

性別にみると、『経験があった』が、男性で5.1%、女性で9.2%となっています。

年代別にみると、40歳代では『経験があった』が1割台となっています。

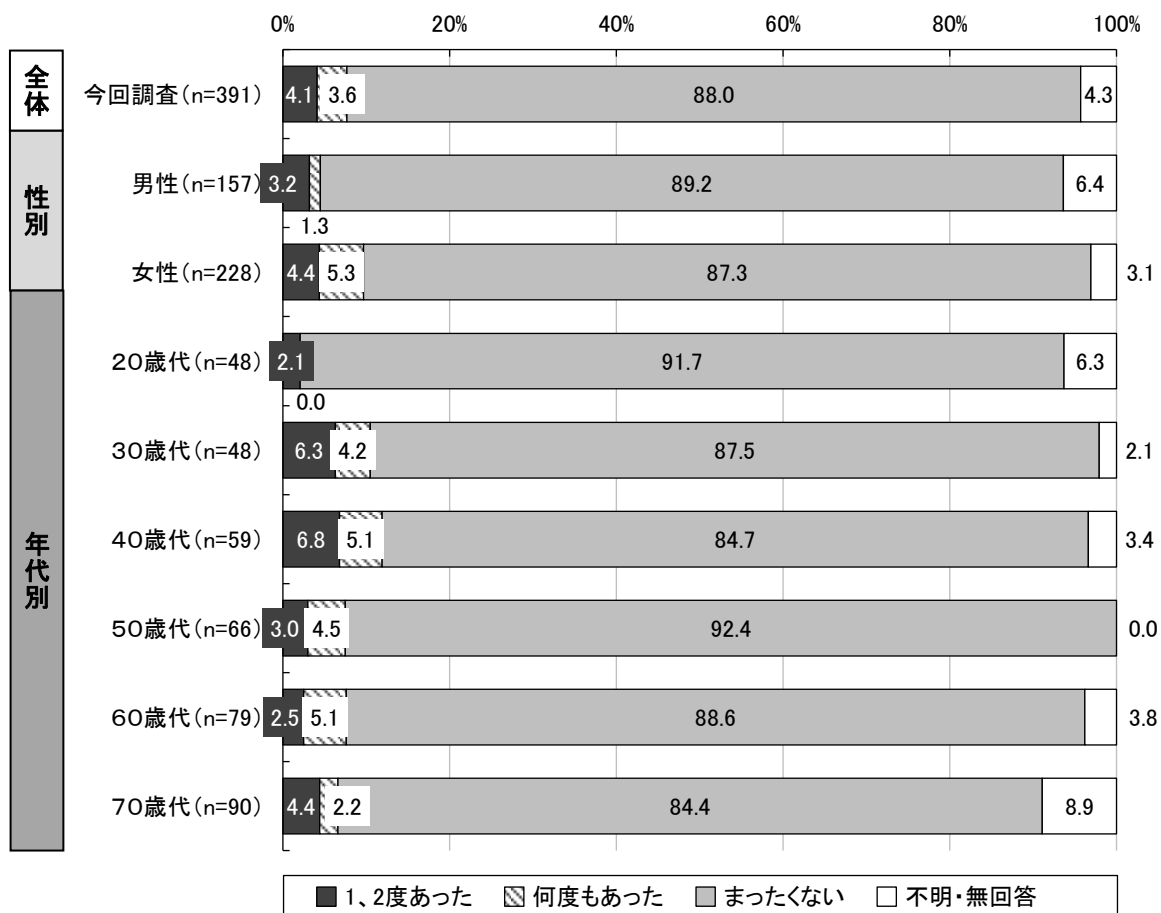


問 14(3) 生活費を充分渡さない、借金を強いる、収入を教えない、家計に厳しく口を出す、などされた

経済的なDVを受けた経験の有無についてみると、「まったくない」が88.0%と最も高く、次いで「1、2度あった」が4.1%、「何度もあった」が3.6%となっています。

性別にみると、『経験があった』が、男性で4.5%、女性で9.7%となっています。

年代別にみると、30歳代、40歳代では『経験があった』が1割台となっています。

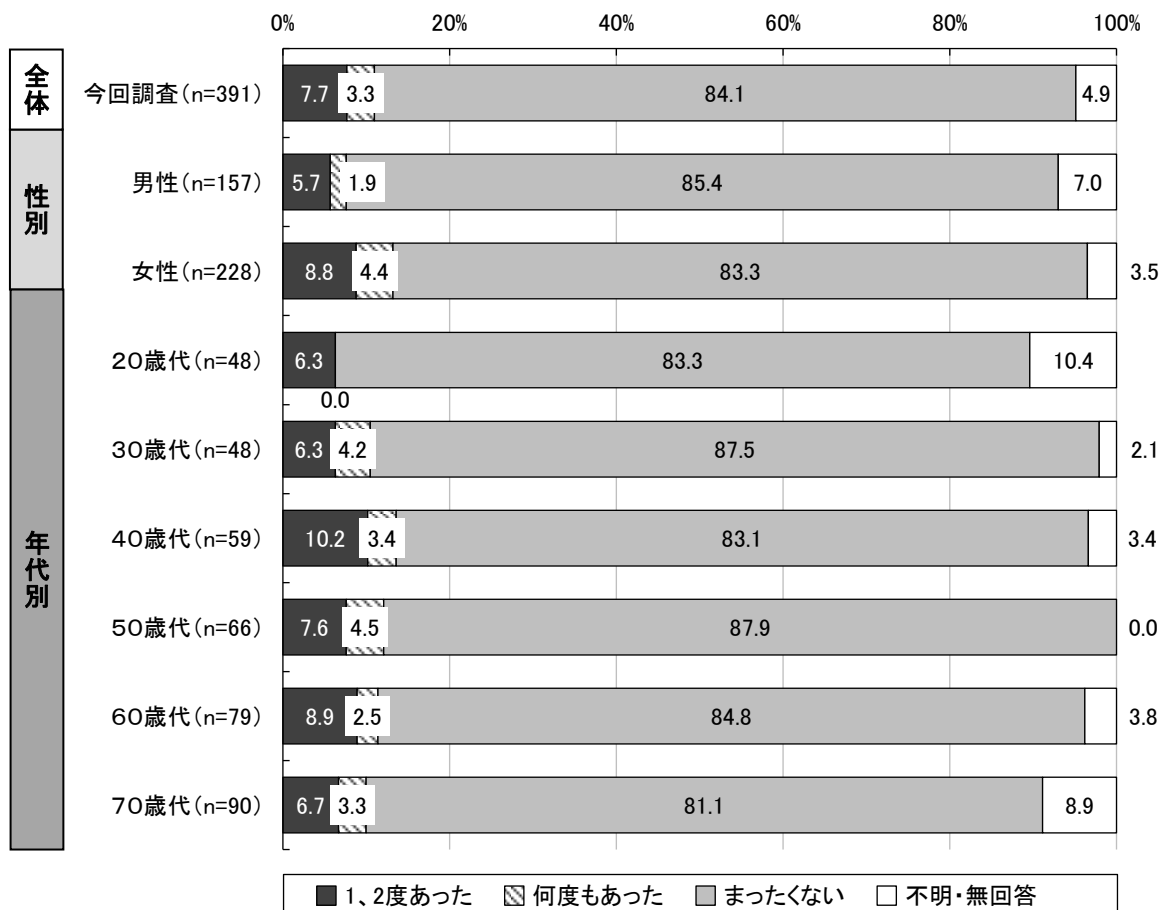


問 14(4)嫌がっているのに性的な行為を強要、また、避妊に協力しないということがあった

性的行為の強要や避妊に協力しなかったことの経験の有無についてみると、「まったくない」が84.1%と最も高く、次いで「1、2度あった」が7.7%、「何度もあった」が3.3%となっています。

性別にみると、『経験があった』が、男性で7.6%、女性で13.2%となっています。

年代別にみると、30歳代以上では『経験があった』が1割台となっています。



問 15 あなたは、セクシュアル・ハラスメント、配偶者等からの暴力を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(3つまで)

セクシュアル・ハラスメント、配偶者等からの暴力を防止するために必要だと思うことについてみると、「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・地域・職場・家庭で充実する」が49.4%と最も高く、次いで「加害者への刑罰を強化する」が48.6%、「被害者のための相談所や保護施設の周知・広報を強化し、整備を図る」が44.8%となっています。

性別にみると、男性では「加害者への刑罰を強化する」、女性では「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・地域・職場・家庭で充実する」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代、50歳代では「被害者のための相談所や保護施設の周知・広報を強化し、整備を図る」、30歳代、40歳代では「加害者への刑罰を強化する」、60歳代以上では「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・地域・職場・家庭で充実する」がそれぞれ最も高くなっています。

単位:%		加害者への刑罰を強化する	加害者の更生を促すカウンセリング	暴力を許さない社会づくりに向けた意識啓発を充実する	被害者のための相談所や保護施設の周知・広報を強化し、整備を図る	あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・地域・職場・家庭で充実する	規定を強化する	テレビ・新聞・雑誌などのメディア	限る	過激な内容の雑誌や貸し出し、制限	その他	特に必要なことはない	わからない	不明・無回答
全体(n=391)		48.6	29.4	34.3	44.8	49.4	15.3	19.2	1.3	2.3	10.2	3.8		
性別	男性(n=157)	51.0	27.4	32.5	41.4	45.2	13.4	17.2	3.2	3.2	15.3	4.5		
	女性(n=228)	47.8	30.3	36.0	46.5	52.6	17.1	19.7	0.0	1.8	6.6	3.5		
年代別	20歳代(n=48)	50.0	25.0	39.6	54.2	45.8	27.1	8.3	0.0	0.0	8.3	2.1		
	30歳代(n=48)	60.4	27.1	22.9	29.2	43.8	8.3	6.3	0.0	4.2	18.8	2.1		
	40歳代(n=59)	52.5	37.3	42.4	44.1	42.4	13.6	20.3	0.0	0.0	11.9	0.0		
	50歳代(n=66)	51.5	31.8	34.8	59.1	53.0	18.2	28.8	1.5	0.0	4.5	0.0		
	60歳代(n=79)	48.1	21.5	36.7	45.6	50.6	12.7	25.3	2.5	2.5	10.1	3.8		
	70歳代(n=90)	37.8	33.3	28.9	36.7	54.4	14.4	18.9	2.2	5.6	10.0	11.1		

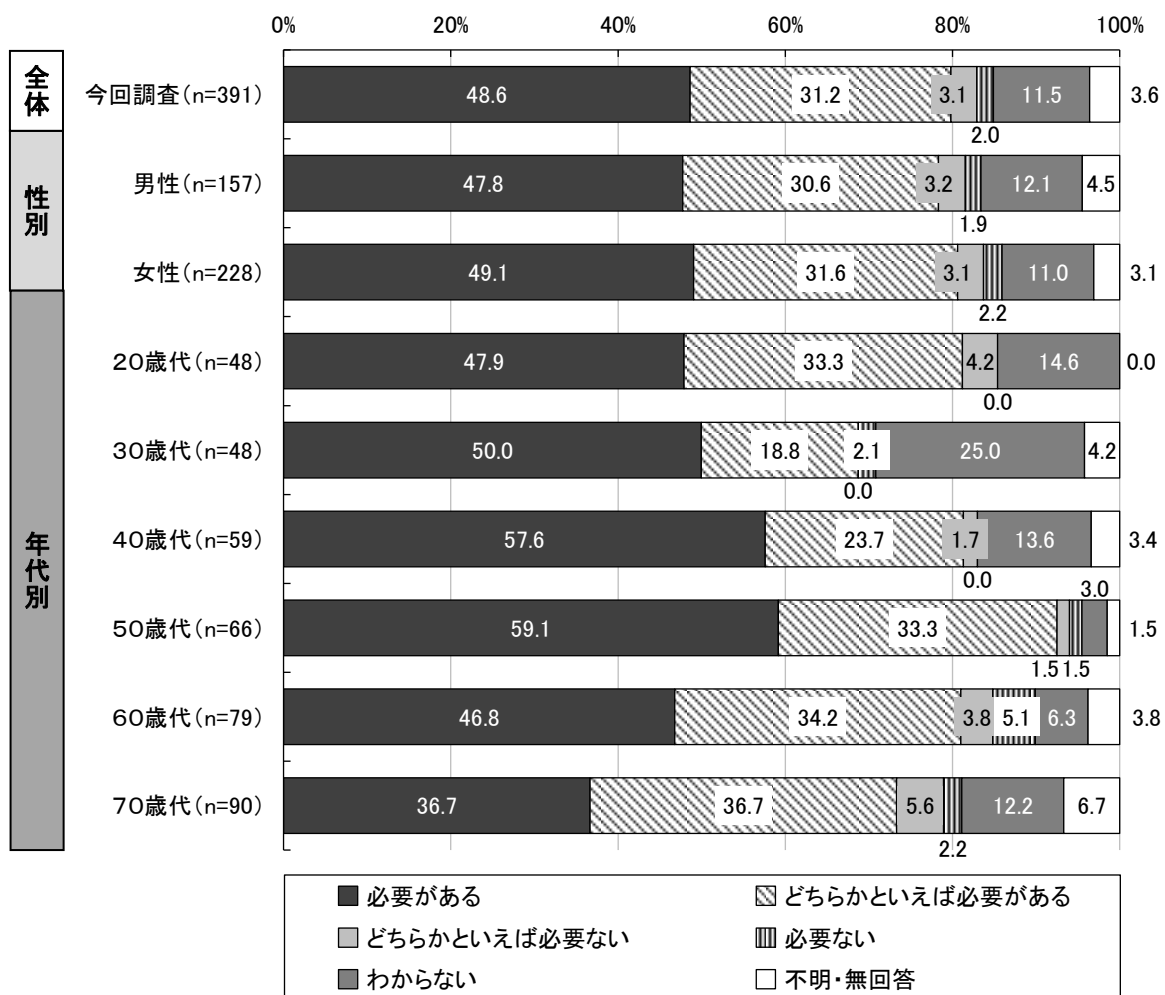
6 防災・災害復興対策について

問 16 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。これについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思うかについてみると、「必要がある」が48.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば必要がある」が31.2%、「わからない」が11.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「必要がある」が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代から60歳代では「必要がある」が最も高く、70歳代では「必要がある」「どちらかといえば必要がある」がともに最も高くなっています。



問 17 防災・災害復興対策における男女共同参画について、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで)

防災・災害復興対策における男女共同参画について、必要だと思うことについてみると、「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室の設置、性犯罪を含む防犯対策など）」が 57.5%と最も高く、次いで「避難所の運営、方針決定などにおいて男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること」が 49.6%、「防災計画・復興対策計画、防災会議に男女がともに参画し、男女両方の視点が入ること」が 47.1%となっています。

性別にみると、男性では「防災計画・復興対策計画、防災会議に男女がともに参画し、男女両方の視点が入ること」、女性では「避難所の設備」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代から60歳代では「避難所の設備」、70歳代では「避難所の運営、方針決定などにおいて男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること」がそれぞれ最も高くなっています。

単位：%		防災計画・復興対策計画、防災会議に男女がともに参画し、男女両方の視点が入ること	対策に本部に男女両方の視点が入ること	対応に男女両方の視点が入ること	避難所の運営、方針決定などにおいて男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること	更衣室、授乳室の設置、性犯罪を含む防犯対策など	避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室の設置、性犯罪を含む防犯対策など）	被災者である男性及び女性の相対的な悩みや問題を女性側の視点から捉え、支援を行うこと	高齢者、障がい者等の視点が入ること	高齢者の救済、医療体制（乳幼児へのサポート体制）	災害時の支援、妊産婦等への対応	その他	特に必要なことはない	不明・無回答
全体(n=391)		47.1	33.0	49.6	57.5	14.8	31.5	37.6	1.5	2.3	4.3			
性別	男性(n=157)	54.8	34.4	52.2	47.1	17.2	23.6	36.3	1.9	3.2	4.5			
	女性(n=228)	41.7	31.6	48.2	64.9	13.6	37.3	38.2	1.3	1.3	4.4			
年代別	20歳代(n=48)	50.0	31.3	41.7	68.8	14.6	45.8	16.7	4.2	0.0	2.1			
	30歳代(n=48)	43.8	31.3	45.8	58.3	12.5	22.9	45.8	2.1	2.1	4.2			
	40歳代(n=59)	45.8	35.6	50.8	59.3	8.5	40.7	39.0	0.0	3.4	1.7			
	50歳代(n=66)	51.5	27.3	48.5	65.2	18.2	28.8	42.4	1.5	3.0	0.0			
	60歳代(n=79)	48.1	38.0	51.9	54.4	15.2	24.1	39.2	1.3	2.5	6.3			
	70歳代(n=90)	43.3	33.3	54.4	47.8	17.8	30.0	37.8	1.1	2.2	8.9			

7 女性の活躍推進・男女共同参画社会づくりについて

問 18 女性の社会進出は進みつつありますが、町内会や自治会の長、審議会委員や議員などには、まだ、女性が就くことが少ないのが現状です。今後、企画や方針を検討していくような場へ女性が参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで）

今後、企画や方針を検討していくような場へ女性が参画していくために必要だと思うことについてみると、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」が52.2%と最も高く、次いで「家族の支援・協力が得られるようにする」が47.1%、「男性優位の組織運営を改める」が41.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」が最も高くなっています。

年代別にみると、40歳代では「家族の支援・協力が得られるようにする」、そのほかの年代では「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」がそれぞれ最も高くなっています。

単位：%		性差別の意識を改める	家庭、職場、地域における役割分担や	男性優位の組織運営を改める	家族の支援・協力が得られるようにする	女性の能力を向上させる機会を増やす	女性のネットワークを支援する	女性の意識を高める	女性の参画を積極的に進めようとする	その他	特に必要なことはない	不明・無回答
全体(n=391)		52.2	41.9	47.1	27.9	28.4	21.0	29.7	2.6	7.2	2.8	
性別	男性(n=157)	54.1	43.3	45.2	26.8	24.2	21.0	32.5	2.5	10.2	2.5	
	女性(n=228)	50.9	41.2	48.7	28.1	31.6	21.1	28.1	2.2	4.8	3.1	
年代別	20歳代(n=48)	50.0	41.7	41.7	37.5	41.7	12.5	37.5	2.1	2.1	0.0	
	30歳代(n=48)	54.2	35.4	41.7	10.4	31.3	8.3	22.9	0.0	12.5	4.2	
	40歳代(n=59)	47.5	47.5	50.8	23.7	20.3	27.1	30.5	3.4	3.4	1.7	
	50歳代(n=66)	57.6	54.5	56.1	22.7	31.8	21.2	13.6	1.5	9.1	0.0	
	60歳代(n=79)	51.9	41.8	44.3	32.9	29.1	24.1	38.0	2.5	7.6	1.3	
	70歳代(n=90)	52.2	32.2	45.6	34.4	22.2	25.6	32.2	4.4	7.8	7.8	

問 19 あなたは、男女がともに社会のあらゆる分野にもっと参画していくために、何が課題だと思いますか。(〇は3つまで)

男女がともに社会のあらゆる分野にもっと参画していくために、何が課題だと思うかについてみると、「偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりの改善」が79.0%と最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実」が46.5%、「女性の意識・能力の向上」が35.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりの改善」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりの改善」が最も高くなっています。

単位：%		法律・制度の見直し	善 念 偏 見 、 慣 習 、 し き た り の 改 善	男性の意識・能力の向上	女性の意識・能力の向上	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実	一定の割合での女性登用	その他	わからない	不明・無回答
全体(n=391)		30.9	79.0	27.9	35.3	46.5	29.4	1.0	7.7	1.5
性別	男性(n=157)	34.4	77.1	27.4	33.1	40.8	35.0	1.3	8.9	1.9
	女性(n=228)	28.1	81.1	28.1	36.8	50.4	26.3	0.9	6.1	1.3
年代別	20歳代(n=48)	31.3	85.4	29.2	33.3	52.1	35.4	0.0	2.1	0.0
	30歳代(n=48)	31.3	75.0	16.7	22.9	39.6	20.8	0.0	12.5	2.1
	40歳代(n=59)	37.3	81.4	39.0	28.8	42.4	25.4	0.0	5.1	1.7
	50歳代(n=66)	34.8	83.3	39.4	40.9	40.9	18.2	0.0	6.1	1.5
	60歳代(n=79)	30.4	82.3	20.3	31.6	50.6	39.2	2.5	8.9	1.3
	70歳代(n=90)	24.4	70.0	24.4	46.7	50.0	32.2	2.2	10.0	2.2

問 20 あなたは、男女共同参画社会の実現を目指して、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきと思いますか。(3つまで)

男女共同参画社会の実現を目指して、今後、市が力を入れていくべきことについてみると、「男女の平等と相互の理解や協力についての意識啓発や広報・PRを行う」が29.7%と最も高く、次いで「長時間労働の見直しや在宅勤務の普及など、働き方に対する意識啓発をする」が28.9%、「市の審議会など、政策・方針を決定する場への積極的な女性の登用を図る」「子育てや介護でいったん仕事をやめた人の再就職を支援するため、就職情報の提供、職業訓練、研修などを充実する」がともに27.4%となっています。

性別にみると、男性では「男女の平等と相互の理解や協力についての意識啓発や広報・PRを行う」、女性では「育児や介護のための施設やサービスを充実する」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、30歳代では「学校教育における男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」「長時間労働の見直しや在宅勤務の普及など、働き方に対する意識啓発をする」がともに最も高く、20歳代、40歳代では「長時間労働の見直しや在宅勤務の普及など、働き方に対する意識啓発をする」、50歳代、70歳代では「子育てや介護でいったん仕事をやめた人の再就職を支援するため、就職情報の提供、職業訓練、研修などを充実する」、60歳代では「男女の平等と相互の理解や協力についての意識啓発や広報・PRを行う」がそれぞれ最も高くなっています。

単位：%		男女の平等と相互の理解や協力についての意識啓発や広報・PRを行う	男性に對し、育児・啓発を行う	女性に對し、積極的な社会参画や就労継続のための教育・啓発を行う	市の審議会など、政策・方針を決定する場への積極的な女性の登用を図る	民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	学校教育における男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	生涯教育や協力における男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	女性や男性の生き方や悩みに対する相談の場を提供する	長時間労働の見直しや在宅勤務の普及など、働き方に対する意識啓発をする	育児や介護のための施設やサービスを充実する	職場における育児・介護休業制度の普及促進を図る	子育てや介護でいったん仕事をやめた人の再就職を支援するため、就職情報の提供、職業訓練、研修などを充実する	その他	不明・無回答	
全体	(n=391)	29.7	16.9	11.8	27.4	13.0	19.9	14.1	13.0	28.9	25.8	19.2	27.4	8.2	2.0	7.2
性別	男性(n=157)	31.8	15.3	13.4	29.9	15.3	17.8	14.6	13.4	28.7	17.8	16.6	20.4	6.4	1.9	10.2
	女性(n=228)	28.5	18.4	11.0	25.4	11.8	21.5	13.6	13.2	28.9	31.6	20.2	31.1	9.6	2.2	4.8
年代別	20歳代(n=48)	27.1	16.7	6.3	18.8	12.5	18.8	14.6	27.1	37.5	31.3	18.8	22.9	16.7	0.0	4.2
	30歳代(n=48)	27.1	10.4	6.3	29.2	10.4	31.3	20.8	6.3	31.3	25.0	22.9	22.9	6.3	4.2	0.0
	40歳代(n=59)	22.0	15.3	11.9	35.6	20.3	22.0	8.5	8.5	37.3	32.2	30.5	15.3	5.1	0.0	1.7
	50歳代(n=66)	28.8	25.8	15.2	22.7	12.1	16.7	7.6	21.2	27.3	21.2	24.2	37.9	10.6	4.5	1.5
	60歳代(n=79)	38.0	21.5	15.2	26.6	19.0	11.4	13.9	12.7	26.6	27.8	17.7	24.1	10.1	1.3	7.6
	70歳代(n=90)	31.1	10.0	12.2	28.9	5.6	23.3	18.9	6.7	21.1	21.1	7.8	34.4	3.3	2.2	20.0

南島原市の男女共同参画社会づくりについて、ご意見やご要望がありましたらご記入ください。

男女共同参画全般
<p>育児や介護、家庭生活全般において、女性の負担が大きいのは周知のことと思います。また、これまでの社会の習慣や家庭生活のあり方等が女性の社会生活への進出や職場における男女の平等、女性の管理職への登用などが遅れている要因ではないかと思われます。男女共同参画社会を早期に実現させるためには、制度の促進や教育、啓発、広報活動等はもちろんのこと、育児や介護等、家庭生活と仕事の両立ができるよう、職場の体制づくりや地域・社会の支援など、社会の環境づくりを先進国に早く追いつくよう積極的に進めていただきたい。</p>
<p>あらゆる事案に男女が平等に参加、権利を有することが日本社会の中で本当に必要なのか、女性にとって幸せなのか？疑問です。グローバルスタンダードと言うけれど…それぞれ女性の中にもいろいろな意見があると思います。</p>
<p>市民の男女共同参画社会づくりへの意識がとても低い。「一歩進めるための取り組みはどうしたら良いか」について、今後考える必要がある。高齢者（自分も含めて）は思い込みが強いので若い人たちの意識を高めていく取り組みに期待します。</p>
<p>このようなアンケートに選んでいただきありがとうございます。南島原市でもまだまだ男社会かなと思う時が多々あります。こんなふうには思わなくても社会全体がまわると良いですね！</p>
<p>何でも無理しないで自然にまかせる。それでなくても母は強し。</p>
<p>ドラマ「ミステリと言う勿れ」で主人公が言ったセリフです。「メジャーリーガーは子どもの成長に立ち合うことを父親の権利だと思い、日本人野球解説者は（男性が子育てに関わることを）義務だと思っている」昔はそうだったと思うけど、今は父親が学校イベントに参加することがこの南島原市でも増えたように思う。もちろん仕事で参加できないお父さんもいますが、義務とは思わず当然の権利と思えば子どもが成長した時の関係も違ってくると思います。女性だけのための改善ではなく、男性のためにも前に進んでいけば良いなと感じています。</p>
男女の役割分担や性差
<p>男性がお酒を飲んで、女性がその準備や片付けをして、という地域や親戚の集まりにはうんざりしていますが、年配の女性にとっては「面倒だけど当たり前」のことで、面倒だから次は若い人や嫁にその役割を引き継ごうとされます。辟易していますが、ある年代以上の方にはそれが普通の価値観であり、誤っているわけではないので修正できるものでもないのだと思います。若い世代、次の世代から変えていくしかないのかもしれないかもしれません。教育・啓蒙・空気づくりを意識していけば自分の代では無理でも長い目で見たら変化していくかもしれませんね。</p>
<p>男女共同参画社会づくりには賛成ですが、日本の歴史の中、まだまだ女性の学歴等は同等でしょうか。決断力・判断力・広い視野・包容力・危機管理能力…等々追いついていない分があります。小さい頃からの教育（平等）などが積み重なって成し遂げられるものと思います。安易な考えで同等と走らないこと、育てることが重要だと考えます。女性は「女だから…」と都合良く逃げることも事実です。でも女だから見えることもあるというのも事実です。急ぎ過ぎないで長い目で女も男も自覚を持って新しい時代をつくってほしいです。</p>
<p>日本は欧米諸国に比べて男女間の格差が大きいと思われます。それは日本という国の歴史の流れに由来するので、変化を望むのであれば改革が必要だと思います。</p>

<p>日本は欧米諸国に比べて男女間の格差が大きいと思われます。それは日本という国の歴史の流れに由来するので、変化を望むのであれば改革が必要だと思います。</p>
<p>女性の参画・登用</p>
<p>雇用保険に加入できない人（事業主など）も育休が取れるような保障があると良い。役員や理事は一定の割合で女性が入れるような仕組みづくりをすることが大切。</p>
<p>市議会に女性を増やすことから。</p>
<p>まずは市議会から男女共同参画。女性が選挙に立候補しやすい土壌、様々なサポート体制を実施でき、実際に女性の議員が増加できれば社会も変化してくる気がする。</p>
<p>国会議員や地方議員の割合があまりにも少ない。男女共同参画社会をつくるなら法律を変えて選挙はお金がかからない方法で、女性の割合をせめて2割～3割くらいにしないと変わらない。育児と介護休暇は必要だと思うが、仕事を長期に休まれると中小企業の職場は成り立たないと思うので、時短を男女に認めてほしい。</p>
<p>家庭と仕事の両立</p>
<p>現在子育ての真っ最中なのだが、男性が育児休業を取得するのは職場や社会の雰囲気の中で非常に取得しづらい状況である。希望ではなく義務として取得しなければならないような制度にでもしないと、今の状況は変わらないと思う。</p>
<p>今は若い働き手がどこを探しても見つかりません。子育てしていても女性が働きやすい環境と周囲の協力が必要です。あとは「地元で働いても良いことがたくさんあり楽しい！」と若い方たちに思っていただけよう賃金のベース up が必要だと思います。</p>
<p>子育て中は急な休みなどもあり、しっかり働けない。働きにくい。休みにくいので。</p>
<p>女性だけでなく、男性の育休などの取得は少ない傾向にあると思います。共働き世帯が増える中、仕事と家庭の両立はなかなか厳しいものがあります。育休・介護休暇等が取りやすいか否かは、企業の考えに依存しています。育休取得の厳則化のように少しでも強い法律等ができれば幸いです。</p>
<p>国会議員や地方議員の割合があまりにも少ない。男女共同参画社会をつくるなら法律を変えて選挙はお金がかからない方法で、女性の割合をせめて2割～3割くらいにしないと変わらない。育児と介護休暇は必要だと思うが、仕事を長期に休まれると中小企業の職場は成り立たないと思うので、時短を男女に認めてほしい。（再掲）</p>
<p>行政への要望や施策</p>
<p>生活環境の改善（相対的貧困家庭の改善を）。今も昔も生活苦からDVなどが発生。</p>
<p>老若男女がいつでも寄れる場所があったら良いなと思います。</p>
<p>市の男女共同参画計画の周知を図っていくべきだと思う。こういったものがあることを知らない市民がほとんどではないか。目標を市民が共有することから始まると思う。</p>
<p>学童施設が少なく預けるところがないので、フルタイムで働くことが難しい。ネットの普及も少ないので情報がほとんど得られない。今の時代はみんなネットで情報を得るのに全然情報がないし、聞くこともできない。役場の理解もいまいちで、市外から来た人はみんな困惑すると思う。親戚がいないとほとんど情報もないし住みにくい。もっとわかりやすくHP等を改善してほしい。</p>
<p>子どもの教育で男女の差別をなくす教育内容を充実させる必要があると思う。男女ともに参加できる育児の相談会や育児教育などを企画してPRすると良いと思う。地方自治体の性差をなくすのは都市に比べて大変だと思いますが、良い政策が出てくることを期待しています。</p>

その他

今は女が男らしく、男が女らしくなっている。女性の役職が多く、私たちの職場も管理者は全部が女性である。男性のみなさんももう少ししっかり仕事をしてほしい。責任感を持って、男らしい人間になってください。

いつも南島原市のためにいろいろ考えていただきありがとうございます。より良い市となりますように！男女ともに生活しやすい市でありますように。

アンケートは無意味だと思う。

四苦八苦しました。アンケートの活用をお願いします。お疲れ様です。

これは何にもならない？

若者の働きやすい職場が増えると、もっと人口が違ってくるのでは…。

男女共同も大事で、高齢者への配慮もすごく必要だと思いますが、若い人たちにもう少し目を向けてほしいと思います。

特になし。（4件）

「第4次南島原市男女共同参画計画」
策定にかかるアンケート調査
結果報告書

発行：南島原市 市民生活部 市民課 市民班
TEL：0957-73-6647
FAX：0957-82-3086

発行年月：令和4年6月